取扱説明書

Maxi Sky 2

001-15698-JP Rev 15 • 02/2023

arjo
EMPOWERING MOVEMENT

警告

怪我を避けるため、製品を使用する前に必ず本取扱説明書及び付属の文書をよくお読みください。

本取扱説明書を必ずお読み下さい。

意匠方針と著作権
® および ™ は Arjo グループ会社に属する商標です。
© Arjo 2023 年。
当社は継続的改善を方針として掲げているため、事前の通知なしに設計・デザインを変更する場合があります。
本書の内容の全部あるいは一部を Arjo の同意なしに複写することはできません

目次

はじめに 5
このたびは Arjo 設備機器をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。 5
この取扱説明書をよくお読みください！ 5
サービスおよびサポート 5
製造元情報 5
この取扱説明書で使用する定義 5
安全の手順 6
使用目的 6
想定製品寿命 6
安全に関する重要な注意事項 6
一般的な注意事項 7
安全耐荷重 (SWL) 7
バッテリーと充電器の安全対策 7
感電防止 7
防火および防爆 7
人と環境の安全対策 7
製品の説明 8
Maxi Sky 2 8
ラベルと記号 10
ハンドコントロール 2- 機能 11
手元スイッチ 11
赤外線リモートコントロール 11
コントロールパネル 12
表示記号 13
充電システム 14
充電ステーションシステム (C-Stat) 14
KWIKtrak™ エンハンスド充電システム (ECS) 14
壁設置型充電システム (WCS) 14
準備 15
梱包内容の確認 15
使用する前に 15
日付 / 時間の設定 15
初めて使用するにあたり 16
使用するにあたり 16
カスタマイズ 17
カスタマイズモードへの手順 17
プログラム可能な項目 17
Maxi Sky 2 シリーズ天井走行リフトの使用 18
操作方法と機能 18
スリープモード 18
操作方法 18
充電に復帰 (RTC) / ホームに復帰 (RTH) 18
使用頻度の確認 19
使用頻度データの表示 19
緊急下降のメカニズム 20
緊急ブレーキ 20
バッテリー情報 21
バッテリーの充電方法 21
スプレッダーバーおよび体重計の取り付け / 取り外し 24
スプレッダーバーおよび体重計の取り付け / 取り外し （ベーシック天井走行リフトモデルのみ） 27
クリップスリングの用途 28
クリップスリングの互換性 28
スリングの選択 28
スプレッダーバーの互換性 29
取り付け点 29
スリングの DPS への取り付け 30
DPS からスリングの取り外し 30
DPS および PDPS の操作 31

クリップスリングを使用した患者の移乗 31
座位姿勢からの患者移乗 *31*
仰臥位姿勢からの患者移乗方法 *33*
ループスリングの用途 35
ループスリングの互換性 35
スリングの選択 36
スプレッダーバーの互換性 37
スプレッダーバーへのスリングの取り付け方法 38
スプレッダーバーからのスリングの取り外し 38
ループスリングを用いた患者移乗 39
患者様の位置決め 39
取り付け点 *40*
座位姿勢からの患者移乗 *41*
仰臥位姿勢からの患者移乗方法 *43*
体位変換 *45*
歩行訓練 *47*
仰臥位姿勢での患者移乗方法 *48*
ストラップストレッチャーを使用した利用者様の持ち上げと移乗 *49*
肢サポート *49*
モルグストレッチャーの適用 51
スプレッダーバーの互換性 51
付属品の使用方法 52
居室・病室の評価 52
KWIKtrak™ 付属品 52
X-Y レールシステムの使い方 *53*
ゲートの使用方法 *53*
エクスチェンジャーの使用方法 *54*
Turntable 付属品の使用方法 *55*
PPP の使用方法 *55*
保守・点検とメンテナンス 56
洗浄 56
リフトと付属品の洗浄 *56*
消毒 57
リフトと付属品の消毒剤 *57*
付属品の消毒剤 *58*
取り扱い、運搬および保管 *59*
バッテリーの交換 *59*
年次点検 *59*
ストラップの点検 *59*
メンテナンス要件 *59*
メンテナンス計画 *59*
本リフトの点検 *60*
付属品の点検 *61*
レールの点検 *61*
トラブルシューティング 62
技術仕様 65
製品寸法 65
Maxi Sky 2 ..... *65*
ループスリングスプレッダーバー（ベーシック天井走行リフトモデルのみ） *65*
体重計 *66*
ループスリングスプレッダーバー *66*
DPS スプレッダーバー *67*
モルグストレッチャー 68
Maxi Sky 2 ポータブル型 68
受け取りモジュール 68
技術データ 69
承認および規格リスト 70
寿命後の安全な廃棄 70
電磁コンプライアンス 70
電磁エミッション 71
電磁イミュニティ 72

はじめに

このたびは Arjo 設備機器をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この Arjo Maxi Sky® 2 は、医療施設や介護施設での使用を目的として設計された高品質天井走行リフトシリーズの一部です。

当社はお客様のニーズにお応えすることに専念しており、最高の製品とともに、お客様のスタッフが Arjo 製品から最大のメリットを引き出せるよう、製品トレーニングも提供しております。

Arjo製品の使用または保守に関するご質問に付きましては、当社にお問い合わせください。

この取扱説明書をよくお読みください！

この取扱説明書の情報は、*Maxi Sky 2* の適切な操作と保守に関して必要不可欠です。本製品の保護に役立つばかりでなく、満足できる性能を発揮することを確保する上でも有効です。

人の持ち上げ動作と移乗には常に危険が伴います。この取扱説明書には安全管理に関する重要な情報が含まれていますので、怪我を防止する為にも、よく読んで理解しておく必要があります。

警告：Arjo は、**Arjo** が指定する部品のみを **Arjo** が供給する製品および他の機器に使用するよう強く助言及び警告いたします。不適切な部品を使用すると、怪我を引き起こす可能性があります。

警告：Arjo 製品に加えられるいかなる不正な変更も、その安全性を損なう恐れがあります。**Arjo** は、その製品に加えられた不正な変更の結果、生じるいかなる事故または不具合について、責任を問わないものとします。

医療機器もしくは福祉機器に関連して、お客様または患者様に影響する重大な事象が発生した場合、ユーザまたは患者様は、その事象を医療機器製造元あるいは販売元に必ず報告してください。欧州連合では、ユーザは、重大な事象を居住する加盟国の所轄官庁にも報告してください。

サービスおよびサポート

*Maxi Sky 2*は定期的に有資格のサービス員による保守点検を実施する必要があります。これにより、本製品の安全性と機能が担保されます。本取扱説明書の 「 リフトの洗浄」セクションを参照してください。

より詳細な情報が必要な場合、本リフトの性能の変化に気づいた場合、予想外の出来事が起こった場合、または *Maxi Sky 2* の設定、使用または管理に関してサポートが必要な場合は、最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。当社代理店では、本製品の長期的な信頼性、安全性と価値を最大化する包括的なサポートおよびサービスプログラムをご用意しております。

本取扱説明書の複本は最寄りの Arjo 代理店から入手可能です。ご注文の際は、*取扱説明書*の製品番号 001-15698 をご提示ください。

製造元情報

この製品の製造元：
ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö
SWEDEN （スウェーデン）

☎ ： +46 (0) 10-335 45 00
🖷 ： +46 (0) 413-138 76
🌐 ： www.arjo.com

この取扱説明書で使用する定義

警告：

意味：これらの使用方法や注意事項をよく理解し、かつ従わなければ、使用者自身および利用者様の怪我の原因となることがあります。

注意：

意味：これらの注意事項に従わなければ、本製品の不具合を引き起こすことがあります。

注記：

意味：これは、本製品の正しい使用に関する重要な情報です。

安全の手順

使用目的

Maxi Sky® 2 シリーズの天井走行リフトは、病院、介護施設、長期ケア、個人宅を含む在宅ケア環境の介護者を支援できるように設計されています。この機器は、以下によって理由で運動性が低下した患者様を持ち上げるように設計されています。

- 椅子、車椅子、ベッド、浴槽、トイレ、床、またはストレッチャーなどへ（から）の移乗
- リハビリ訓練を受ける患者様のサポート
- 排泄介助やベッド上での体位変換などの介助補助作業

患者様のリフティングおよび / または移乗は、本取扱説明書の指示に従って、訓練を受けた介助者が行う必要があります。

警告：この製品は、患者様自身や利用者様自身が操作するように意図されていません。極めて稀な故障状況により、患者様が本製品内で動きが取れなくなるような事態が発生することもあります。

警告：*Maxi Sky 2* は、上記の理由・目的のためだけに使用してください。 また、 有資格担当者が地域の規定、条例ならびに Arjo の一般的ガイドラインに従って取り付けなければなりません。本リフトは他のいかなる目的にも使用しないでください。重篤な怪我を負う可能性があります。

想定製品寿命

*Maxi Sky 2*シリーズの天井走行リフトは、適合性のあるキャリーバーを使用した場合、利用開始から 10 年もしくは 20,000 サイクル （最大荷重 272 kg）のいずれかが先に到達した期間まで、製品仕様を満足して使用できるように設計されています。

但し、「保守･点検とメンテナンス」セクションで規定されている予防保全を前提条件としています。

以下の表は、 1 日あたりのサイクル数に対して、相当する年数を示します。1 サイクルとは、60 cm の上昇動作、横方向変位（移動）および 60 cm の下降動作を含む、272 kg の荷重の移動として定義されます。

平均サイクル数（1 日あたり）	年数（移乗回数 20,000 回）
5.5	10
8	7
10	5.5

警告：製造元は、想定製品寿命が過ぎているリフト本体やアクセサリーの完全な安全性を保証することはできません。部品の摩耗は製品本体やアクセサリー不具合を引き起し、患者様が落下する原因となることがあります。

バッテリー、ヒューズ、スリング、ストラップおよびコード（紐）などの消耗製品の期待される想定製品寿命は、本製品のメンテナンスと使用方法によって異なります。これら消耗品は、既刊の*取扱説明書*および 「保守･点検計画」に従って保守される必要があります。

安全に関する重要な注意事項

警告：Arjo は、リフトストラップ、手元スイッチのケーブル、その付属品のケーブル、または緊急プルコードに関連する巻き込み事故の危険性があることを警告し、これらの事故を未然に防ぐため必要な予防措置を取るように忠告します。

注記：Arjo リフトは、特に KWIKtrak™ 天井レールシステム、Arjo スリングおよび付属品用に設計されています。また、付録 001-14250 で指定された他のトラックシステムと互換性があります。

注意：リフトのすべての部品は清潔で乾燥した状態に保ってください。本製品の誤動作を避けるため、「リフトの消毒・洗浄」セクションで指示されているように電気的・機械的安全性チェックを行ってください。

この取扱説明書は本製品の近くで保管し、必要に応じて参照してください。これらの情報に従って、すべての使用者が必ず定期的に本製品の研修を受けるようにしてください。

注意：内部損傷を防ぐため、製品本体やバッテリーを落とさないでください。リフトに損傷の疑いがある場合は、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。

すべての制御機能および安全機能は、この取扱説明書に規定されている内容に従ってのみ使用してください。本製品の安全制御やボタンを、無理に力ずくで操作することは絶対にしないでください。

一般的な注意事項

安全耐荷重 (SWL)

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトは、最大持ち上げ能力 272 k g で設計されています。

SWL は、低荷重能力のレールシステムに適応させるため、 200 kg または 120 kg に下げることもできます。

警告：*Maxi Sky 2* は、体重が特定された安全耐荷重範囲内にある患者に使用するよう意図されています。以下に表示されている体重制限を超える重量の持ち上げを試みないでください。

- レールシステム
- 本製品上の 「最大安全耐荷重」ラベル
- スプレッダーバー
- その付属品
- スリング

これらの要素のいずれかに過重量をかけると、患者様の落下や傷害の原因となることがあります。

バッテリーと充電器の安全対策

注意：バッテリーコネクタやバッテリー充電器を水にさらさないでください。充電器は、乾燥した場所および通常の湿気状態の場所を念頭に設計しています。

- 本製品に同梱されている充電器だけを使用してください。
- 換気されていない場所では、本バッテリーを充電しないでください。
- 本充電器をカバーしたり、埃にさらさないでください。
- バッテリーへの衝撃、絶縁破壊、開蓋、分解、機械的な妨害を行わないこと。
- 70ºC 以上の環境下でリフトを保管しないでください。
- バッテリーに損傷や変形がある場合は、使用を中止してください。使用を再開する前に、その旨を有資格担当者に連絡してください。
- コンセントへのアクセスが限定され、接続を外すことが困難な場所には、本充電器を設置することは避けてください。

感電防止

- 製品の導体または損傷した電源コードが使われている場合、直接触れたり、製品を使用したりしないでください。その場合は、ただちに最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。
- 本製品、バッテリーまたは充電器の暴露、サービスまたは修理を試みないでください。製品が正常に機能しない場合は、最寄の Arjo 代理店にご連絡ください。

防火および防爆

注意：本バッテリーを直射日光のあたる場所や熱源の近くに配置したり、保管したりしないでください。

注意：バッテリーまたはバッテリー充電器を火気に近づけないでください。バッテリーや充電器から化学物質が漏れ出す可能性があります。

注意：可燃性麻酔薬ガスがある場所で、本充電器を使用しないでください。麻酔ガスは可燃性です。本充電器内部で火花が発生し、内部破壊を引き起こす可能性があります。

- 本バッテリーの端子間を短絡させないでください。
- 本バッテリーを焼却しないでください。

人と環境の安全対策

- バッテリーハウジングに亀裂が入り、バッテリー内容物が皮膚または衣服と接触する事態が生じた場合は、ただちに水で洗い流してください。バッテリーの内容物が目に入った場合は、ただちに多量の水で洗い流して、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの内容物を吸引すると、呼吸器系に刺激を引き起こす可能性があります。ニッケル過敏症の方はアレルギー性喘息を引き起こす可能性があります。新鮮な空気を吸い、医師の診断を受けてください。
- バッテリーのリサイクルと廃棄に関しては、 WEEE 指令 （廃電気電子機器）の規定ならびに現地の地方条例に従ってください。規定や法令を遵守しない場合は、バッテリーの爆発、漏出および怪我を引き起こすことがあります。バッテリーを返送する場合は、その端子間を接着テープで絶縁してください。さもなければ、その使用されたバッテリー内部の残留電気により、火災や爆発を生じることがあります。下図 1 は、廃棄記号とリサイクル記号を示します。

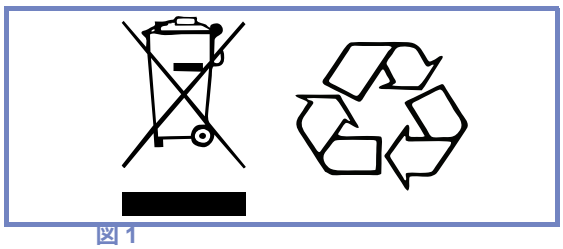


図 1

製品の説明

Maxi Sky 2

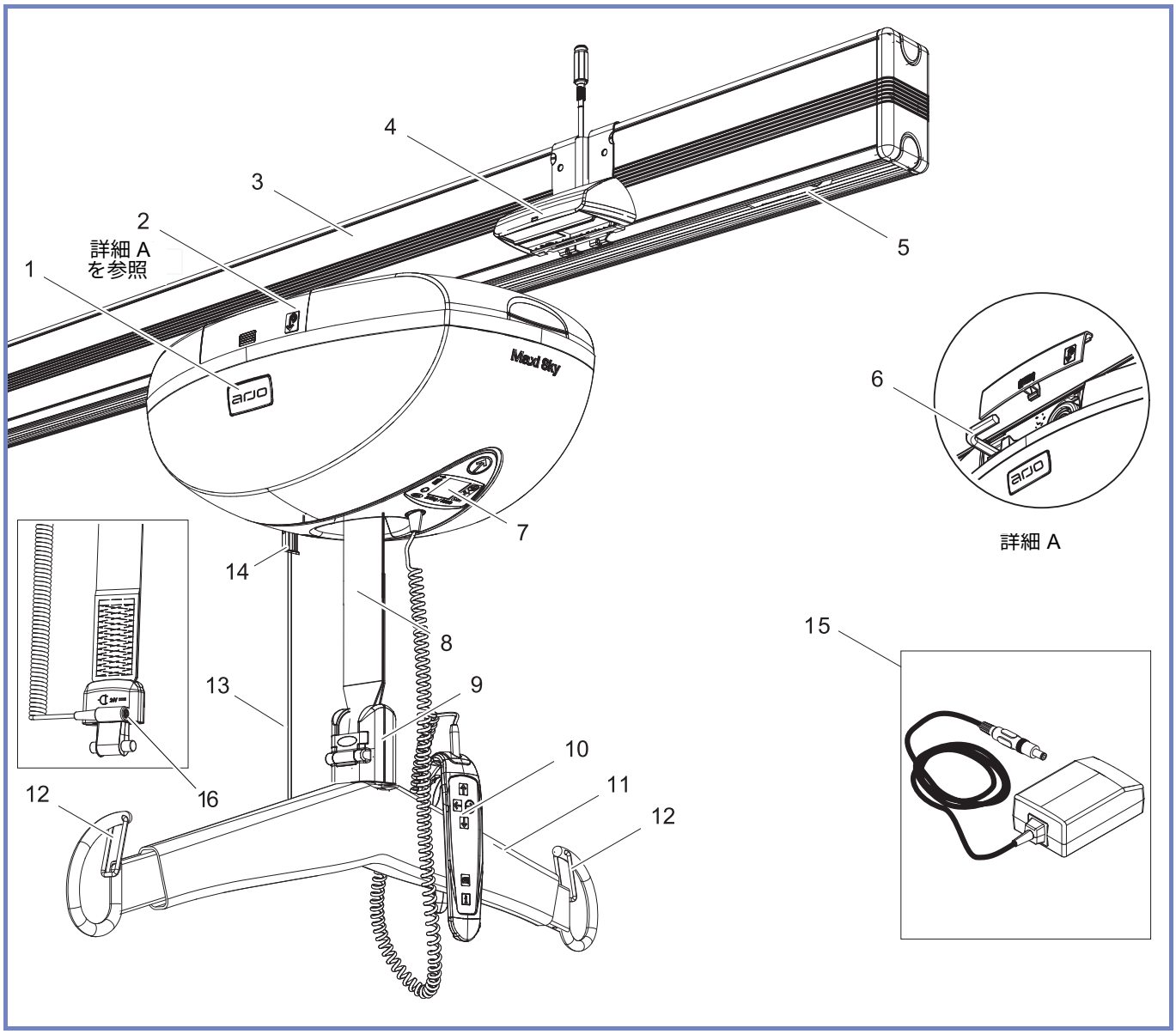
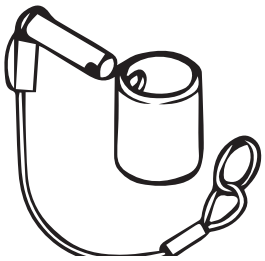


図 2

1) リフト
2) 手動緊急下降メカニズムへのアクセスドア
3) *KWIKtrak*™ レール
4) 充電ステーション*
5) レールエンドストッパー
6) 六角レンチ
7) コントロールパネル、補助用上昇・下降ボタン
8) ストラップ
9) スプレッダーバーの取り付け
   - Quick-Connect™ （上図に示された*天井走行リフト*モデルおよび*感染管理天井走行リフト*モデル）
   - クレビスピン （下図に示された*ベーシック天井走行リフト*モデル）



10) ハンドコントロール
11) スプレッダーバー
12) ラッチ
13) 赤の緊急停止コード
14) 電源投入スイッチ - 緊急停止スイッチを押す - 引く
15) ユニバーサル充電器
16) WCS コネクタ **

* ECS または WCS を搭載するリフトには適用しません。
**WCS を搭載するリフトにのみ適用されます。

ページは意図的に空白にしています

ラベルと記号

一般

この記号には、製造日を示す日付とメーカーの住所が付いています。

欧州共同体統一法への適合を示す CE マーキング。

この記号は、カナダ規格協会 (CSA) の認証を示してます。

この記号は、Technischer Überwachungs-Verein の認証を示してます。

この記号にはメーカーのカタログ番号が付いています。

この記号にはメーカーの製造番号が付いています。

電気・電子機器廃棄物 (WEEE) - 一般的な家庭ゴミまたは商業ゴミと一緒に本製品を廃棄しないでください。

機器固有識別子 (UDI)

この記号は、リサイクル可能な材料を特定します。

この記号は、挟まれ事故の危険性があることを示します。

この記号は、 IEC60601-1 規格に基づく感電に対する BF 型保護を示しています。

$IP_{N_1N_2}$

筐体による保護等級。
N_1：粒子の侵入、
N_2：水の侵入。

これらの記号については*取扱説明書*を参照してください。

SWL

安全耐荷重は、本リフトの安全操作のための最大定格負荷を表しています。

この記号は、本製品上の手動緊急下降機能の位置を示します。

これらの記号は、手元スイッチの横方向変位 （移動）ボタンを参照しています。

直流 (DC)。

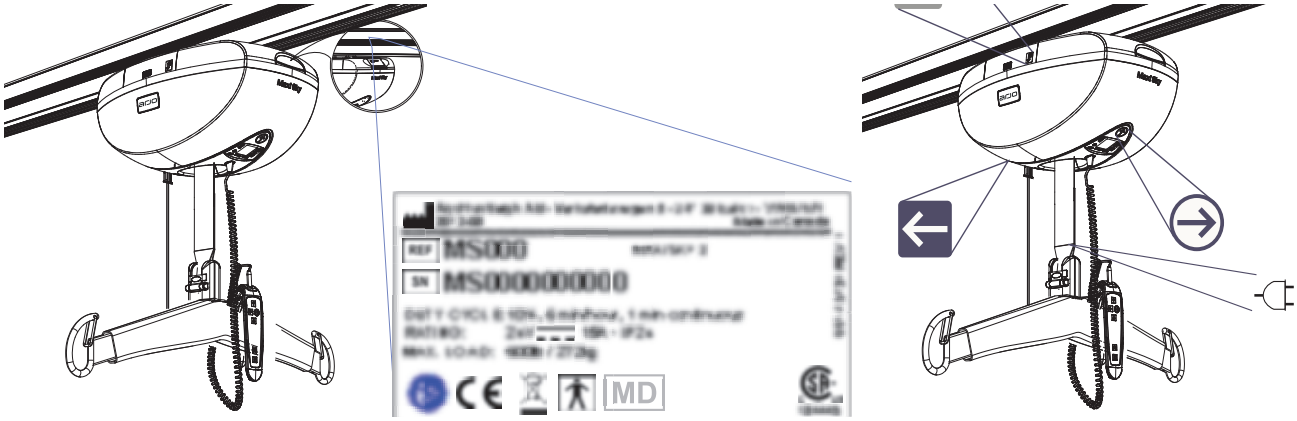
交流 (AC)。

壁設置型充電システム (WCS) 充電ポート

バッテリー充電器関連

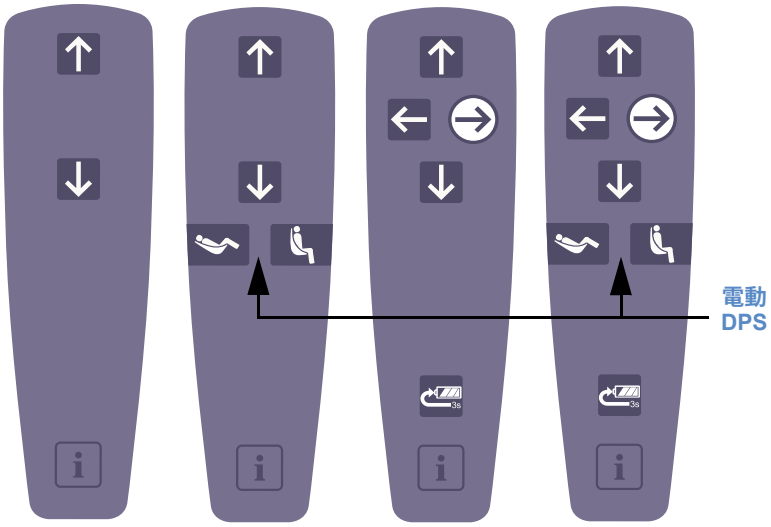
この記号はクラス II 電気機器：これは感電に対する保護が基礎絶縁だけに依存しない電気機器を示す用語です。

本製品が EU 医療機器規制 2017/745 に準拠した医療機器であることを示します。

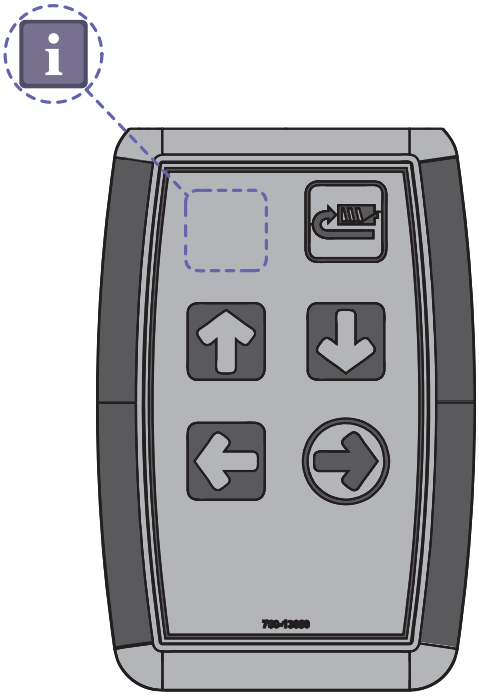


ハンドコントロール

手元スイッチ



赤外線リモートコントロール



アイコン	ボタンの説明	2方向-機能	4方向-機能	赤外線
	上昇ボタン	✓	✓	✓
	下降ボタン	✓	✓	✓
	右ボタン		✓	✓
	左ボタン		✓	✓
	リクライニングボタン	✓*	✓*	
	座位ボタン	✓*	✓*	
	RTC （充電リターン） RTH （ホームリターン）ボタン		✓	✓
	プログラム設定 / 情報ボタン	✓	✓	✓ （ラベルなし）
* 電動 DPS オプション付き				

詳しくは、 18 ページの 「操作方法と機能」セクションを参照してください。

警告：コードが伸びきった状態では、絶対に手元スイッチから手を離さないでください。他者への怪我を引き起こす可能性があります。未使用時には、手元スイッチをスプレッダーバーに差し込んで、置いてください。

コントロールパネル

コントロールパネル

本コントロールパネルでは、以下に関連する情報をユーザーに提供することを目的として、いくつかの要素が再編成されています：

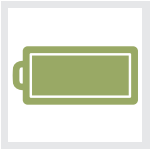
- コマンドの応答
- 保守要件
- カスタマイズメニュー
- ステータス LED
- USB アクセスポート
- 補助の上昇 - 下降ボタン

補助の上昇 - 下降ボタン

- ↑ および ↓ ボタンは、操作中に手元スイッチに問題が発生した場合に移動を完了するために使用されます。

ステータス LED

- LED は、画面上にメッセージが表示されていることで使用者の注意を引いて、表示を補完するものです。
- LED が緑に点滅している場合、充電中であることを示し、バッテリーが満充電されると緑に点灯します。
- LED は、異常な状況が発生すると赤色に点灯します。
- 有効 / 無効パラメータを設定するには、「カスタマイズ」セクションを参照してください。



ディスプレイ

- これは、直感的なアイコンによって、本リフトの様々なステータスを使用者に知らせるメッセージセンターでもあります（詳しくは「表示記号」を参照）。

SWL 定格

- このラベルは本リフトの最大持ち上げ能力を示します。
- Maxi Sky 2 は、 3 通りの異なる最大体重設定で操作できるように構築されています。
  - 120 kg
  - 200 kg / 440 lb
  - 272 kg

USB アクセスポート

- USB ポートは MAXISMART ユーザー専用です。使用履歴データのような特定機能へのアクセスを可能にします。

ビープ警告音

- 本コントロールパネルには、コマンドを確認したり、または画面上にメッセージが表示に対して使用者の注意を喚起するためにビープ音をにてお知らせする機能も装備されています。

表示記号

以下は、ディスプレーに現れるすべての記号の説明です。

バッテリー充電レベル

- 異なる充電レベルのバッテリー記号で表示します。これらの記号は、通常の充電システムまたは壁設置型充電システムを搭載したユニット用のバッテリーに関する状態を示します（詳しくは、 21 ページの「バッテリー情報」および「バッテリーの充電」を参照）。

ECS 表示

- 拡張充電システム (ECS) オプションを装備したユニットでは、この記号は天井走行式リフトが充電モードにあるときに表示されます。

RTC （充電リターン）

- この記号は、 RTC 機能が手元スイッチによって起動された時に示します。

RTH （ホームリターン）

- この記号は、 RTH 機能が手元スイッチによって起動された時に示します。

PPP

PPP （事前プログラム位置）

- この記号は、 PPP 機能が手元スイッチによって起動された時に表示されます。

過剰デューティサイクル

- この記号は、本リフトが冷却されることなく、長時間にわたって使用されると点滅します。この安全機能は、損傷を防ぐため、推奨デューティサイクルを超えて使用されている場合、これらの機能 （上昇、座位 / 横臥位または左 / 右）を無効にします。
- 過熱保護機能が起動されると、デューティサイクルを超えた場合、これらの機能は無効になりますが、他の機能は動作可能です。
- 冷却期間中、赤ランプは点灯状態を維持します。さらに、ビープ音が 1 回鳴ります。

一般的な誤動作 （数字付きの警告記号）

- この記号は、本リフトに誤動作が生じると点滅します。
- 本リフトは、有資格のあるサービス担当者が点検 / 修理を行う必要があります。
- 赤ランプは点灯状態を維持し、ビープ音が 1 回鳴ります。

保守が必要 （文字付きのレンチ記号）

- この記号は、本リフトがスリープモードから復帰する際に 7 秒間表示され（ビープ音も 2 回鳴ります）、使用者の注意を引くため 5 秒ごとに点滅します。
- 最寄りの Arjo サービスセンターに保守サービスをご依頼ください。

超過重量

- この記号は、本リフトの安全耐荷重を超えた際に移乗を試みると点滅します。
- 患者様が下降されるまで、赤ランプは点灯状態を維持します （急速なビープ音が 4 回鳴ります）。
- ↑ 機能は、他のすべての機能が動作状態を維持している間は無効になります。

充電システム

Maxi Sky 2 は、3 種類の異なる充電システムを取り揃えています。

Maxi Sky 2 を過電流から保護するために、電気リレーが、リフト使用中にリフトを充電システムから自動的に切断し、充電ソースが検出されると接続を再確立します。

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトには、直流電源コンセントに対応するように、ユニバーサル充電器が装備されています（該当する地域のみ）。

コンセントへのアクセスが限定され、接続を外すことが困難な場所には、本充電器を配置することは避けてください。

充電ステーションシステム (C-Stat)

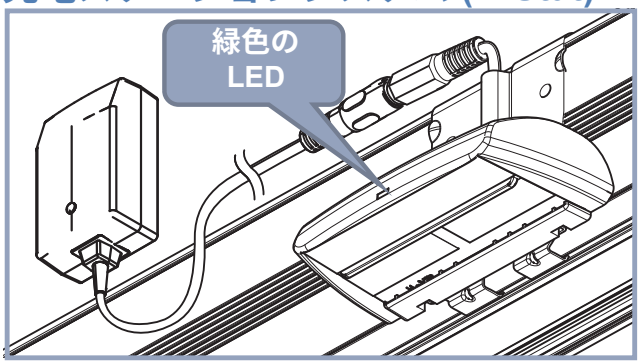


図 3

充電器は、専用の充電ステーション (C-Stat) に給電しています。C-Stat は、トラックのレイアウトに沿った特定の場所に側面設置され、 Maxi Sky シリーズ天井走行リフトのバッテリーを充電します。

充電ステーションには、その接点に電流が流れていることを示す小さな緑の LED にて確認できます。

RTC（充電に復帰）はデフォルトで無効に設定されています。この機能を有効にする方法に関する注意事項については、 17 ページの 「カスタマイズ」を参照してください。

KWIKtrak™ エンハンスド充電システム (ECS)

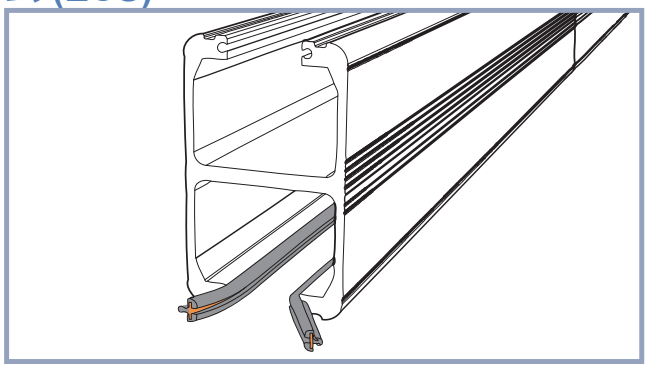


図 4

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトは、*KWIKtrak*™ エンハンスド充電システム (ECS) との使用にも適しています。

ECS により、本リフトのバッテリーは、レールの動力部に沿って、どこでも充電し続けることができます。利用者様を移乗後に本リフトを充電ステーションに戻す必要がありません。

ECS オプションによって RTC 機能は不要になります。しかし、本リフトを邪魔にならない場所にパーキングすることにはメリットがあるかもしれません。その場合、所望のパーキング （ホーム）位置においてレール上に追加される PPP（事前プログラム位置）ステーションの使用と組み合わせて RTH 機能を有効にすることも可能です。

壁設置型充電システム (WCS)

（KWIKtrak™ 以外のトラッキングネットワークに限定）

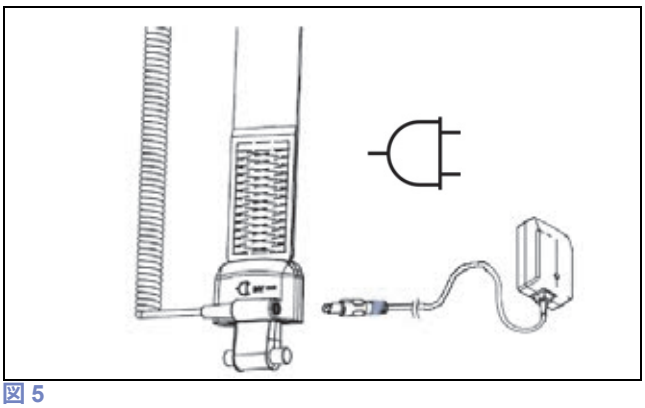


図 5

警告：リフトを使用する前に、充電器コードを WCS コネクタから外す必要があります。

注記：RTC、 RTH、および PPP 機能は、 WCS オプションでは使用できなくなりました。

注記：WCS オプションでは、 PDPS スプレッダーバーを使用することはできません。手動 DPS で使用可能です。

バッテリーの充電が必要な場合、スプレッダーバーは壁取り付けブラケットに配置されます。充電器コードは、 WCS コネクタに手動で接続する必要があります。

充電器は、スプレッダーバーの *Quick-Connect* エリアの上にある WCS コネクタに給電して、天井走行リフトに電力を転送し、バッテリーを充電します。

壁設置型充電システム (WCS)
充電ポート

準備

梱包内容の確認

本製品の受領時には、パッキングリストに基づいて本リフトと付属品を検品し、出荷漏れがないことを確認し、発送中の損傷がないことを点検してください。本製品に損傷がある場合は、使用を避け、最寄りの Arjo 代理店に連絡してください。

注記：本リフトを初めて使用する際は、バッテリーを最低 8 時間充電する必要があります。

使用する前に

電源投入スイッチボタンを押します。

注記：使用する *Maxi Sky 2* が可搬型であるときは、MS2 可搬型の取扱説明書を参照してください。

日付 / 時間の設定

本リフトは、最初の起動時に、日付と時間の設定を行なう画面に入ります。本リフトはその記録日に基づいて、使用者に保守の期限を知らせることから、日付を正しく設定することが重要です。これらの設定を変更する必要がある場合は、「カスタマイズ」セクションを参照してください。

この設定値を変更するには、手元スイッチ上の↑または↓ボタンを押します。このパラメータが正しく設定されたら、ボタンを押して、選択肢を確認し、次のパラメータに移行します。最後のパラメータが設定されると、本リフトは正常モードに入ります。

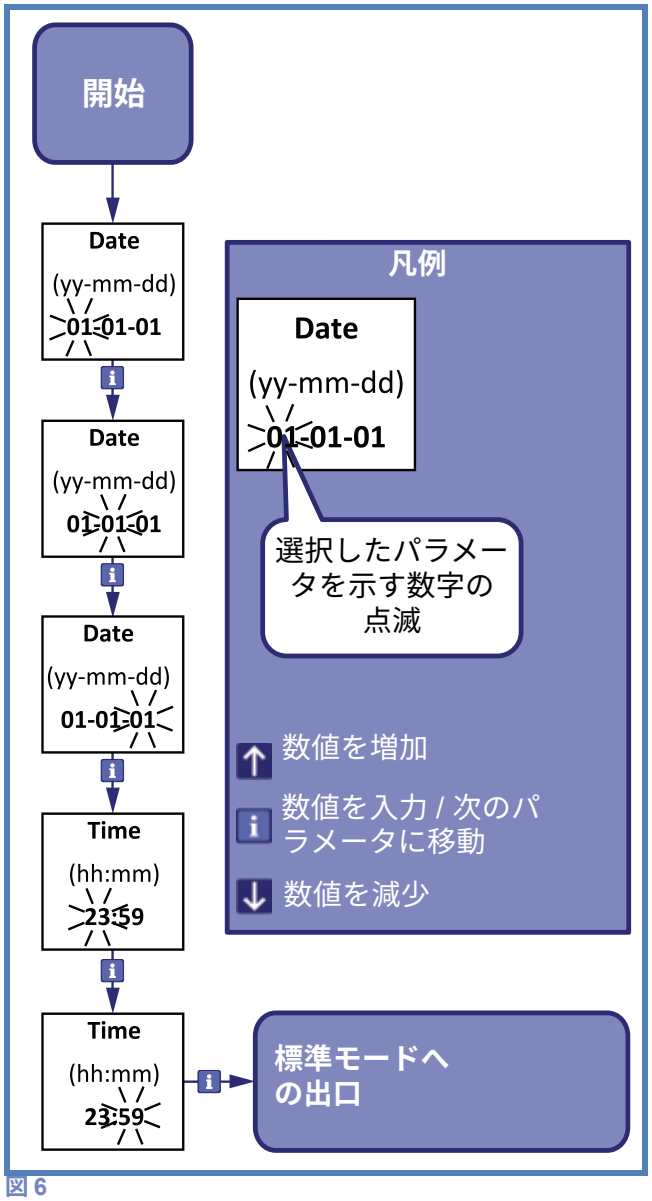


図 6

他のパラメータの設定については、17 ページの「カスタマイズ」セクションを参照してください。

初めて使用するにあたり

必ず以下の徹底を図ってください。

- 本レールシステムおよび本リフトは、地方自治体の条例・規定に従って、認定された Arjo 代理店が取り付けてください。
- 耐荷重テストが、Arjo の指示に従って、本レール上で実施されています。
- すべてのレール端部は、ストッパーで固定するか、または他の閉じたレール部品に接続しなければなりません。

使用するにあたり

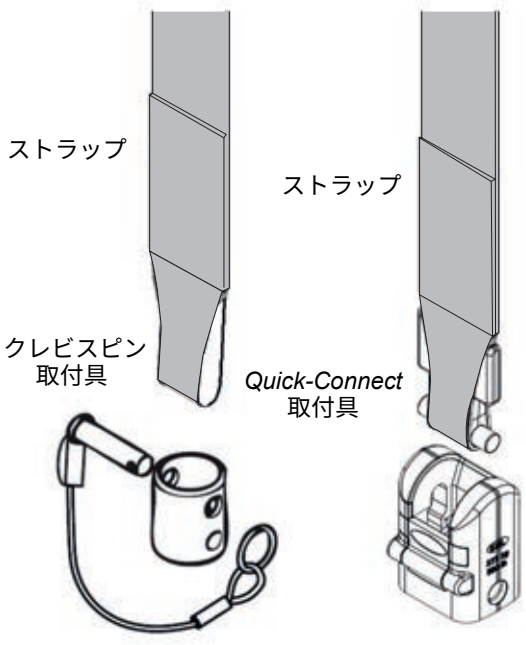
注記：患者をサポートするために二人目の介助者が必要かどうかは、各事例ごとに判断する必要があります。

警告：患者の移乗を試みる前に、とりわけ、患者様の移乗では患者の体に相当な圧力を引き起こすことがあることを考慮して、資格のある医療専門家が、患者様の移乗適合性に関する臨床的評価を行う必要があります。移乗適合性の低い患者様を移乗すると、患者様の健康状態が悪くなる可能性があります。

警告：患者様を移乗する前に、患者移乗経路に障害物がないことを必ず確認してください。怪我をする可能性があります。

必ず以下の徹底を図ってください。

- 本製品は訓練を受けた介助者によって使用されている。
- 電極、カテーテル、または他の医療機器に接続されている患者の移乗時に特別な配慮が必要です。
- スリングは点検され、この取扱説明書にある持ち上げ手順が遵守されている。
- 患者様が動揺した場合は随時、移乗を停止し、患者様を安全に下降させてください。
- 本リフトの使用前には、以下の要素に特別な注意を払って、日常保守が行われること：
  - ストラップの摩耗、変色 または糸のほつれを点検する。
  - すべてのスリング部品 （付属品、布、縫い目部およびストラップ）を点検し、摩耗、変色、劣化 または糸のほつれの兆候がないことを確認する。
  - スプレッダーバーの損傷や亀裂を点検する。すべての取付具が適正に固定され、すべての *Quick-Connect* 構成部品（カバーおよびラッチ）が揃っている（*ベーシック天井走行リフト*モデルを稼働する場合はクレビスピン）ことを必ず確認する。



  - 外部損傷の形跡、欠損部品または破損パネルを点検する。
  - すべてのレールにエンドストッパーおよびエンドキャップが揃っていることを必ず確認する。
- 安全を確保し、本リフトの部品の早期摩耗を防ぐため、患者の上昇時または下降時には、常にストラップをできるだけ真っ直ぐな状態に維持することを忘れないでください。図 7 に示した最大値を絶対に超えない。

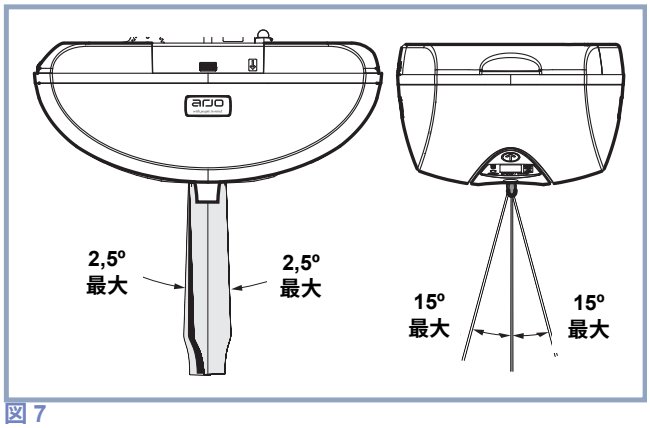


図 7

警告：走行方向にはストラップに接触するような障害物がないことを必ず確認してください。ストラップが損傷または切断して、患者様を落下させる原因になる可能性があります。

カスタマイズ

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトでは、訓練を受けた介助者が特定のパラメータをカスタマイズして、設置環境との相互作用を最適化することができます。

カスタマイズモードへの手順

カスタマイズモードに入るには、i ボタンを 3 秒間押し続けます。

表示部にプログラミングメニューが表示されているとき、↓ ボタンを押して、customizing を選択し、i ボタンを押してカスタマイズモードに入ります。

表示部には、最初のパラメータがその実際の設定とともに表示されます （図 8 を参照 ）。

↓ ボタンと ↑ ボタンを用いて、そのメニューをナビゲートします。

パラメータオプションを変更する必要がある場合は、 i ボタンを押してパラメータ設定モードに入り、次に ↓ ボタンまたは ↑ ボタンを用いてオプション （次へ / 前へ）を選択するか、または数値を設定 （増加 / 減少）します。

パラメータを希望のオプションに設定したら、i ボタンを押して選択肢を決定します。短いビープ音が鳴り、本リフトはカスタマイズメニューに戻ります。

カスタマイズモードを終了するには、「back」を選択し、i ボタンを押すか、またはいかなるボタンも押すことなしに 60 秒間待機します。

プログラム可能な項目

以下の表は、ニーズに合わせて設定することができるパラメータを記載しています。

表 1

パラメータ	説明	設定（デフォルトは太文字）
motor speed	レール上の移動速度	10 cm/s 15 cm/s **20 cm/s**
rtc/rth 機能	RTC/RTH オプション	（**無効**にする）、 自動、←、→
ppp 機能	PPP を有効 / 無効にする	**無効**、有効
ストラップ長	RTC/RTH モードストラップの巻き戻し時間	**13 cm** - 152 cm (**5 in** - 60 in) RTC/RTH 機能の両方および PPP 機能が無効にされていると効果はありません
検知時間	充電器または PPP ステーションを検出する最大時間	0.5 ～ 5 分 （**1.5 分**） RTC/RTH 機能の両方および PPP 機能が無効にされていると効果はありません
準備動作状態	スリープモードに入る前のリフトの休止時間	1 ～ 20 min. (**10.5 min.**)
hoist led	緑の LED を有効 / 無効にする*	無効、**有効**
date/time（日時）	実際の日付 / 時間	初期起動時における設定値によって異なります **(11-01-01 00:00)**
back（戻る）	カスタマイズモードを終了する	

* 赤の信号は常に有効です。

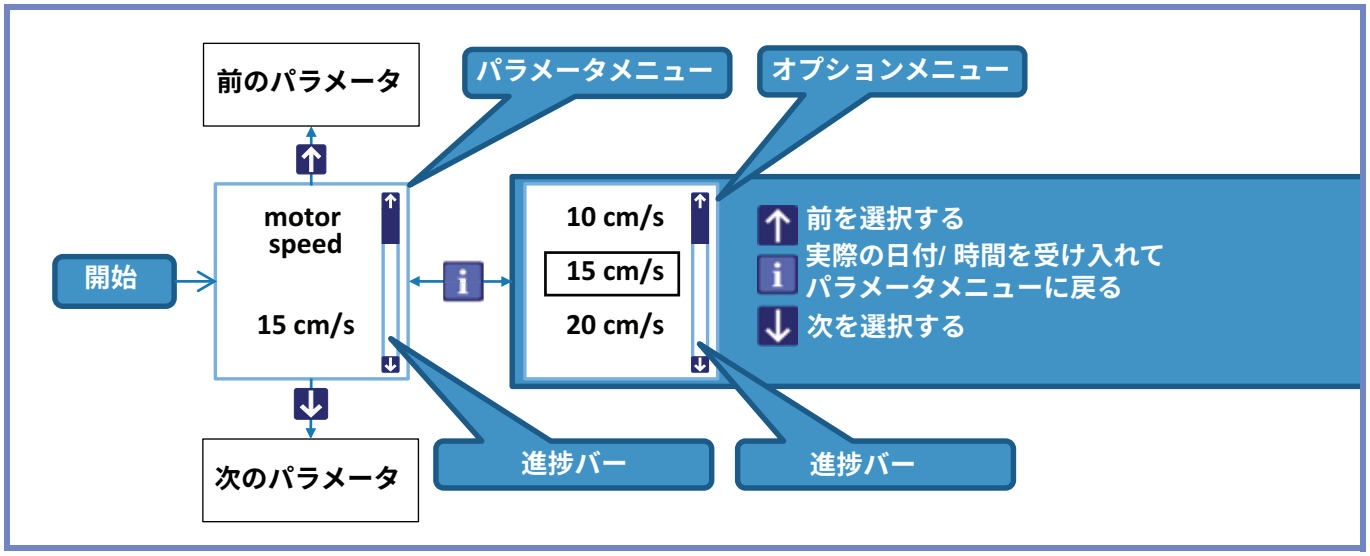


図 8

操作方法と機能

スリープモード

本リフトの未使用時間が、「ready state （準備動作状態）」パラメータで設定された時間を超えるとき、電力消費を削減するため常にリフトは表示部の電源をオフにします（表 1 の「Ready state」パラメータを参照）。よって、 *Maxi Sky 2* は、毎回の使用後に電源をオフにしないでください。

LED は、バッテリー充電量が 25% 以上の場合は緑に点灯した状態を維持し、本リフトが充電中の場合は緑に点滅します。 LED のステータス表示は、バッテリー充電量が、満充電の 25% 以下に低下すると、赤に変わります。本リフトは、バッテリー充電量が限界点 （5% 未満）に達すると、ビープ音を 10 秒 ごとに 2 回発します。

本リフトは、 15 分ごとにスリープモードから復帰して低バッテリー残量メッセージを表示し、30 秒後に再びスリープモードに入ります。本リフトは、手元スイッチ上のいずれかのボタンを押すとスリープモードから復帰します。

操作方法

Maxi Sky 2 の動作は、本リフトを操作できるすべてのボタンがある手元スイッチによって可能になります。

垂直方向の動作

- ↓ および ↑ ボタンは、患者を上昇または下降させるために使用されます。補助のボタンを使用することも可能です。
- 本ボタンを押すと同時に上昇機能と下降機能は作動し、徐々に加速して唐突な動作を防止し、本ボタンを押し続ける限り、継続して動作します。
- 本ボタンから手を離すと、徐々に減速して唐突な動作を防止します。

水平方向の動作

- 4 方向 - 機能モデルは、横方向モーターを起動して本リフトをレール上で移動させる ← ボタンと ボタン → を備えています。 2 方向 - 機能モデルでは、本リフトを手動で移動させなければなりません。
- 本ボタンを押すと同時に ← 機能と → 機能は作動し、徐々に加速して唐突な動作を防止し、本ボタンを押し続ける限り、継続して動作します。
- 本ボタンから手を離すと、徐々に減速して唐突な動作を防止します。

警告：本リフトを手元スイッチで引いて移動させないでください。手元スイッチで本リフトを引っ張ると、はずみで急な移動動作をすることがあるので、怪我を引き起こす可能性があります。

警告：患者様の体を押したり、引いたりすることで、リフトを移動させないでください。本リフトの移動は、スプレッダーバーを保持しながら、引くか、押すことによって行ってください。あるいは、← ボタンまたは → ボタンも使用できます。

電動ダイナミックポジションシステム (PDPS)

PDPS が装備されたモデルには、患者様の移乗開始時の位置および/または移動先の座位角度に応じて、患者様を端座位またはリクライニング姿勢に変更することができる ボタンおよび ボタンが付いた手元スイッチが同梱されています。

ボタンを押し続けて、患者様を座位姿勢にします。

ボタンを押し続けて、患者様をリクライニング姿勢に傾斜させます。

充電に復帰 (RTC) / ホームに復帰 (RTH)

この機能は工場出荷時、無効に設定されています。この機能を有効にする方法に関する注意事項については、 17 ページの 「カスタマイズ」セクションを参照してください。

RTC/RTH 機能が有効にされていると、 ボタンは、レールに沿って自動的に本リフトを充電ステーションまたは所定の位置に戻して、次の使用時に備えて待機することができます。

警告：RTC/RTH を使用する前に、進行経路に人がいないことを検証してください。本リフトまたはその付属品との接触は、怪我を引き起こす可能性があります。

- 本リフトを充電ステーションに復帰させるには、 RTC ボタンを 3 秒間押し続けます。
- ECS システムまたは WCS システムには充電ステーションがないことから、 RTH ボタンを 3 秒間押し続けると、本リフトは PPP ステーションに送られます。

注記：この機能は、埋め込み式レールではご利用いただけません。

機能は、有資格サービス担当者によって 3 通りの異なるモードに設定することができます。

- Auto：このモードでは、本製品は充電ステーションの位置を記憶し、本機能が起動されると自動的にその方向に移動します。
- ← / →：これらのモードでは、本製品は、本機能が起動されると、必ずそれぞれの事前設定方向に移動します。

RTC/RT は、以下を行うことによって、いつでも停止することができます：

- 手元スイッチ上の任意のボタンを押す
- 赤の緊急停止コードを引く
- スプレッダーバーを保持する。

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトは、持上げ時に荷重の変動が検出されると、動作を停止する荷重センサが装備されています。進行経路に障害物がないことを必ず確認してください。

警告：本リフトにて患者を移乗している場合は、患者の怪我を引き起こす可能性があるので、 RTC/RTH 機能を絶対に使用しないでください。

警告：本リフトにて患者を移乗している場合に RTC/RTH を機能しないようにする本リフト内の体重検出センサーが検出できるのは、最小負荷 20 kg 以上です。体重が 20 kg 以下の患者を移乗する際は、手元スイッチの操作に特別な注意を払う必要があります。

使用頻度の確認

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトには、移乗回数、使用履歴、定期保守計画または誤動作（「表示記号」セクションを参照）に基づいて、保守が必要になったことをユーザーに知らせる保守モニターが装備されています。

必要な保守

ビープ音と赤色の LED 表示 は、使用者の注意を引くために使用され、保守または誤動作に関連するメッセージが表示部に現れます。

使用頻度データの表示

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトは、本リフトを点検整備する有資格担当者をサポートするため、使用回数の記録も行います。

この使用履歴データへのアクセスは、PPP 機能の有効状態に応じて、2 種類の方法で確認できます。

PPP が無効にされているときの使用量データへのアクセス

瞬間的に i ボタンを押すと、表示部に使用履歴画面が表示されます。

その画面を i ボタンを使ってスクロールします。

本リフトは、「Average Lifts/Day （平均リフト持ち上げ回数 / 日）」が表示中に i ボタンを押すとそのデータ画面を終了します。この使用履歴は ↓ ボタンまたは ↑ ボタンで、いつでも終了することも可能です。

以下は、このモードで利用可能な情報のリストです。

ラベル	詳細
Total Lifts （総リフト回数）	初期起動以来の 累積リフト回数
Lifts Last Day （前日のリフト回数）	午前零時での 更新情報
Lifts Last Week （先週のリフト回数）	日曜日～土曜日
Average Lifts/Day （1 日平均リフト回数）	7 日間に基づいた平均

PPP が有効時の使用量データへのアクセス

i ボタンを 3 秒間押し続けると、メニュー画面が表示されますが、データ情報を表示するには確認が必要です （図 9 を参照）。

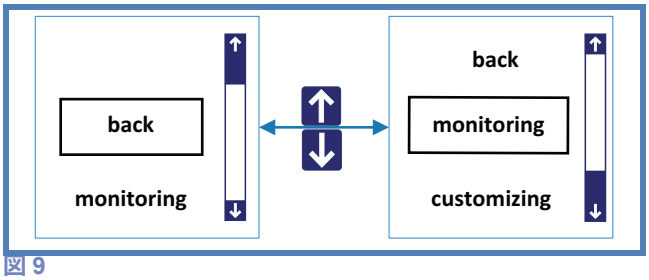


図 9

↓ ボタンまたは ↑ ボタンで本メニューをナビゲートし、「monitoring（監視）」を選択し、i ボタンを押して選択肢を選択します。

以下は、このモードで利用可能な情報のリストです。↓ ボタンまたは ↑ ボタンを使用してそのメニューにナビゲートします。

- Total Lifts（総リフト回数）
- Lifts Last Day（前日のリフト回数）
- Lifts Last Week（先週のリフト回数）
- Average Lifts/Day（1 日平均リフト回数）
- Hours of Use（利用時間）
- Overweight Lifts（耐荷重超のリフト回数）
- Over Duty Cycles（デューティーサイクル超回数）
- Version / Serial №（版、シリアル番号）

任意のデータ画面を終了するには、「back」を選択し、次に i を押してその選択肢を選択ます。

緊急停止 （赤のコード）

この機能は、制御できない状況が発生する事象において本リフトを容易かつ迅速にアクセスでき、完全に動作を無効にすることができる機能です。

注意：本リフトを、赤の緊急停止コード引っぱって移動しないでください。これは誤動作または損傷を引き起こす可能性があります。

注意：本コードを過剰な力で引くと、本リフトが損傷することがあります。

本コードを引くと：

- 本リフトはすべての動作を停止し、表示部およびすべてのインジケータはオフになります。
- 小さな赤色のプラスチック挿入部分がそのハウジングから出てきます。

緊急停止が起動された場合、体重が 55 kg を超える患者は、ゆるやかな速度で下降される可能性があることに注意してください。

本リフトを再起動するには

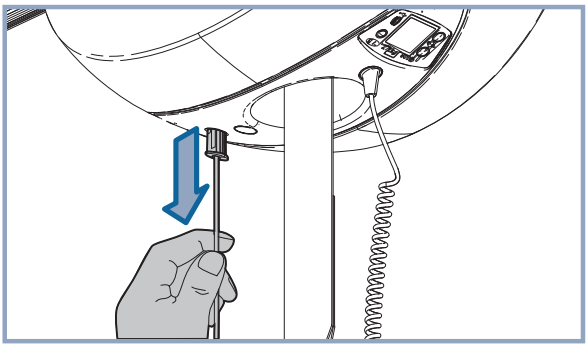
赤色のプラスチックインサート部分を押し上げます。

- 本リフトは、 バッテリー記号または ECS アイコンが表示部に表示された時点で、すぐに使用できる状態になります。

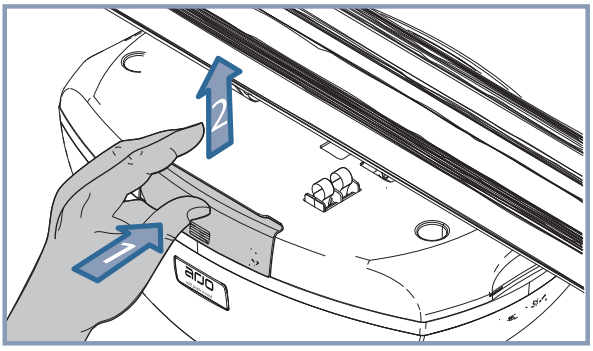
緊急下降のメカニズム

極めて稀で異常な状況、たとえば電気的な故障が発生した場合に、緊急下降機能は、椅子、ベッドまたは車椅子に患者を下降させる安全な方法をご提供します。

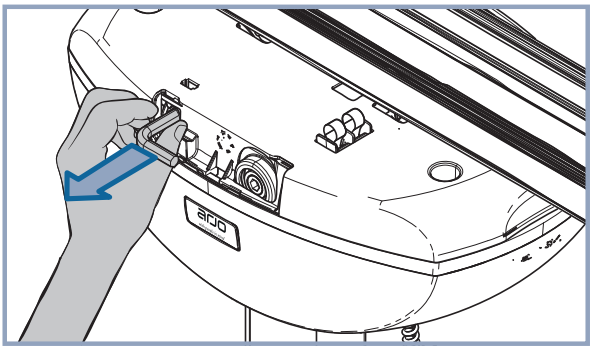
緊急下降機能は緊急時にのみ使用してください。



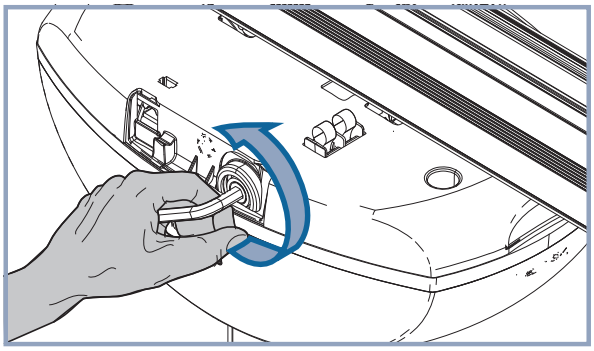
赤の緊急停止コードを引きます。



側面の小さなプレートを開いて、下降機能にアクセスします。



そのプレート内から 8 mm の六角レンチを引き出します。



六角レンチを 機能の軸受けに深く挿入します。六角レンチを反時計回りに回して、ゆっくりと患者を下降させます。

患者様が下降され、椅子、ベッドまたは車椅子に移乗できたら、有資格技術者に連絡して本リフトの点検をご依頼ください。

緊急ブレーキ

極めて稀で異常な状況、たとえば機械的な故障が発生した場合でも、本リフトには、自動的にその下降を停止させるブレーキシステムが装備されています。この状況では、緊急下降機能は利用できません。

警告：緊急ブレーキが起動した場合は、本製品の電源をオフにし、警告サインを本リフト上に貼り付けて他の職員が使用しないようにし、最寄りの Arjo 代理店にお電話でご連絡の上、点検をご依頼ください。

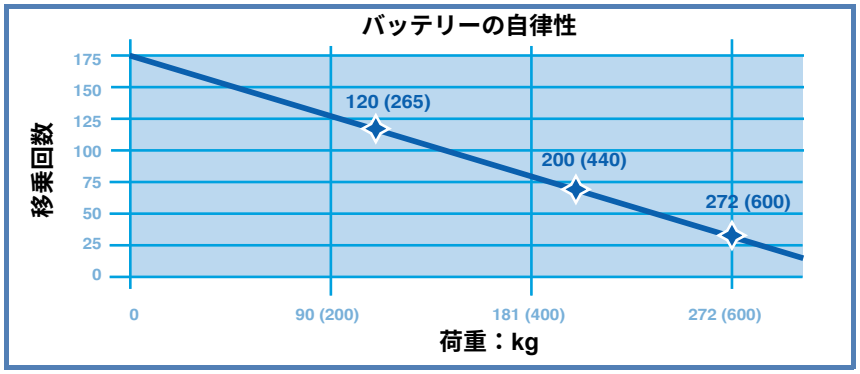
バッテリー情報

ディスプレイ	バッテリー充電	摘要
	100%	正常な操作範囲
	75%	
	50%	
	25%	低充電 以下のいずれかのボタンが押されると短いビープ音が鳴ります
	< 5%	限界 2 つのアイコンが交互に点滅し、 10 秒ごとに短いビープ音が 2 回鳴ります

この製品のバッテリーは充電式鉛蓄電池です。バッテリーの安全な取り扱いとバッテリーの寿命の延長については、これらの注意事項に従い、覚えていてください。これらの注意事項に従わないとバッテリーの寿命を縮める可能性があり、極端な場合にはユーザーを危険にさらすことがあります。

バッテリーの寿命は多くの要因により変化します。それらの要因は以下の通りです。、使用頻度、充電の頻度、動作温度、保管および保管時間があげられます。

鉛蓄電池を 5% 以下の充電状態で使用すると、バッテリーを損傷し、バッテリーの寿命を縮める可能性があります。5% の充電残量は、表示部で点滅する限界バッテリーレベル記号で表示されます。この残量では、下降機能だけを行うことができます。できるだけ早くバッテリーを充電するようにしてください。



このグラフは、バッテリーが限界レベルに達する前に行うことができるリフト回数とリフト荷重との関係性を図に示しています。

バッテリーの充電方法

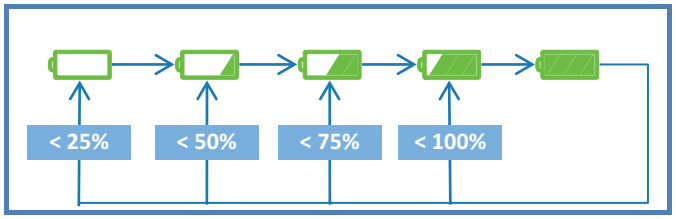
警告：電源コードが損傷している場合や充電ステーションが落下したり損傷している場合には、充電ステーションを使用しないでください。電源コードは、強制的に曲げたり、その上に重い物を置いたりしないでください。これは、電源コードの損傷を招き、火災や感電の原因となることがあります。

注記：本リフトは、バッテリーの充電中にでも操作することができ、操作を開始すると充電は自動的に停止します。

充電ステーションシステム (C-Stat)

2 方向 - 機能モデル：リフトを充電ステーションの下に移動します。

4 方向 - 機能モデル： ボタンと ボタンを同時に押すか、または ボタンを押すと、本リフトを充電ステーションまで移動します。



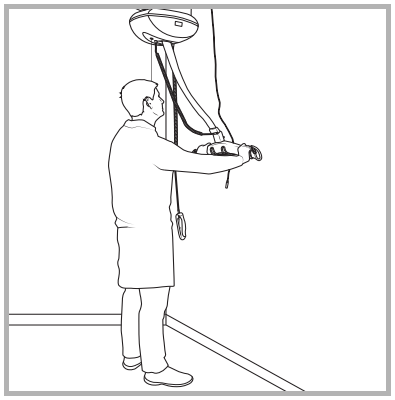
バッテリーが適切に充電されていることを確認するには、 LED インジケーターをチェックしてください。

- LED は、バッテリーがフル充電されるまで緑色にて点滅します。
- 表示部は、充電の進行状況を示すため、実際のバッテリー充電レベルに従って充電レベルを示すアイコンを周期的に繰り返します。

バッテリーが完全に消耗した場合、再充電が完了するまでに最大 8 時間かかります。

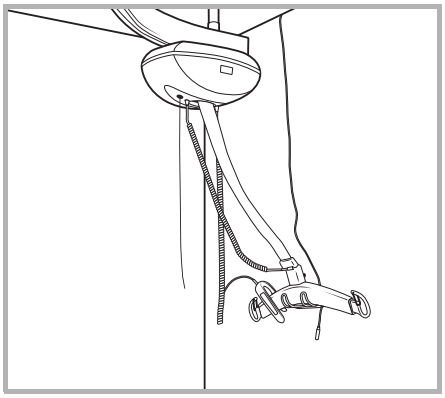
壁設置型充電システム (WCS) - 接続手順

#1



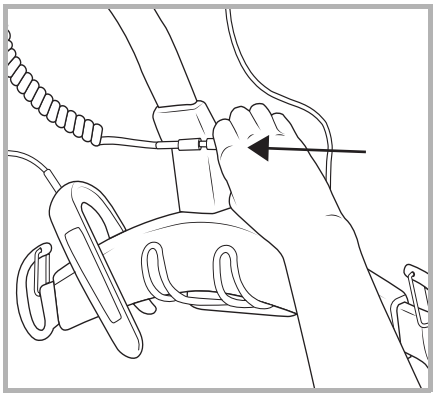
壁に取り付けられた壁フックにスプレッダーバーを手作業で配置します。

#2



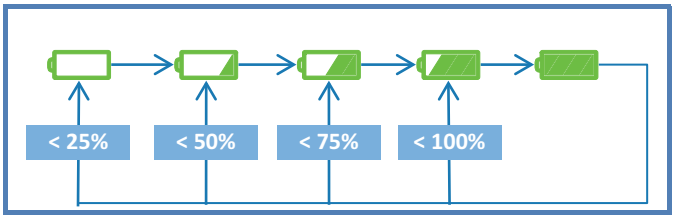
リモートコントロールをスプレッダーバーに取り付けて、コードに張力がかからないようにします。張力がかかると、突然の排出が発生することがあります。余分なストラップを巻き取ります。

#3



充電器のコードを壁設置型充電システム (WCS)コネクタに接続または挿入します。

壁設置型充電システム (WCS) 充電ポート



バッテリーが適切に充電されていることを確認するには、*Maxi Sky 2* 上の LED インジケーターをチェックしてください。

- LED は、バッテリーがフル充電されるまで緑色にて点滅します。
- 表示部は、充電の進行状況を示すため、実際のバッテリー充電レベルに従って充電レベルを示すアイコンを周期的に繰り返します。

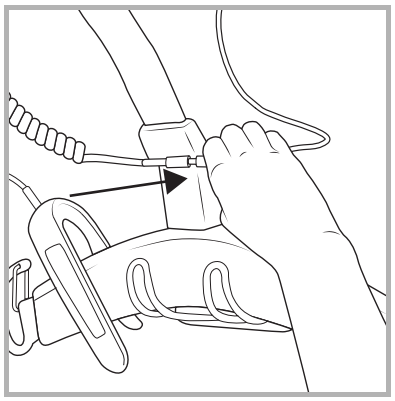
バッテリーが完全に消耗した場合、再充電が完了するまでに最大 8 時間かかります。

注記：リモートコントロールがスプレッダーバーに取り付けられているときは、突然の排出を防ぐために、張力がかからないように、コードをゆるく垂らしてください。

警告：リフトを使用する前に、充電器コードを WCS コネクタから外す必要があります。

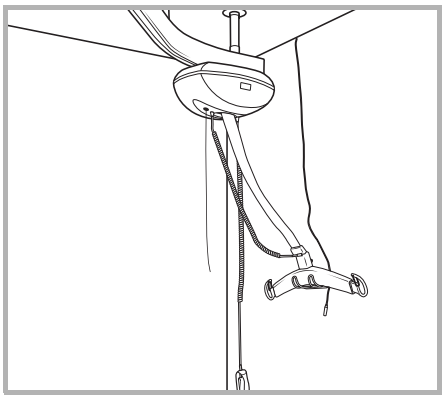
壁設置型充電システム (WCS) - 取り外し手順

#1



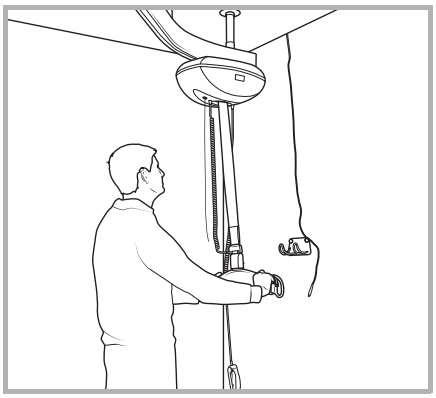
WCS コネクタから充電器コードを外します。

#2



リモートコントロールをスプレッダーバーから取り外し、予期せぬ反動を防ぐために、ゆるく吊るします。

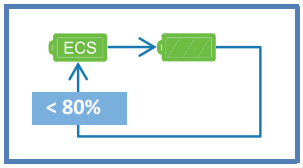
#3



壁フックからスプレッダーバーを手作業で取り外します。リフトの下に置き、ストラップが徐々に張力を回復できるようにします。

ECS システム

ECS を装備するシステムでは、天井走行式リフトが充電モードにある間、アイコンが表示されます ECS。



- 約 8 時間の一定期間、 LED は緑色にて点滅します。その期間の後、バッテリーレベルがまだ 80% 以下である場合、本体は更に 8 時間の充電を継続してください。それ以外は、 LED は点灯します。

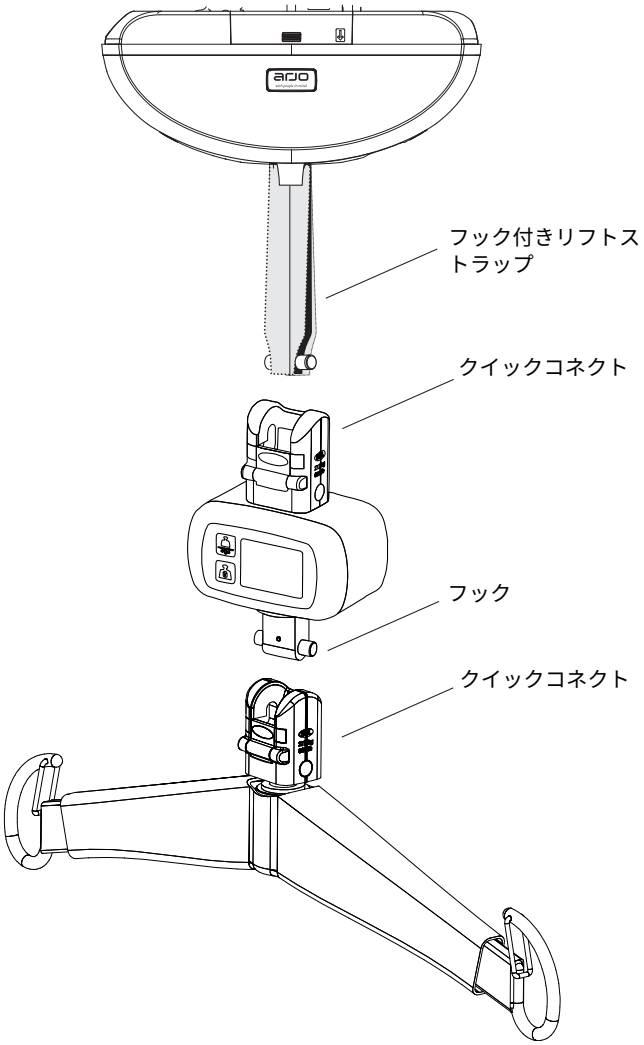
充電中に利用された場合、ECS のアイコンは消えて、緑色の LED が点灯します。操作ボタンから手を離した後、バッテリー充電レベルが 80% 以下である場合にのみ、約 20 秒後にリフト本体は ECS システムへの充電が再接続されます。

システム障害や停電の際に ECS システムが電気を供給していない場合は、表示部に非 ECS システム用として実際の電池残量が表示されます。障害が検出されたら、15 分毎に、本体は ECS システムへの再接続されます。バッテリー充電レベルが 80% 以下である場合にのみ、本体は ECS システムへの再接続を試みます。

スプレッダーバーおよび体重計の取り付け / 取り外し

（25 ページにある*ベーシック天井走行リフト*モデルのスプレッダーバーおよび体重計の取り付けを参照）

Quick-Connect 概要 （Maxi Sky 2 天井走行リフトモデルおよび感染管理天井走行モデル）

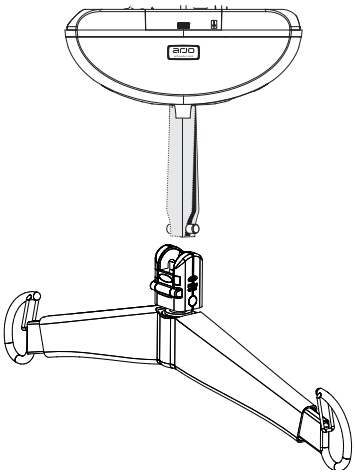


スプレッダーバーと体重計には、介助者が工具を使用せずに数ステップで簡単に取付けが完了できる特徴があります。

警告：スプレッダーバーおよび体重計の取り付けは、訓練を受けた者だけが行わなくてはなりません。患者様の落下を防ぐには、毎回の使用前に、フックが取付具で固定されていること、取付ラッチが閉じられていることを必ず確認してください。

利用できる際に体重計を使用するには、体重計の取扱説明書を参照してください。

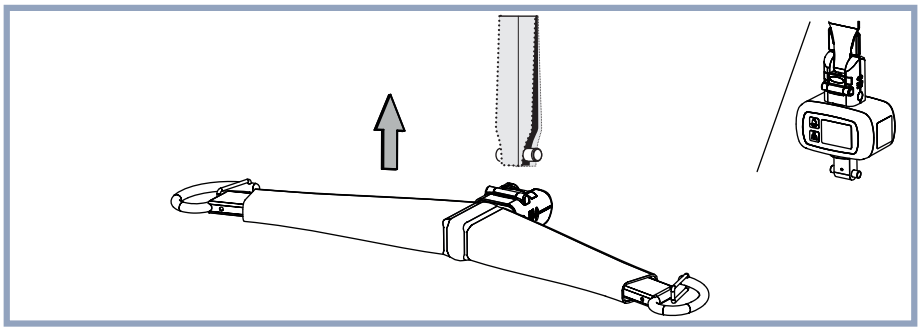
Quick-Connect リフト／スプレッダーバー／体重計



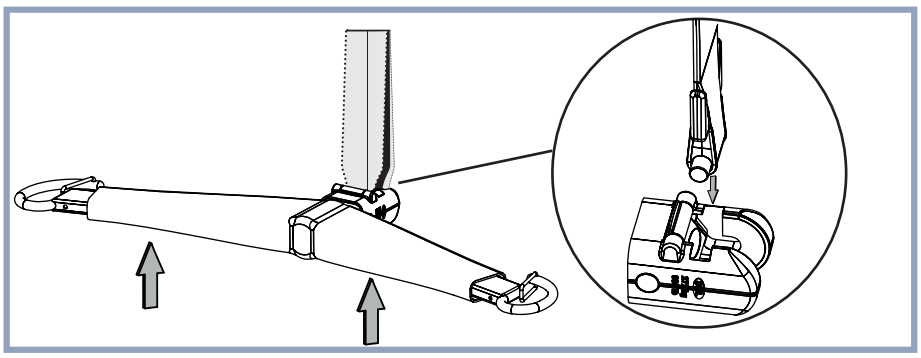
以下の手順で、リフトを体重計に取り付ける場合、スプレッダーバーに体重計を取り付ける場合、およびリフトをスプレッダーバーに取り付ける場合について、図で説明しています。

注記：*Quick-Connect/* フック取り付けに関する同じ手順が、すべての場合に適用されます。図を参照してください。

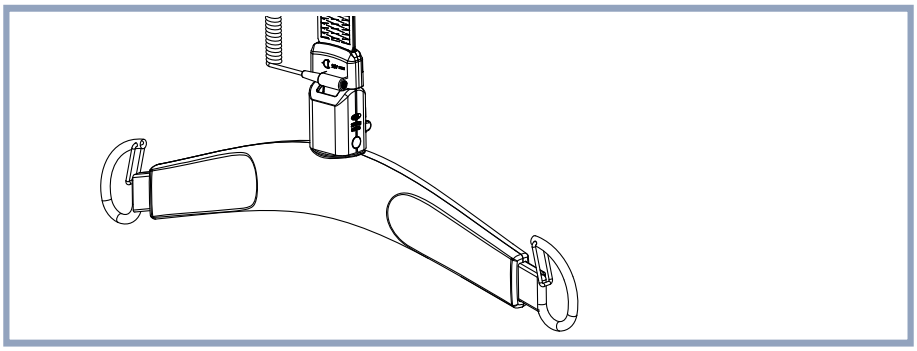
Quick-Connect への取り付け



スプレッダーバー / 体重計の *Quick-Connect* ラッチを、フックに合わせます。

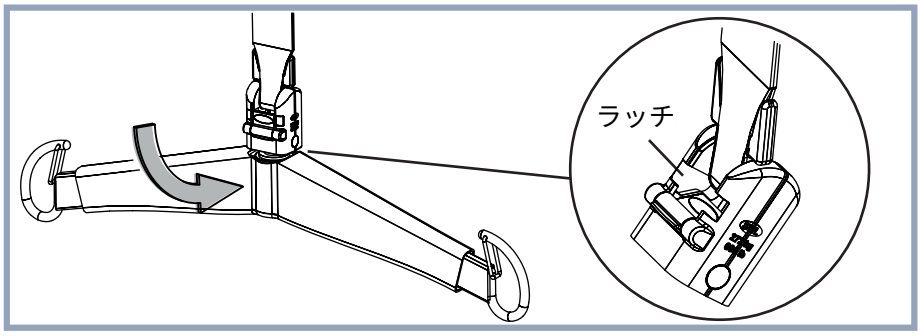


フックを *Quick-Connect* に挿入します。



スプレッダーバー/体重計を移動させ、フックをピボットにはめ込みます。

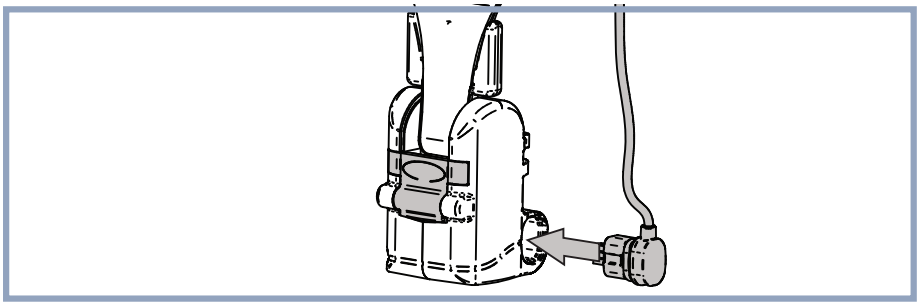
注記：WCS 搭載 *Quick-Connect* の方向。取り付け / 取り外しを容易にします。



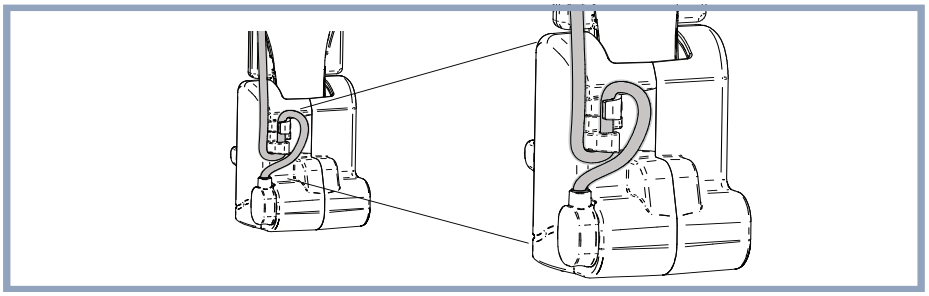
スプレッダーバーを回転させ、位置を合わせます。

Quick-Connect ラッチが閉じていることを確認してください。

ラッチが開いた状態でリフトを操作しないでください。

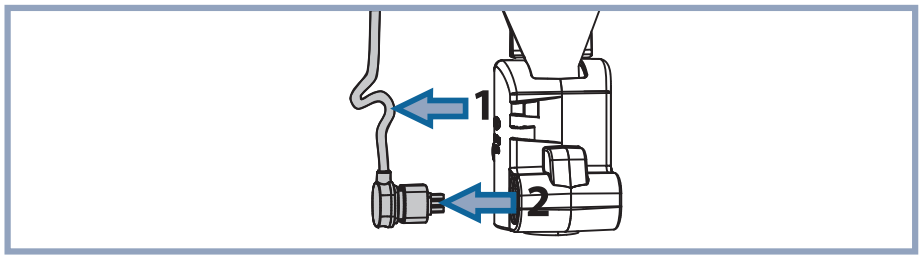


PDPS を使用している場合は、ケーブルを接続します。リフトとスプレッダーバーの間にケーブルが接続されています。体重計に接続するケーブルはありません。

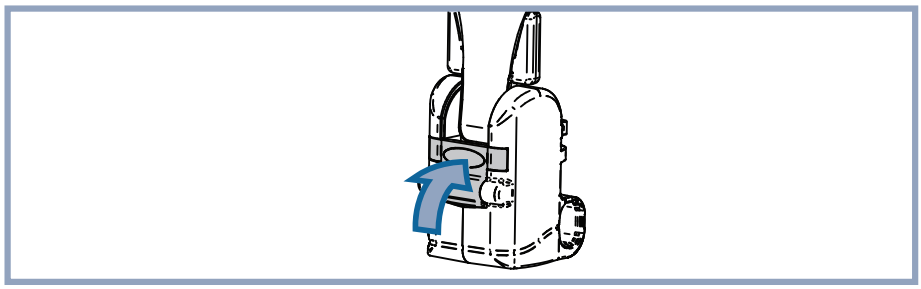


PDPS を使用している場合は、図示のとおりケーブルを *Quick-Connect* のハウジングの後ろに固定します。

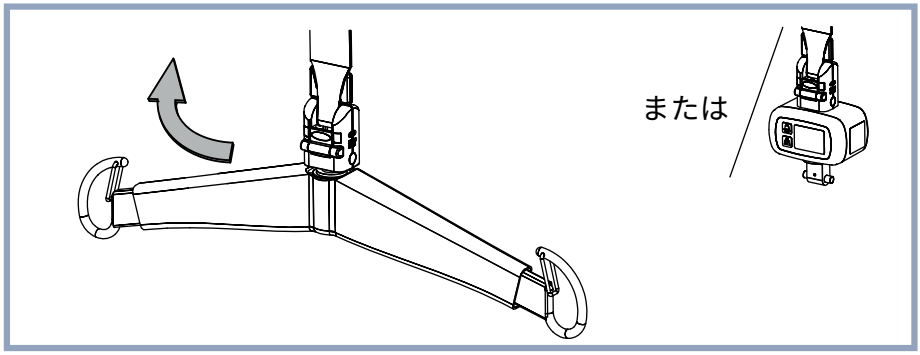
Quick-Connect から取り外します



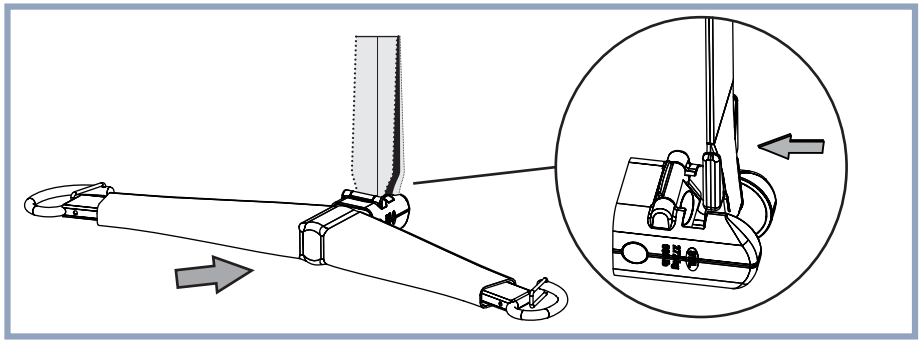
PDPS を使用している場合は、ケーブルを *Quick-Connect* のハウジング背面から取り外し、次いでケーブルを外します。



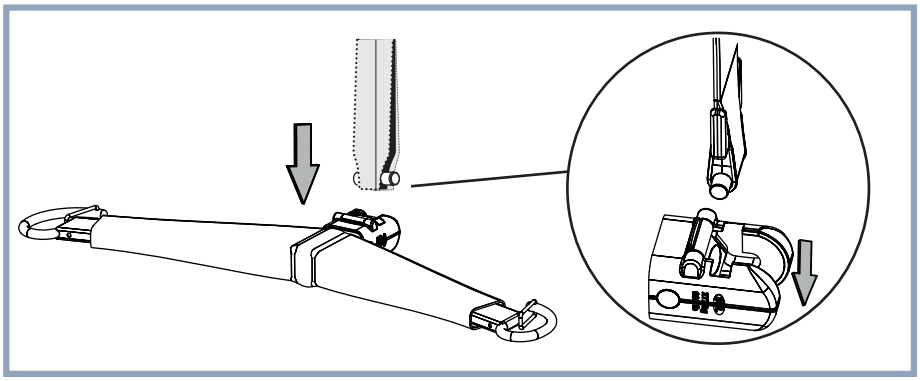
フックを所定の位置にロックするラッチを押して、開きます。



取り外したい方どちらかに応じて、スプレッダーバー / 体重計をラッチに向けて上方に回転させます。



スプレッダーバー/体重計を移動させ、ピボットからフックを離します。



スプレッダーバー/体重計を下に引き、*Quick-Connect*から引き出します。

スプレッダーバーおよび体重計の取り付け / 取り外し

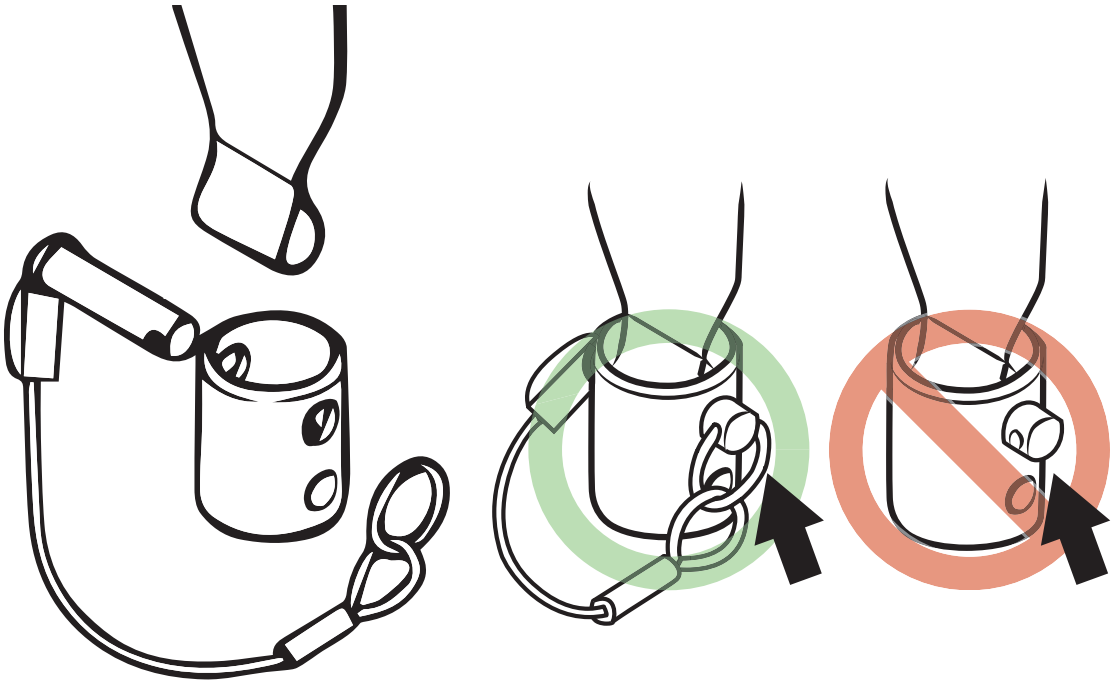
（ベーシック天井走行リフトモデルのみ）

（22 ページにある *Maxi Sky 2 天井走行リフト*および *Maxi Sky 2 感染管理天井走行リフト*モデルのスプレッダーバーおよび体重計の取り付けを参照）

スプレッダーバーには、介助者が工具を使用せずに数ステップで変更できる取付具が備わっています。スプレッダーバーの本リフトへの取り付け：

1) ストラップの端をスプレッダーバーの取り付けに挿入します。
2) クレビスピンをストラップの端で取り付け具とループに挿入します。
3) スプリットリングのクレビスピンを締めます。

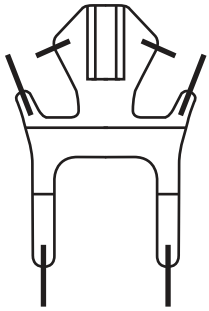
警告：スプレッダーバーおよび体重計の取り付けは、訓練を受けた者だけが行わなくてはなりません。患者の落下を防ぐには、毎回の使用前に、クレビスピンがストラップループとスプレッダーバー取付具で固定されていることを必ず確認してください。クレビスピンはスプリットリングで必ずロックします。



クリップスリングの用途

クリップスリングの互換性

以下は、*Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトに適合する標準的な Arjo クリップスリングのリストです。

スリングの用途	スリングのレイアウト
一般的な移乗	
衛生管理	

スリングの選択

本リフトに取り付けられているスプレッダーバーにより、患者の移乗に使用可能なスリングを決定します。

以下のように、ほとんどのスリングは、サイズ別に異なる色の縁飾りまたは取付ストラップで色分けされています。

- ティール - XXS
- 茶色 - XS
- 赤色 - S
- 黄色 - M
- 緑色 - L
- 紫色 - LL
- 青 - XL
- テラコッタ - XXL

全てのスリングが対象者の方々すべてのサイズに対応できるとは限らないことにご注意ください。

多種多様なスリングが各用途別にご利用いただけます。詳細情報については、最寄りの Arjo 代理店までお問い合わせください。

Flites®（単一患者の複数回使用スリング）は、ほとんどのスリングモデルでもご利用いただけます。Arjo *Flites* スリングを *Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトと共に使用する場合は、Arjo *Flites* スリング取扱説明書を参照してください。

注記：必ず Arjo 製スリングだけを、 ***Maxi Sky 2*** シリーズの天井走行リフトに使用してください。

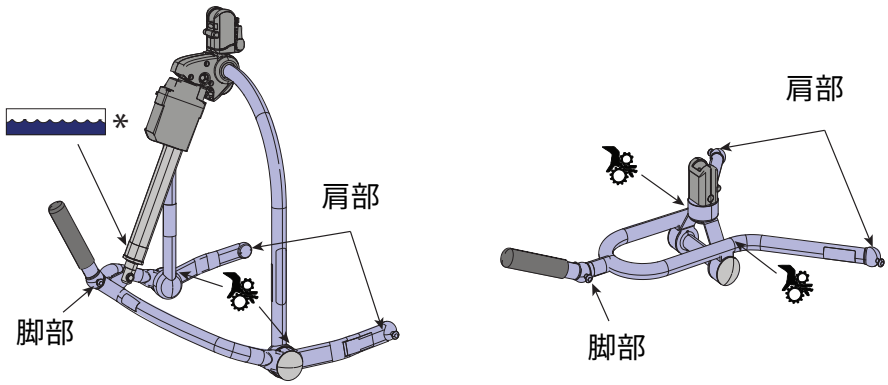
スプレッダーバーの互換性

以下は、 *Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトに推奨されるクリップスリングと共に使用できるすべての Arjo スプレッダーバーのリストです。施設の評価に基づいて、他の組み合わせが適切である可能性はあります。サイズおよび組み合わせは、臨床的な判断を行った上で選択してください。

スプレッダーバー	説明	Basic モデルのみ	クリップスリングのサイズ							
			XXS	XS	S	M	L	LL	XL	XXL
700-19475	手動フラット DPS（警告を参照）		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
700-19200	手動フラット DPS（警告を参照）	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
700-19480	手動オープン DPS（警告を参照）			✓	✓	✓	✓	✓	✓	
700-19340-BOX	手動式オープン DPS（警告を参照）	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	
700-19350	PDPS M サイズ			✓	✓	✓	✓	✓	✓	
700-19355	PDPS L サイズ						✓	✓	✓	✓

警告：フラット DPS またはオープン DPS を切断患者用スリングと共に使用する場合は、正しく使用しないと怪我を引き起こすことがあります。

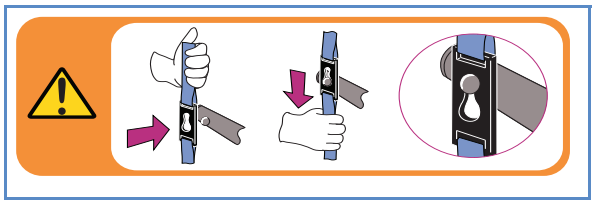
取り付け点



PDPS および手動式オープン DPS　　手動式フラット DPS

* このラベルは、ラベル位置より上の部分を患者の入浴時またはシャワー浴時のいずれの場合にも水に浸してはならないことを意味します。

スリングの DPS への取り付け

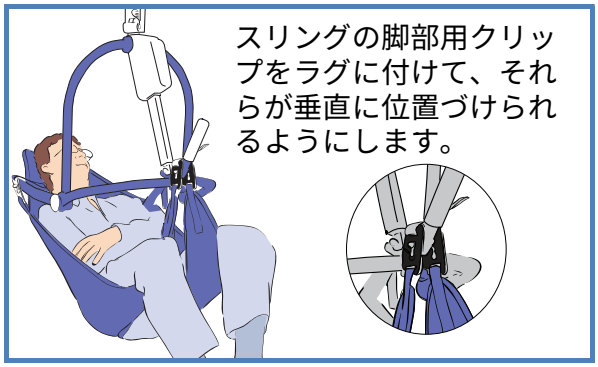


PDPS/DPS のラグ上にクリップ取付具を挿入します。

ラグがクリップ穴の上部に収まるようにスリングを引き下げて、クリップを所定の位置に固定します。

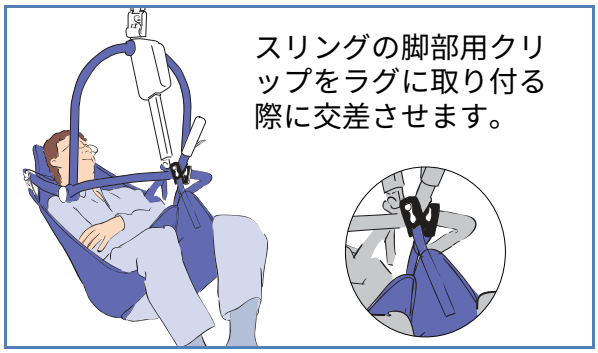
（左図は、スプレッダーバー上に貼付されているラベルでこの手順が簡単に示されています。）

方法 1 - 直線取付



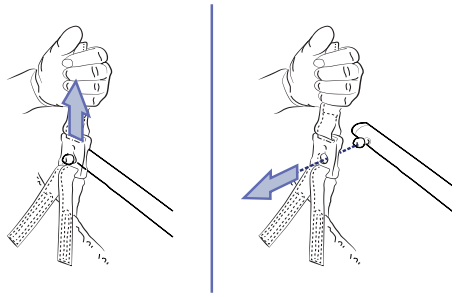
ほとんどの患者の場合、脚部クリップの直線取付が推奨される使用法です。

方法 2 - 交差脚取付



患者が脚部クリップを蹴って外してしまう傾向がある場合、脚部クリップの交差取付を適用するものとします。それにより、クリップが蹴り外されるのを防止できます。

DPS からスリングの取り外し



スリングを引き上げて、ロックを解除します。

クリップ取付具を PDPS または DPS 上のラグから取り除きます。

DPS および PDPS の操作

警告：患者の快適性と安全性を最大限に確保するため、患者がスプレッダーバーにつかまることがないように注意してください。 DPS/PDPS の操作時、腕や指が挟まれ、事故が発生する可能性があります。

DPS スプレッダーバーは、患者が希望する位置になるまでティルトハンドルを上昇または下降させて調整します。

電動 DPS スプレッダーバーを操作するには、手元スイッチの ボタンおよび ボタンを使用します。患者が希望する位置になるまで、ボタンを押し続けます。電動動作は、その傾斜角度制限に達するか、またはそのボタンが解除されるまで継続します。電動動作が中断されると、スプレッダーバーは適切な位置にしっかり固定されます。

クリップスリングを使用した患者の移乗

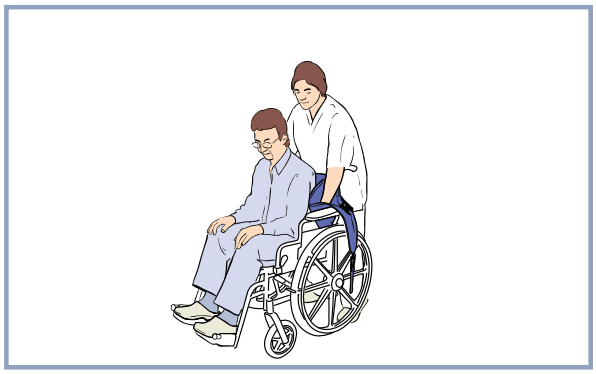
警告：スプレッダーバーが患者の近くにある場合、患者に当たるのを避けるため、必ず手で保持してください。怪我を引き起こす可能性があります。

警告:本リフトを移動する前に、患者様に接触しないように十分なクリアランスを確保してください。怪我をする可能性があります。

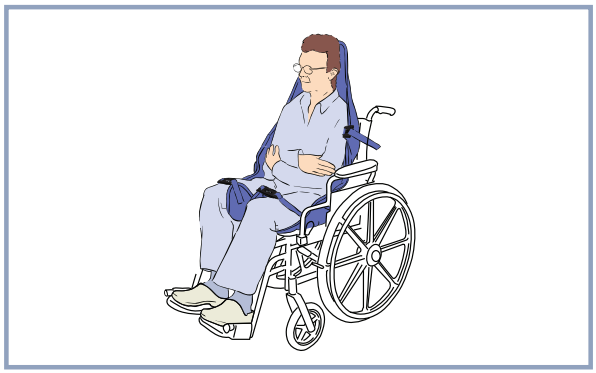
警告：患者様をリフトで持上げる際、スリングが障害物（たとえば、車椅子のブレーキやアームレスト）に接触したり絡まったりしないことを必ず確認してください。怪我をする可能性があります。

座位姿勢からの患者移乗

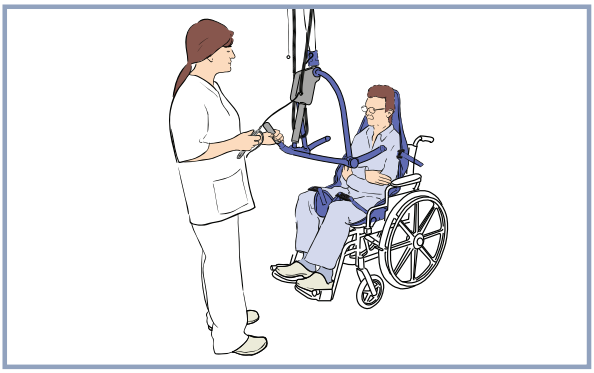
本取扱説明書に記述されているリフティング技術は、患者様の場所（たとえばベッド、椅子、車椅子など）にかかわらず、座位の患者移乗に使用することができます。



本スリングをその底部が患者様の尾骨よりもわずか下になるように配置します。 MaxiSlide® や MaxiTube® などの補助具を使用すると本スリングの配置が簡単にできます。

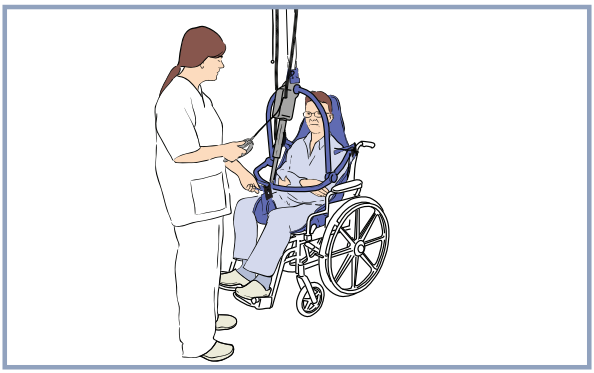


本スリングのヘッドレスト部が患者頭部を背後から覆うように支えていることを確認してください。大腿部下にある各脚部ストラップを、大腿部内側に引っ張り出します。



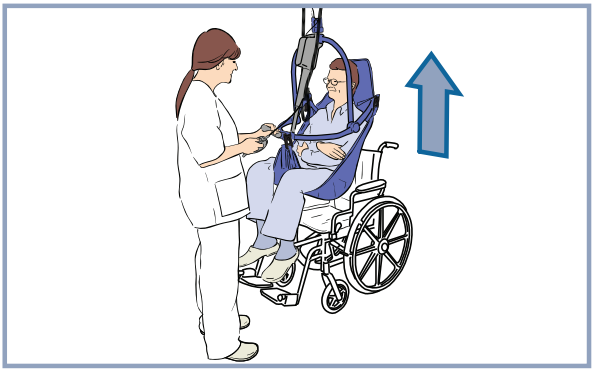
本リフトを患者様に近づけ、以下の徹底を図ります。

- スプレッダーバーがリクライニング姿勢に設定されている。
- スプレッダーバーの幅広部が肩の高さか、そのすぐ下にある。
- スプレッダーバーはスリングのショルダーストラップクリップが取り付けられる位に患者に十分に近い位置に配置して下さい。

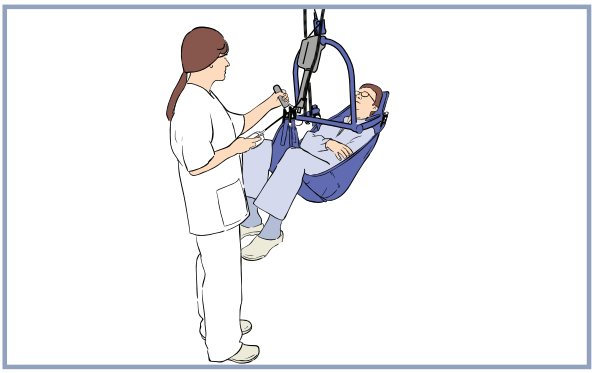


ショルダーストラップクリップを接続し、次いでフレームを傾けて脚部セクションを取り付けます。必要があれば、スプレッダーバーを、患者の体に当たらないように注意しながら、さらに少し下降させます。

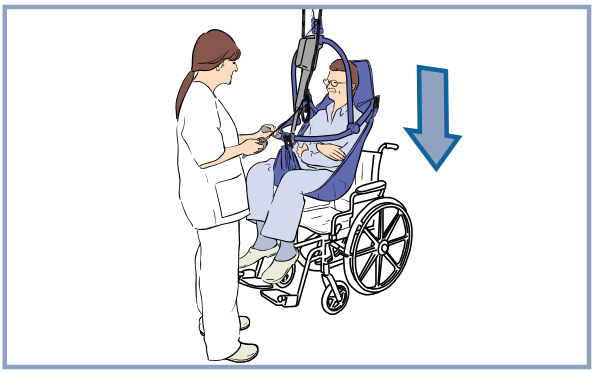
警告：スリング取付クリップが正しく取り付けられていること、および患者様の体重が徐々に支持されるにつれてその張力状態が維持されることを必ず確認してください。これにより、患者様の落下が防止されます。



注意：手元スイッチのケーブルを引っ張ってレール上で本リフトを移動させないでください。ケーブルへの損傷を引き起こし、最終的には手元スイッチの機能を損なう可能性があります。



過剰な揺動を止め、さらなる安心感を与えるためにスプレッダーバーを保持しながら、患者様の移乗を始めます。

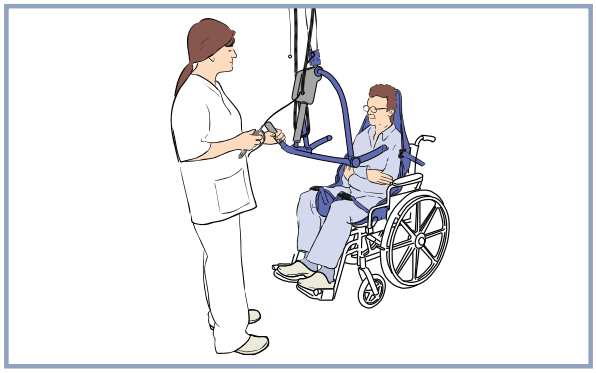


患者様が移動先に到着したら、移乗先に適した体位に応じて、患者体位の位置決めをします。

患者様が常に安定した楽な体位を維持できるように下降中に微調整を行いながら、患者様を目的の位置に下降させます。

警告：この下降機能を使用する際は、怪我のリスクがある為、スプレッダーバーが患者様に当たらないように注意してください。

患者様の体重が完全に移乗先で保持できるようになったら、脚部ストラップクリップを取り外し、次いでショルダーストラップクリップを取り外します。



本リフトを患者様から遠ざけます。

患者様の背後からスリングを取り除きます。

MS2 充電装備システムに従ってバッテリーを充電します。

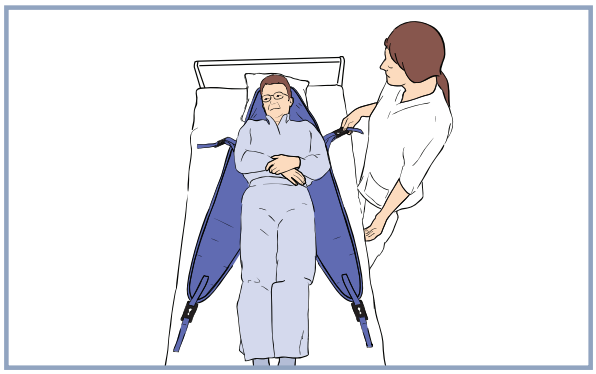
仰臥位姿勢からの患者移乗方法

本書に記述されているリフティング技術は、患者様の場所 （ベッド上やリハ室の床上など）にかかわらず臥位の患者移乗に使用することができます。

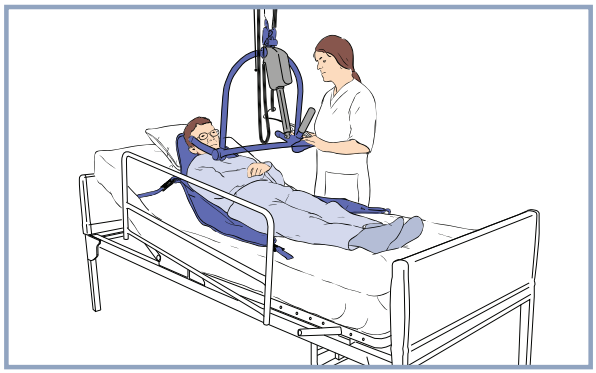
使用する前に、ベッドが適切な作業高に調節されていること必ず確認してください。

患者様を介護者に向かって横転させます。スリングを半分に折りたたんで患者の背部に沿ってベッドまたは床上に配置します。このスリングは必ず患者様の頭上部まで覆い、患者様の脊髄底部とスリングの底部とを合わせるようにします。

警告：患者様の落下を防止するため、ベッドのサイドレールが取り付けられていることを必ず確認してください。



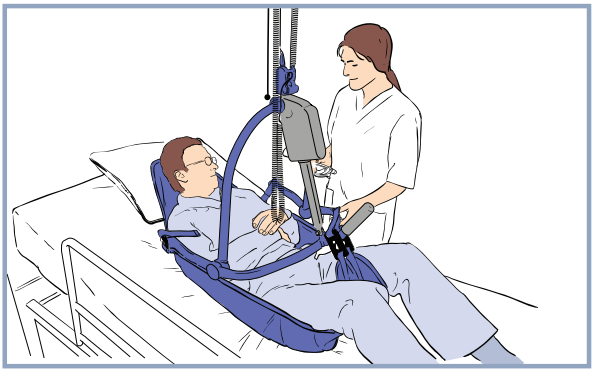
患者様を横転させてスリング上に配置し、次にわずかに反対方向に横転させて、スリングの折りたたみ部を広げます。



可能であれば、ベッドの頭部を背上げ機能を使ってわずかに起こします。

本リフトを患者様に近づけ、以下の徹底を図ります。

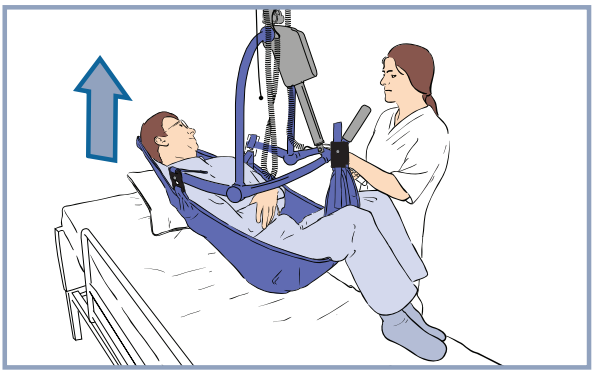
- スプレッダーバーがリクライニング姿勢に設定されている。
- スプレッダーバーはスリングのショルダーストラップクリップが取り付けられる位に患者に十分に近い位置に配置して下さい。



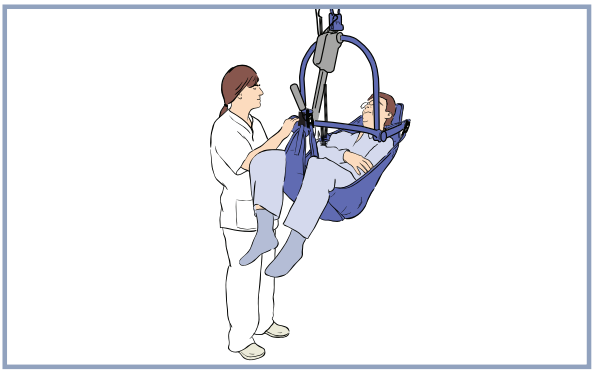
手元スイッチを使用して、スプレッダーバーのフレームが患者の体に当たらないように注意しながらスプレッダーバーを下降させます。

スリングのショルダーストラップクリップと脚部ストラップクリップをスプレッダーバーに接続します。

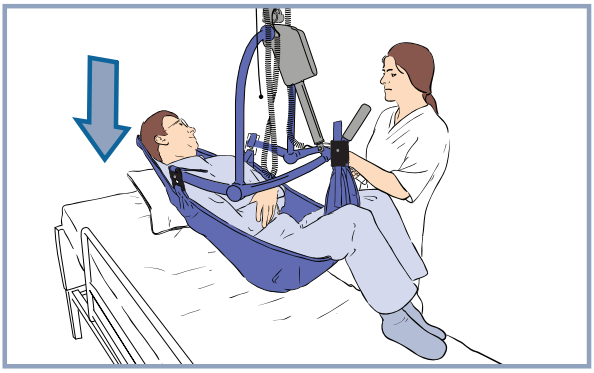
警告：スリング取付クリップが正しく取り付けられていること、および患者の体重が徐々に支持されるにつれてその張力状態が維持されることを必ず確認してください。これにより、患者様の落下が防止されます。



手元スイッチを使用して患者を持ち上げ、患者移乗に適した楽なセミリクライニング姿勢に患者を設定します。患者様を介助者の目の高さより上に持ち上げないようにしてください。



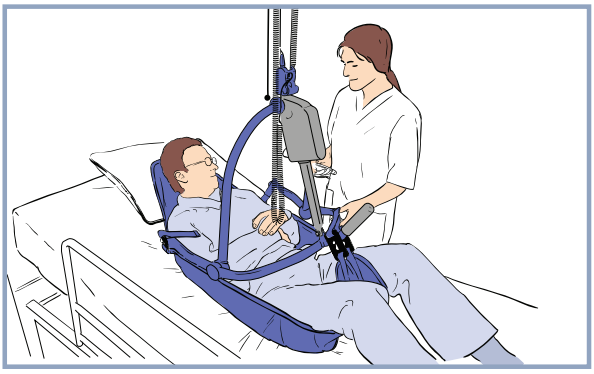
過度な揺動を抑え、さらなる安心感を与えるために、手元スイッチを使用し、スプレッダーバーを保持しながら、患者移乗を始めます。



患者様が移動先に到着したら、移動先に適した体位に応じて患者様の体位変換をします。

患者様が常に安定した楽な体位を維持できるように下降中に微調整を行いながら、患者様を目的の位置に下降させます。

警告：この下降機能を使用する際は、怪我のリスクがある為、スプレッダーバーが患者様に当たらないように注意してください。



患者様の体重が移乗先で完全に保持されるようになったら、接続クリップを取り外します。

本リフトを患者様から遠ざけます。

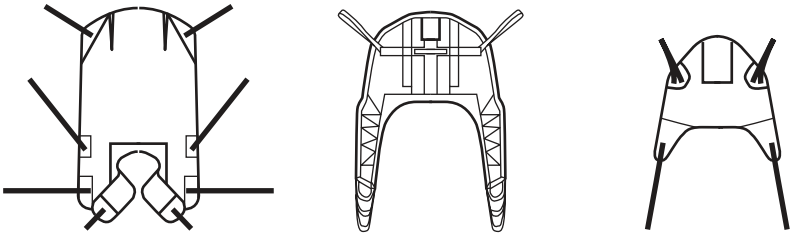
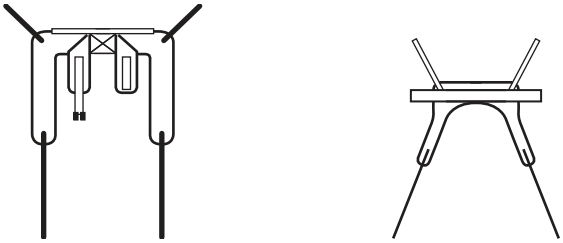
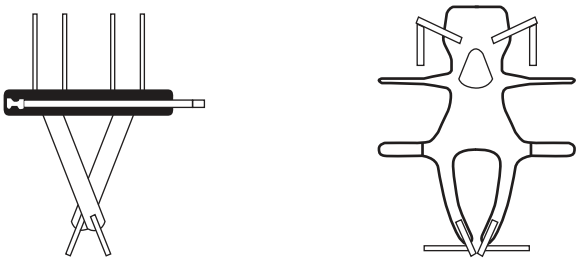
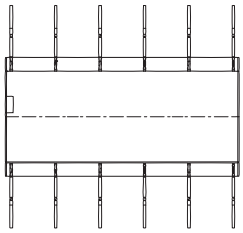
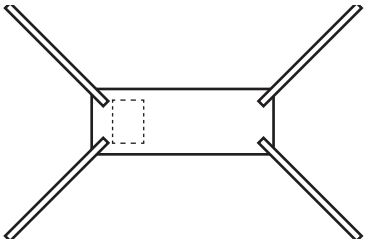
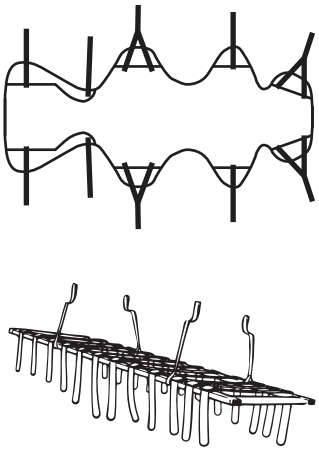
患者様の体の下からスリングを取り除きます。

MS2 充電装備システムに従ってバッテリーを充電します。

ループスリングの用途

ループスリングの互換性

以下は、 *Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトに適合する Arjo ループスリングのリストです。

スリングの用途	スリングのレイアウト
一般的な移乗	
衛生管理	
歩行訓練	
ベッド上での体位変換	
四肢	
仰臥位姿勢での移乗	

スリングの選択

Maxi Sky 2 に装着されているスプレッダーバーが、どのスリングを患者の搬送に使用できるかを決定します。以下のように、ほとんどのスリングは、サイズ別に異なる色の縁飾りまたは取付ストラップで色分けされています。

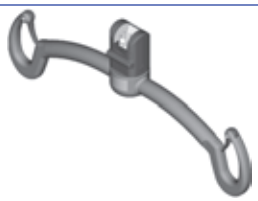
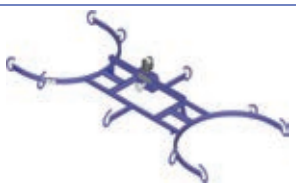
- グレーまたはティール - XXS
- 白または茶色 - XS
- 赤色 - S
- 黄色 - M
- 緑色 - L
- 青 - XL

全てのスリングが対象者の方々すべてのサイズに対応できるとは限らないことにご注意ください。多種多様なスリングが各用途別にご利用いただけます。詳細情報については、最寄りの Arjo 代理店までお問い合わせください。 Flites スリング （単一患者の複数回使用スリング）は、ほとんどのスリングモデルでもご利用いただけます。 Arjo Flites スリングを *Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトと共に使用する場合は、 Arjo Flites スリング取扱説明書を参照してください。

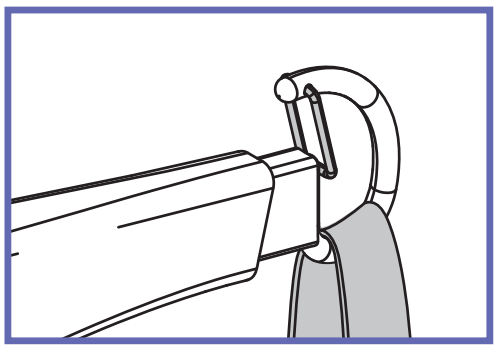
注記：必ず Arjo 製スリングだけを、 *Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトに使用してください。

スプレッダーバーの互換性

以下は、 *Maxi Sky 2* シリーズの 天井走行リフトに適合するループスリングと共に使用できるすべての Arjo スプレッダーバーのリストです。施設の評価に基づいて、他の組み合わせが適切である可能性はあります。サイズおよび組み合わせは、臨床的な判断を行った上で選択してください。

スプレッダーバー	Basic モデルのみ	説明	ループスリングのサイズ					
			XXS	XS	S	M	L	XL
700-05461-BOX	✓	2- 点式スプレッダーバー M サイズ			✓	✓	✓	
 700-19420		2- 点式スプレッダーバー S サイズ	✓	✓	✓	✓		
700-19415 700-19435 （米国市場のみ） 700-19470 700-19465 （米国市場のみ）		2- 点式スプレッダーバー M サイズ			✓	✓	✓	
700-19430		4- 点式スプレッダーバー L サイズ			✓	✓	✓	✓
700-05443	✓	4- 点式スプレッダーバー L サイズ					✓	
 700-15695		ストレッチャーフレーム					✓	✓
700-19522	✓	ストレッチャーフレーム					✓	✓

スプレッダーバーへのスリングの取り付け方法

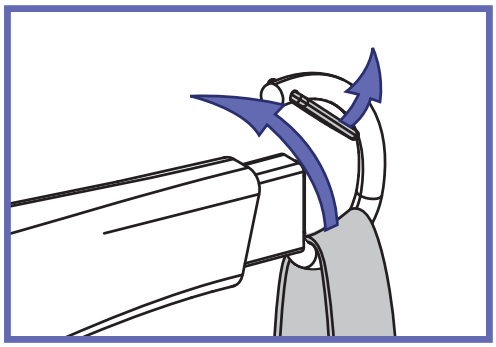


取付ループをフック上に配置します。

ループが正しい位置にあり、安全ラッチがフックを閉じていることを必ず確認してください。

すべてのループに対して同じ手順を繰り返します。

スプレッダーバーからのスリングの取り外し



ラッチを開き、フックからループを取り除きます。

すべてのループに対して同じ手順を繰り返します。

ループスリングを用いた患者移乗

ループスリングは多くのサイズでご利用いただけます。正しいサイズのスリングは、患者移乗中に患者の肩部をしっかりと保持することができます。

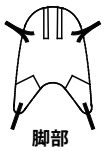
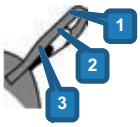
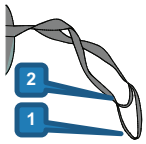
警告：スプレッダーバーが患者の近くにある場合、患者に当たるのを避けるため、必ず手で保持してください。怪我を引き起こす可能性があります。

警告：移乗経路にある障害物を必ず取り除いてください。怪我をする可能性があります。

警告：スリングが障害物に接触したり絡まったりしないことを必ず確認してください。怪我をする可能性があります。

警告：本リフトを移動する前に、患者様に接触しないように十分なクリアランスを確保してください。怪我をする可能性があります。

患者様の位置決め

ループストラップの位置の組み合わせによる本体位置			
肩	肩	脚部	臀部*
			
	3	1	1
	2	1	1
	1	1	1
	1	1	2

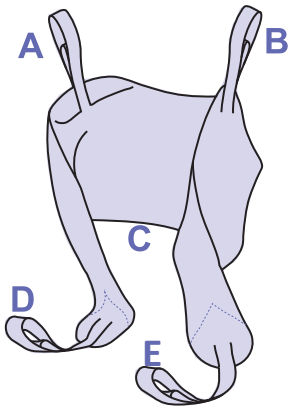
選択する特定のループスリングによって患者の体位が決定されます。異なるループの組み合わせを使用して、半座位姿勢から患者様を持ち上げ、移動することができます。

注記：多くのループがあるスリングにより、さらに多くの移乗姿勢での移動が可能になります。

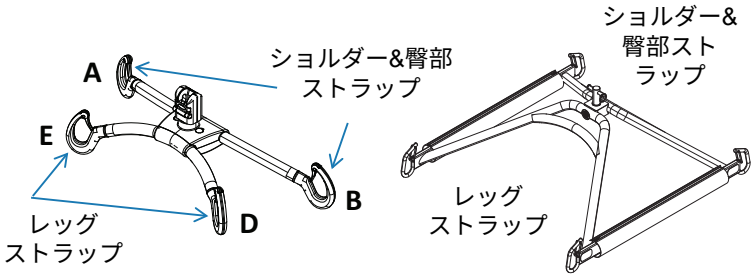
ループスリングは、患者様に装着した後に、3 通りの方法で取り付けることができます。次ページに記載する 3 つの方法のいずれにおいても、最初にスリングの各ショルダーループをスプレッダーバーの両側に接続する必要があります。

* ヒップループは、 THA6i モデルでのみご利用いただけます。

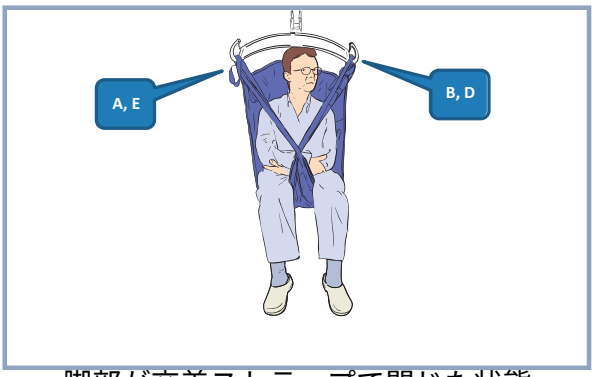
取り付け点



注記：4- 点式スプレッダーバーに対して、スリングストラップは以下のように取り付ける必要があります。



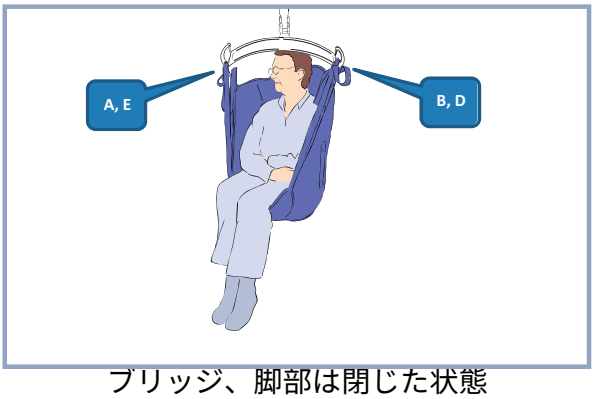
方法 1 - クロス



脚部が交差ストラップで閉じた状態

この方法は、ほとんどの一般的な移乗に推奨されます。

方法 2 - ハンモック



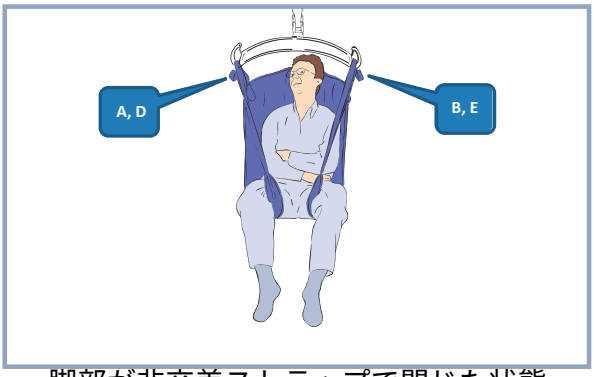
ブリッジ、脚部は閉じた状態

この方法は、脚切断患者のための快適な乗り心地を提供することができます。

これはまた、患者様の脚部それぞれにスリングストラップを取り付けることが困難な筋拘縮患者に有用な方法です。

警告：方法 2 錯乱患者様、好戦的な患者様または精神障害がある患者様には、前方に落下して負傷する可能性があるため、ふさわしくないかもしれません。

方法 3 - 個別取り付け



脚部が非交差ストラップで閉じた状態

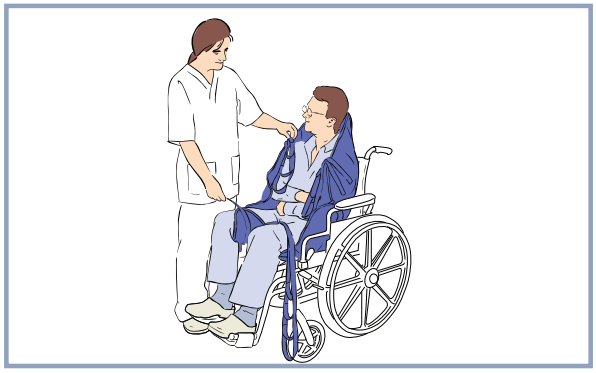
この方法は、脚部の外転状態を保つことができるため、排泄介助および衛生管理がしやすい方法です。

警告：方法 3 上半身不随患者様の場合、スリングから抜けてしまう可能性があるため、ふさわしくないかもしれません。

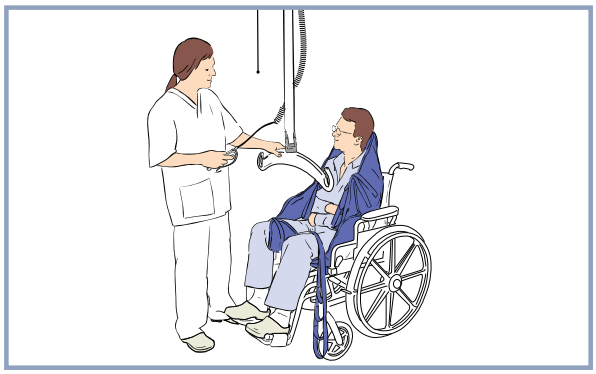
座位姿勢からの患者移乗

本取扱説明書に記述されているリフティング技術は、患者様の場所（たとえばベッド、椅子、車椅子など）にかかわらず、座位の患者移乗に使用することができます。

本スリングをその底部が患者様の尾骨よりもわずか下になるように配置します。 *MaxiSlide®* または *MaxiTube®* を使用して、本スリングの配置を簡単にサポートすることができます。

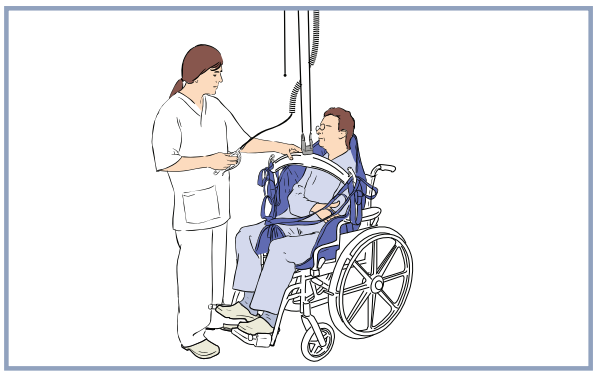


本スリングのヘッドレスト部は患者の頭部を背後から覆うように支える様に取り付け、さらに、患者大腿部の下にある各脚部ストラップを、両大腿部の間からその内側から引き出してください。



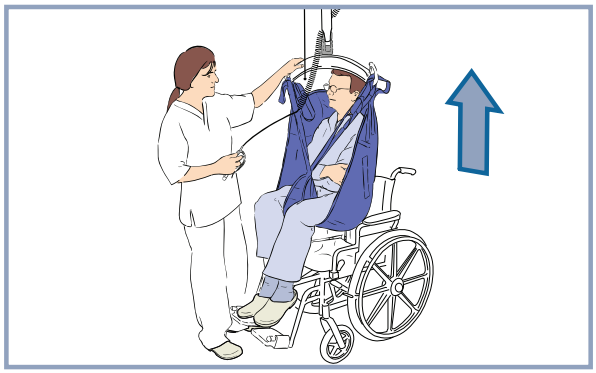
本リフトを患者様に近づけ、以下の徹底を図ります。

- スプレッダーバーが肩の高さか、そのすぐ下にある。
- スプレッダーバーが患者に十分に近い位置にあり、ショルダー部部分ループに接続できる。



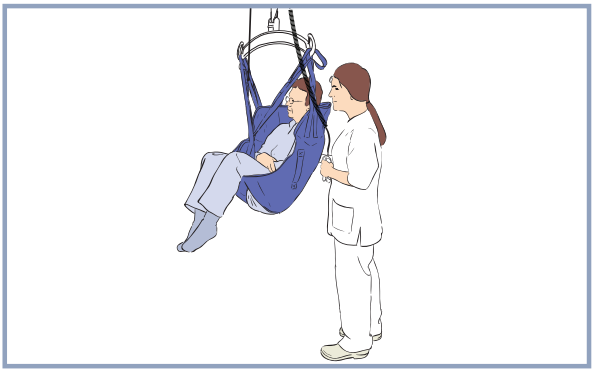
前ページに記載された 3 つの方法の一つを使用して、ショルダーループを接続し、次いで脚部セクションを接続します。

必要があれば、スプレッダーバーをさらに少し下降させます。



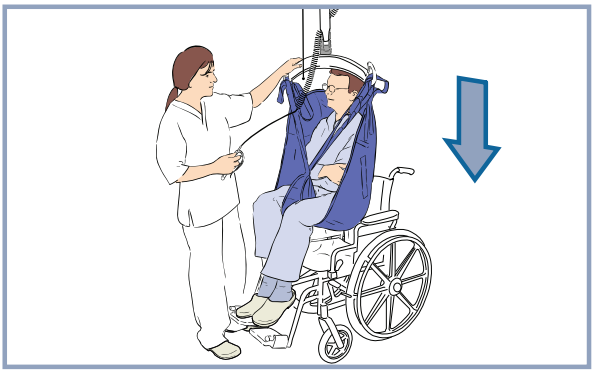
手元スイッチで患者を持上げます。スリングのヘッドサポート部は、この時点で使用できます。

警告：スリングのループ部分が正しく取り付けられていること、および患者様の体重が徐々に支持につれてその張力状態が維持されることを必ず確認してください。これにより、患者様の落下が防止されます。



過剰な揺動を止め、さらなる安心感を与えるためにスプレッダーバーを保持しながら、患者様の移乗を始めます。

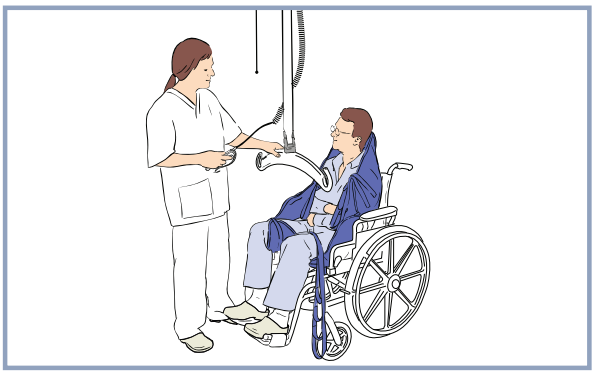
注意：手元スイッチのケーブルを引っ張ってレール上で本リフトを移動させないでください。これはケーブルの破損を招くとともに、最終的には手元スイッチの不具合を引き起こす原因になります。



患者様が移動先に到着したら、患者様を目的の位置に下降させます。

警告：この下降機能を使用する際は、怪我のリスクがある為、スプレッダーバーが患者様に当たらないように注意してください。

必要であれば、患者を椅子に移乗させる際に、スリング背面のハンドルを利用して患者様の位置を調整してください。ハンドルをしっかりと保持して、適正な座位姿勢に調整してください。



患者様の体重が完全に保持されるようになったら、脚部ループを取り外し、次にショルダーループを取り外します。

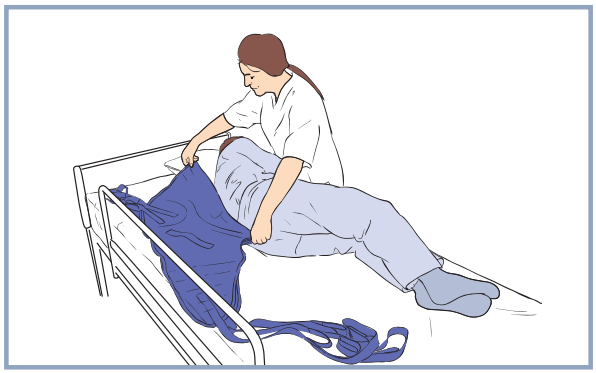
本リフトを患者様から遠ざけます。

患者様の背後からスリングを取り除きます。

MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

仰臥位姿勢からの患者移乗方法

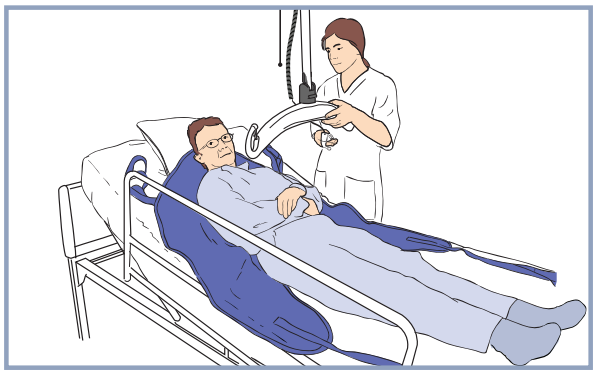
本書に記述されているリフティング技術は、患者様の場所（たとえばベッド、床上またはストレッチャー）にかかわらず臥位の患者様の移乗に使用することができます。



患者様を介助者の方向に横転させ、スリングを半分に折りたたんでベッド上または床上に患者様の背部に沿って配置し、その底部が患者様の脊髄底部と整列するようにします。

警告：患者様の落下を防止するため、ベッドのサイドレールが取り付けられていることを必ず確認してください。

患者様を横転させてスリング上に配置し、次にわずかに反対方向に横転させて、スリングの折りたたみ部を広げます。

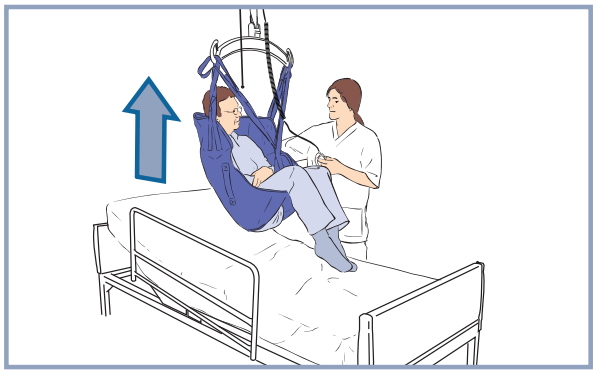


可能であれば、ベッドの頭部を背上げ機能を使ってわずかに起こします。

Maxi Sky 2 を直接患者の上に配置します。

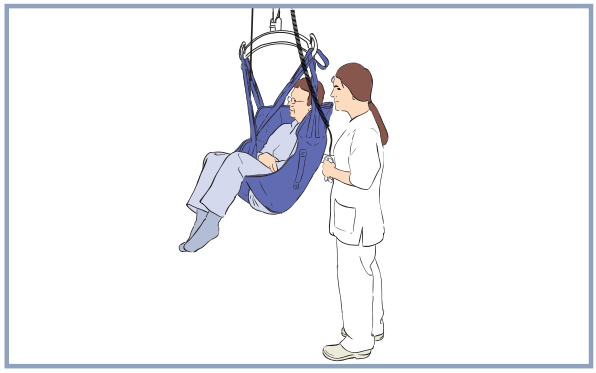
警告：手元スイッチを使用して、スプレッダーバーが患者様の体に当たらないように注意しながら下降させます。怪我をする可能性があります。

前述の 3 つの方法の一つを使用して、ショルダーループを接続し、次いで脚部セクションを接続します。



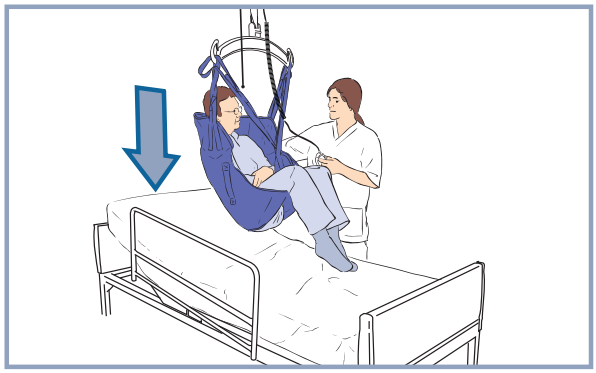
手元スイッチで患者を持上げます。

警告：ループが正しく取り付けられていること、および患者の体重が徐々に支持につれてその張力状態が維持されることを必ず確認してください。これにより、患者様の落下が防止されます。



過剰な揺動を止め、さらなる安心感を与えるためにスプレッダーバーを保持しながら、患者様の移乗を始めます。

注意：手元スイッチのケーブルを引っ張ってレール上で本リフトを移動させないでください。これはケーブルの破損を招くとともに、最終的には手元スイッチの不具合を引き起こす原因になります。



患者様を目的の位置に下降させます。

警告：この下降機能を使用する際は、怪我のリスクがある為、スプレッダーバーが患者様に当たらないように注意してください。

患者様の体重が完全に保持されるようになったら、スリング接続部を取り外します。

本リフトを患者様から遠ざけます。

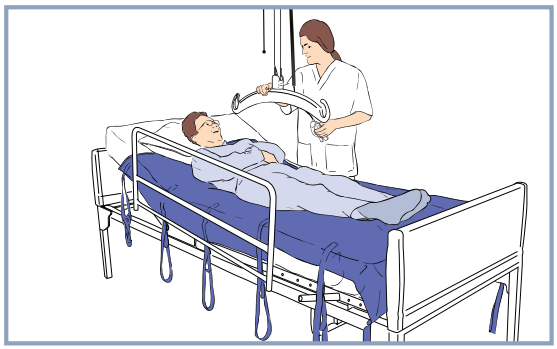
患者様の体の下からスリングを取り除きます。

MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

体位変換

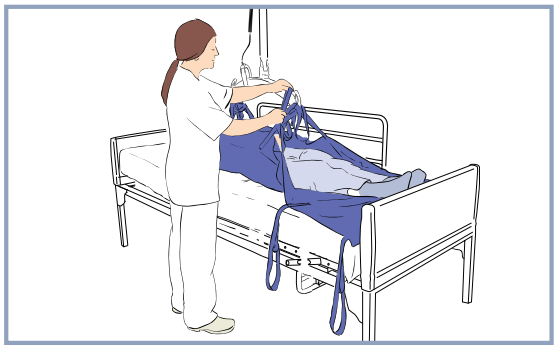
完全にベッドに寝たきりの患者様は頻繁に体位変換をする必要があります。それらの患者様の一部では、体位変換スリングがシーツの下に継続的に配置することがあります。

ベッド上での移動



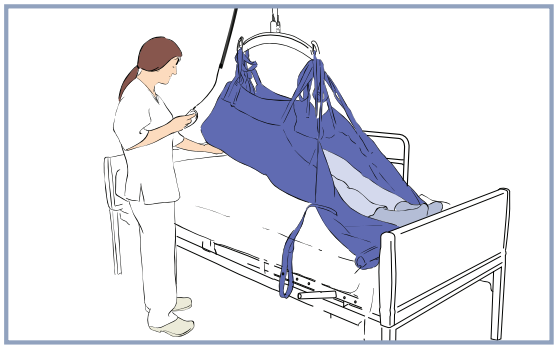
Maxi Sky 2 を直接患者様の上に配置します。

警告：手元スイッチを使用して、スプレッダーバーが患者様の体に当って怪我の原因にならないように注意しながら、スプレッダーバーを患者に対して**垂直または平行**に下降させます。



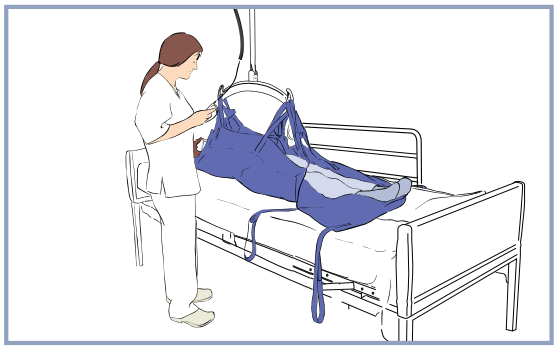
できるだけ多くのループをスプレッダーバーに接続します。必ずループが両方のフック上に力が均等に分散するようにしてください。

患者様をできるだけ真っ直ぐな状態で持ち上げるために必要なループ長を選択します。



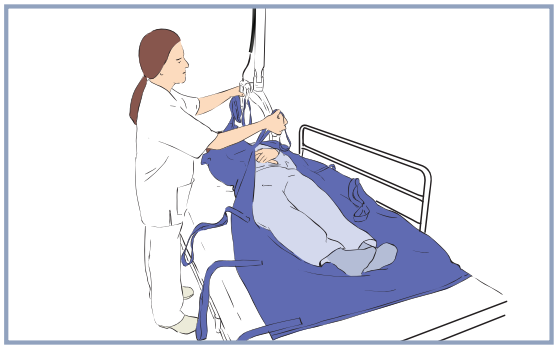
患者様の臀部が支持され、かつベッドで患者を上方に移動することが可能になるまで、*Maxi Sky 2* を使用して患者様を持ち上げます。必要であれば、 *MaxiTube®* シーツを使用します。

注記：一部の患者様の場合、患者様の症状に応じて、患者様の頭部を支持する必要があります。



患者様を目的の位置に下降させます。

警告：下降機能を使用する際は、スプレッダーバーが患者様に当たり、怪我をしないようにように注意してください。

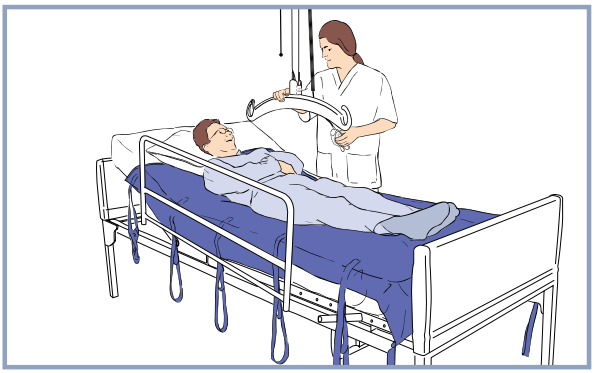


患者様の体重が完全に保持されるようになったら、すべてのループ部分を取り外します。

本リフトを患者様から遠ざけます。

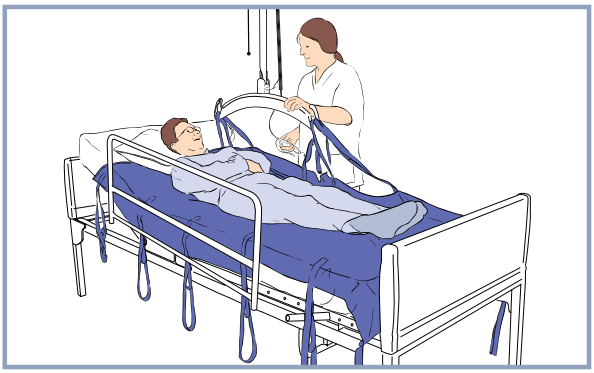
MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

ベッド上での体位変換



Maxi Sky 2 を直接患者の上に配置します。

警告：手元スイッチを使用して、スプレッダーバーが患者様の体に当って怪我の原因にならないように注意しながら、スプレッダーバーを患者に対して**垂直または平行**に下降させます。

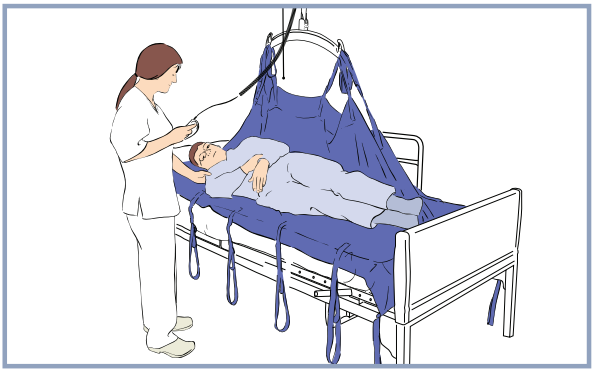


できるだけ多くのループを体位変換スリングの一側からスプレッダーバーに接続します。

必ずループが両方のフック上に力が均等に分散するようにしてください。

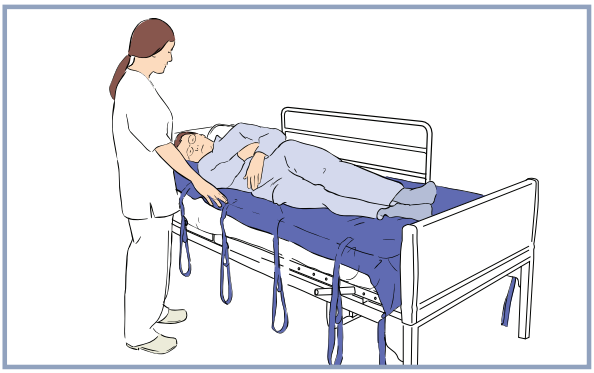
患者様をできるだけ真っ直ぐな状態で横転させるために必要なループ長を選択します。

警告：患者様の落下を防止するため、ベッドのサイドレールが取り付けられていることを必ず確認してください。



患者様が適切な体位に横転するまでスプレッダーバーを上昇させます。

注記：患者様が横転して元の体位に戻るのを防ぎ、かつ、楽な姿勢を取れるよう、枕などを使用してください。



スプレッダーバーを下降させてループ上にかかっている張力を解除します。

警告：下降機能を使用する際は、スプレッダーバーが患者様に当たり、怪我をしないようにように注意してください。

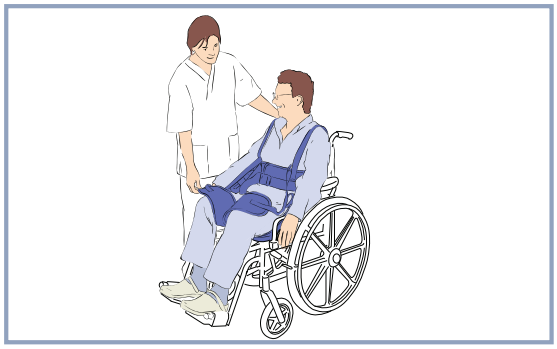
すべてのループを取り外します。

本リフトを患者様から遠ざけます。

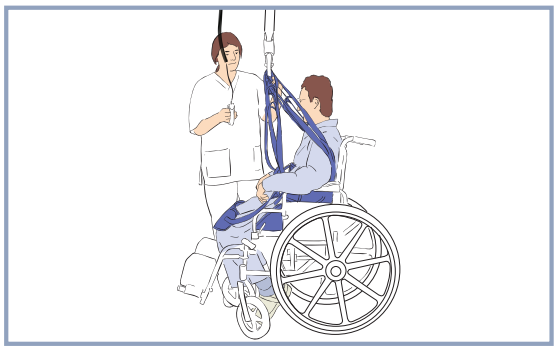
MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

歩行訓練

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトを使用して、リハビリテーション訓練を受けている患者様をサポートすることができます。スリングをつけた状態で使用するため、転倒を防止することができます。



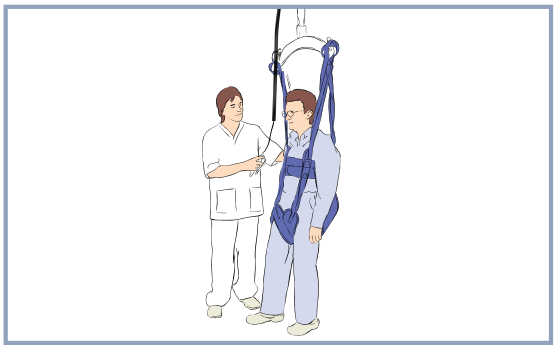
ウォーキングジャケットを患者様に装着します。



スプレッダーバーにループを接続できるよう、*Maxi Sky 2* を患者様に近い位置に移動してください。

> **警告：**下降機能を使用する際は、スプレッダーバーが患者様に当たり、怪我をしないようにように注意してください。

ループをスプレッダーバーに接続します。



すべてのループがしっかりと接続されていることを確認して、患者様の体重が適切に支持されるようになるまでスプレッダーバーを上昇させます。

> **注記：**患者はレール方向だけに移動することができます。

歩行訓練が終了した時点で、患者様を下降させて座位姿勢をとらせ、スリングを取り外します。

MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

仰臥位姿勢での患者移乗方法

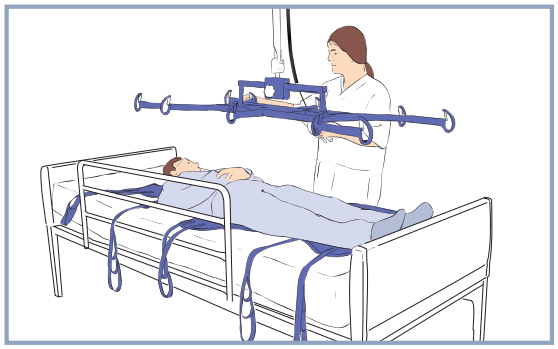
警告：Arjo ストレッチャースリングのみを使用してください。他のいかなるタイプのソフトストレッチャースリングも ***Maxi Sky 2*** とは使用しないでください。

注意：このソフトストレッチャーを ***Maxi Sky 2*** と共に使用する前に、ストレッチャーフレームがストラップに正しく取り付けられていることを確認してください。

ストレッチャースリングの頭部部分を特定してください。その頭部部分の端部に縫合されているラベルを探してください。

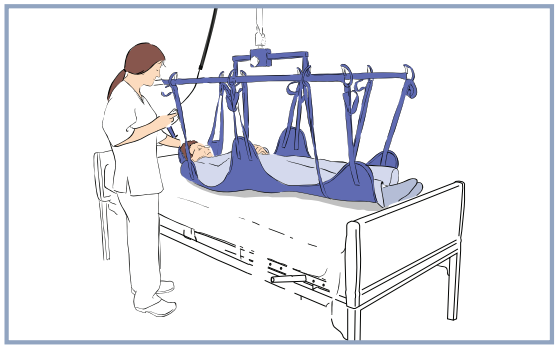
患者様を横転させることによってストレッチャースリングの位置決めします。本スリングの上部セクションが患者頭部の下になっており、本スリングの上縁部が患者様の頭上部と同じ位置になっていることを確認してください。

注記：患者様が側臥位に体位変換できない場合は、*MaxiSlide* シーツを使用してスリングを装着します。



ストレッチャーフレームをできるだけ高く上昇させた状態で、ストレッチャーフレームが患者の真上に位置するまで本リフトを移動します。

注記：フレームは左右対称であるため、いずれの側からでも使用できます。

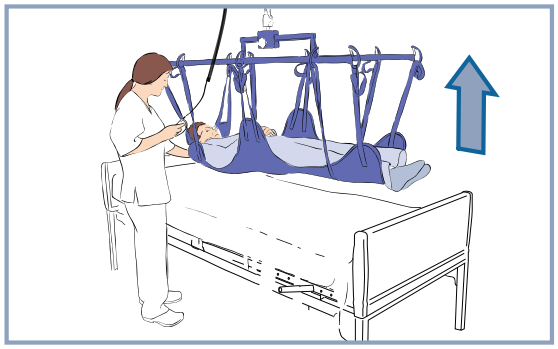


ストレッチャーフレームを患者の上に注意深く下降させ、患者の体に触れる直前で止め、フレームの中心を患者様のおへそあたりに合わせます。

警告：この下降機能を使用する際は、ストレッチャーフレームが患者様に当たり、怪我をしないように注意してください。

すべてのスリングループしっかりと接続します。

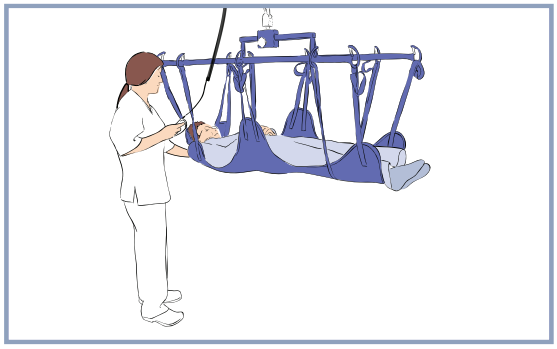
注記：取付ストラップにはいくつかの接続ループが付いています。患者様が最も楽な体位で横たわれるよう、最適なループを選択してください。



患者様がベッドからわずかに持ち上げられるにつれて、水平が維持できるよう患者様の重心に合わせてフレームを調整する必要があるかどうかを評価してください。

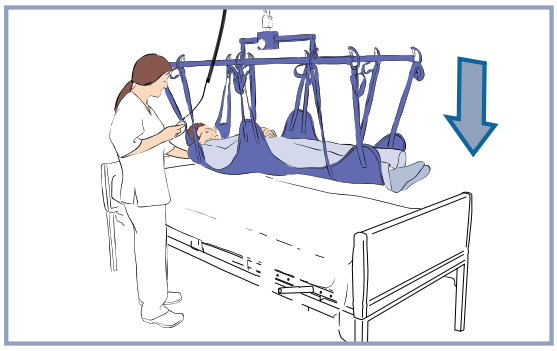
患者様をベッド上に一旦下降させ、必要に応じて調整します。詳しくは、特定ストレッチャーの説明文を参照してください。

患者様を持ち上げ、ベッドから遠ざけます。



過剰な揺動を止め、さらなる安心感を与えるためにスプレッダーバーを保持しながら、患者様の移乗を始めます。

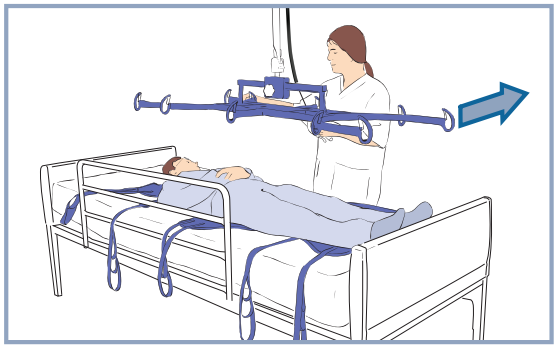
注意：手元スイッチのケーブルを引っ張ってレール上で本リフトを移動させないでください。これはケーブルの破損を招くとともに、最終的には手元スイッチの不具合を引き起こす原因になります。



患者様を目的の位置に下降させます。

警告：この下降機能を使用する際は、ストレッチャーフレームが患者様に当たり、怪我をしないように注意してください。

患者様の体重が完全に保持されるようになったら、スリング接続部を取り外します。



フレームを移動して患者から遠ざけます。

患者様の体の下からスリングを取り除きます。

MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

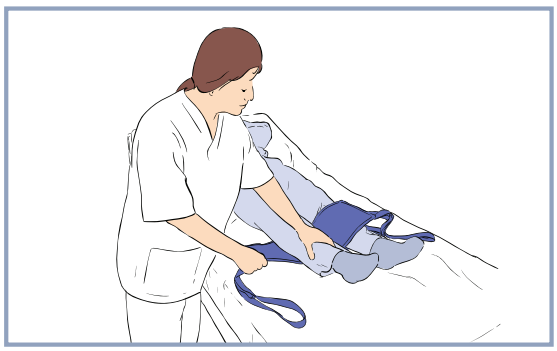
ストラップストレッチャーを使用した利用者様の持ち上げと移乗

Arjo ストラップストレッチャーを使用した利用者様の持ち上げと移乗方法については、ストラップストレッチャーの取扱説明書を参照してください。

肢サポート

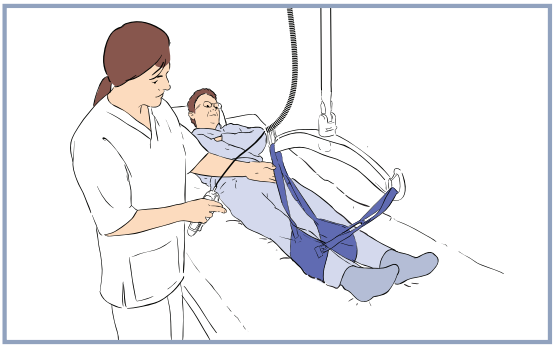
上昇位置で患者の肢をサポートする必要がある場合、 *Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトを使用して行う事ができます。

警告：落下の危険性を防止するため、肢をサポートする作業をしている間は RTC 機能または RTH 機能を起動しないでください。



肢スリングを患者の肢の周りに装着します。

警告：本スリングは、医療従事者が患者様の肢を検査した後にのみ使用可能です。

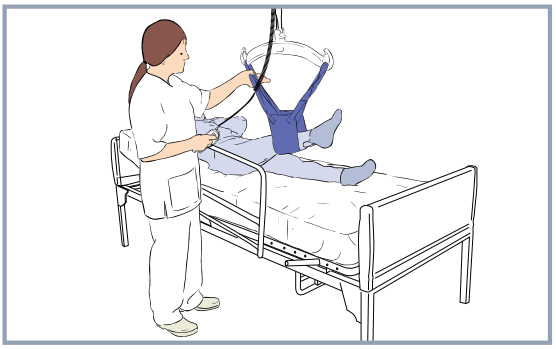


リフトはスプレッダーバーにループを接続できる様に患者様に近い位置に移動してください。

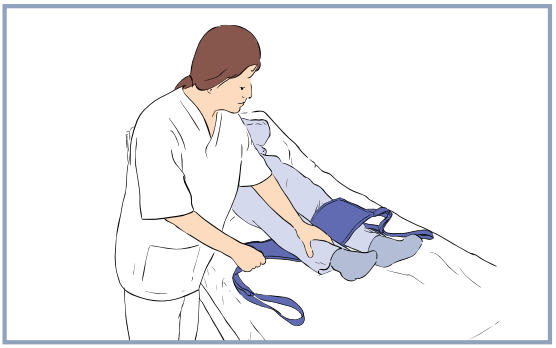
警告：下降機能を使用する際は、スプレッダーバーが患者様に当たり、怪我をしないようにように注意してください。

ループをスプレッダーバーに接続します。

警告：患者様の肢の怪我を避けるため、ループが正しく取り付けられていること、および患者様の肢が徐々に支持されるにつれてその張力状態が維持されるのを必ず確認してください。怪我をする可能性があります。



患者様の肢が希望の高さに来るまで、手元スイッチを使用して患者様の肢を持ち上げます。患者様の肢を過剰に伸展させないように注意してください。



患者様の肢を支持する必要がなくなったら、スプレッダーバーを下降させ、リフトを片付け、スリングを取り外します。

MS2 装備充電システムに従ってバッテリーを充電します。

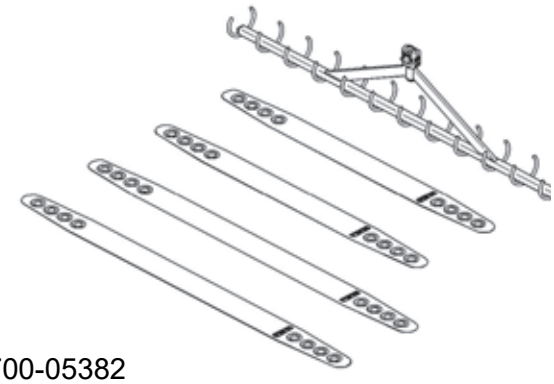
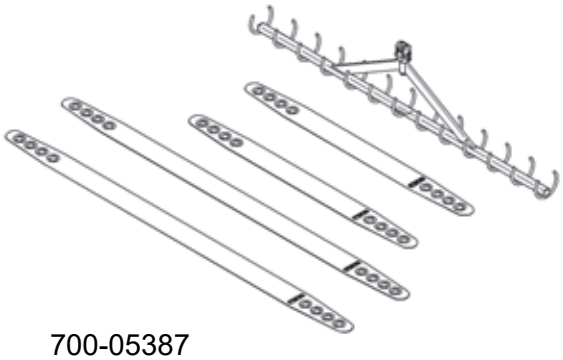
警告：下降機能を使用する際は、スプレッダーバーが患者様に当たり、怪我をしないようにように注意してください。

モルグストレッチャーの適用

スプレッダーバーの互換性

以下は、*Maxi Sky 2* シリーズの天井走行リフトに適合するすべての Arjo *Quick-Connect* モルグストレッチャーのリストです。

施設の評価に基づいて、他の組み合わせが適切である可能性があります。サイズおよび組み合わせは、臨床的な判断を行った上で選択してください。

スプレッダーバー	説明
 700-05382	モルグストレッチャー標準バンド
 700-05387	モルグストレッチャー大型バンド

モルグストレッチャーの使用方法は付属の添付文書に記載されています。

付属品の使用方法

居室・病室の評価

以下は、利用環境における付属品やリフトの配置に関して、様々な異なったアクセサリーを使用した一般的な評価例です。

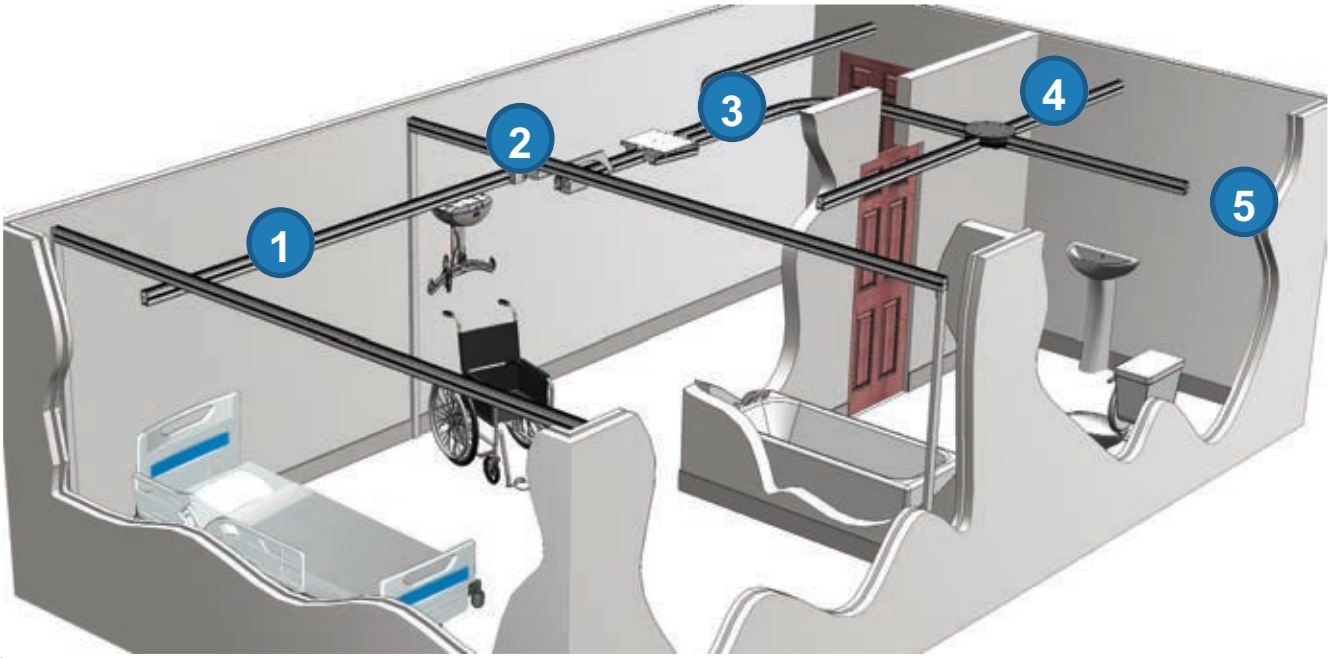
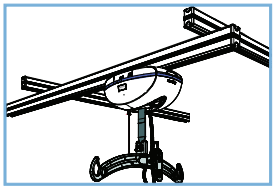


図 10

KWIKtrak™ 付属品

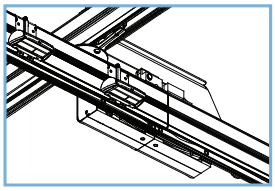
1



X-Y レールシステム

X-Y レールシステムは、本リフトを設定した領域内で、すべての方向に移動して領域全体をカバーすることができます。

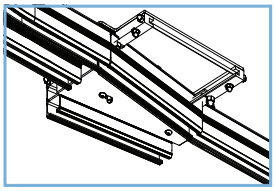
2



ゲート

ゲートは安全デバイスです。 X-Y レールシステムと固定式レールシステムとが整列されていない場合、その相互間のアクセスを遮断し、本リフトがレールから落下することを防止します。

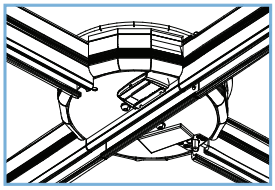
3



エクスチェンジャー

エクスチェンジャーは、本リフトの走行経路を変更して、異なる部屋や居室に向かうレールシステムに移動することができます。

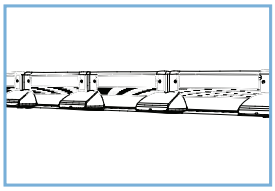
4



Turntable 付属品

Turntable 付属品は、走行経路を変更して複数方向へのレールに移動することができます。

5

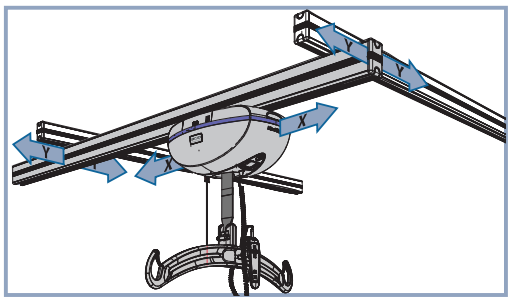


PPP （事前プログラム位置）

PPP は、レールのレイアウトに沿って、PPP 起動ステーションが設定されている所定の位置に本リフトを自動に位置決めを行うことを可能にする機能です。居室・病室の設定によって異なりますが、本レイアウト上には複数の PPP 起動ステーションがあることもあります。

X-Y レールシステムの使い方

本リフトの横方向への移動



2- 機能モデル：

本リフトの横方向 （X 軸）への移動は、スプレッダーバーを押すか引くことによって移動させます。

4- 機能モデル：

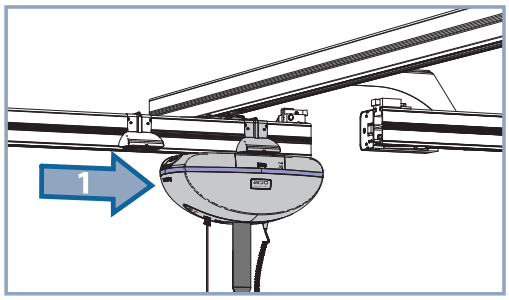
本リフトの横方向 （X 軸）への移動は、手元スイッチ上の ← ボタンまたは ⊖ボタンを使用して移動させます。

本リフトの対向方向への移動

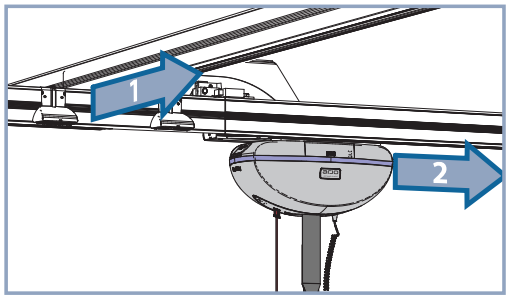
本リフトの Y- 軸方向への移動は、本リフトと横レールを同時に移動させます。これはスプレッダーバーを Y- 軸方向に押すか引くことで、横レールはスプレッダーバーに従って移動します。

ゲートの使用方法

X-Y システムを出る際



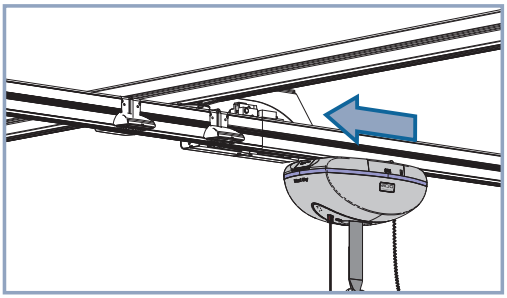
本リフトを X-軸方向に移動し、ゲートがその側部に取り付けられている横レールの先端部分に配置します。本リフトは自動的に起動ステーションと接触します。



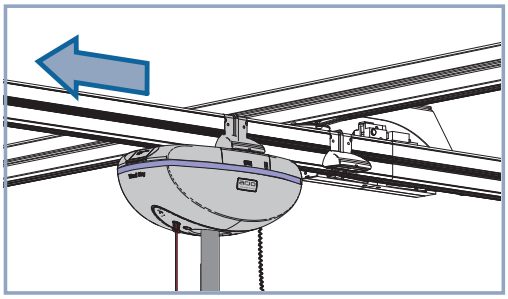
本リフトと横レール両方をともに Y 軸方向に移動し、横レールと対面のレールに位置を合わせます。この動作がゲートによって検出されると、 2 つのレールは互いにロックされて、本リフトが通過できるようになります。

> **注記：**横レールはロック状態になります。ロックを解除するには、「X-Y システムに入る」セクションを参照してください。

X-Y システムに入る



X-Y システムに対面しているレールから入る場合は、横レールは所定位置に合わせてください。本リフトにゲートを通過させます。



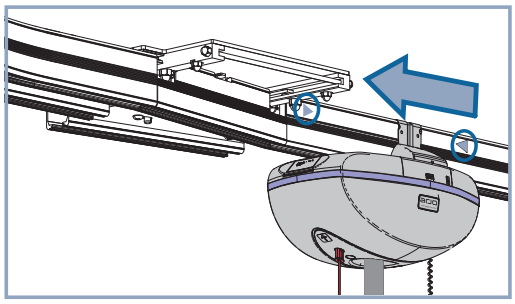
本リフトが解除ステーションを通過すると、ゲートは解除され、横レールは Y 軸方向に移動することが可能になります。

エクスチェンジャーの使用方法

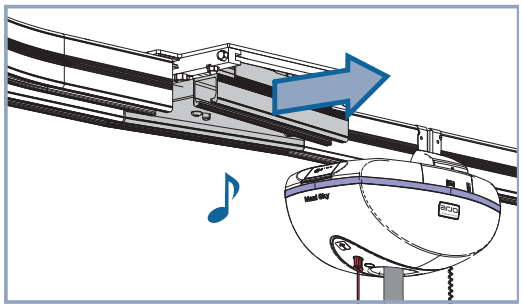
エクスチェンジャーが既に適切な経路に設定されている場合、本リフトを起動ステーションで停止させることなくリフトの移動を継続してエクスチェンジャーを通過させることができます。

エクスチェンジャーが適切な経路に設定されていない場合、以下に記載するとおり続行します。

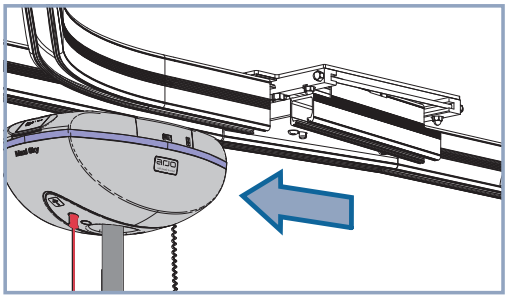
進行経路の変更



本リフトをエクスチェンジャーの横にある起動ステーションに移動します。本リフトをレール上の ▶◀ マーク間に配置します。

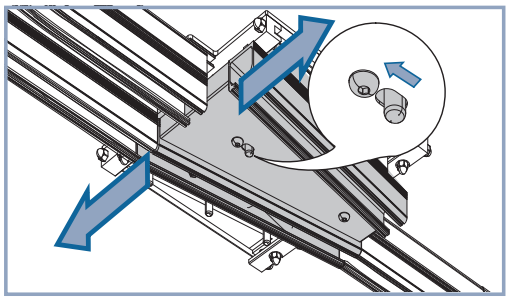


エクスチェンジャーが本リフトを検出すると、短いビープ音で検出を確認し、進行経路を変更します。



エクスチェンジャーが完全に停止するまで待機すると、本リフトはエクスチェンジャーを通過して移動することができます。

クイックリリース

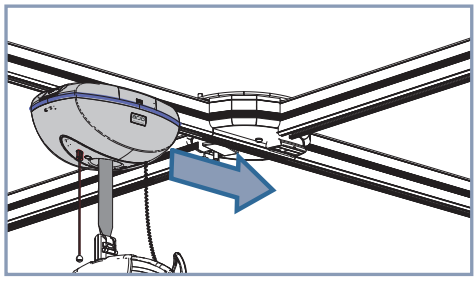


エクスチェンジャーが自動的に作動できない場合、または緊急事態が発生している場合、エクスチェンジャーの下にあるクイックリリースを使用し、そのプレートを手でスライドして進行経路を変更する事ができます。

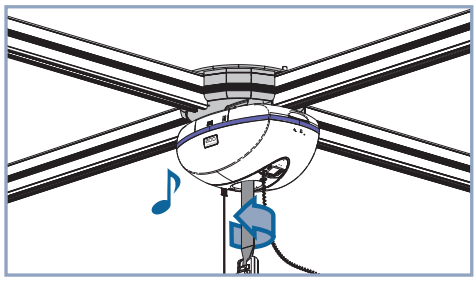
警告：挟まれ事故を防止するため、プレートのスライド経路に手や指を入れないように注意してください。

警告：本製品の落下を防止するため、本リフトがエクスチェンジャー内にある場合にはクイックリリースを起動しないでください。

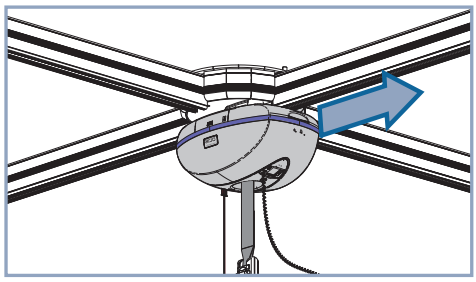
Turntable 付属品の使用方法



本リフトを*Turntable*付属品内の起動ステーションに移動します。

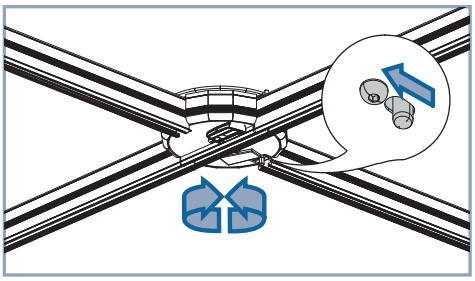


Turntable 付属品が本リフトを検出すると、ビープ音を発し、他のレール経路と整列するように回転を始めます。



Turntable 付属品が完全に停止するまで待機すると、リフトは *Turntable* 付属品から出ることができるようになります。

クイックリリース



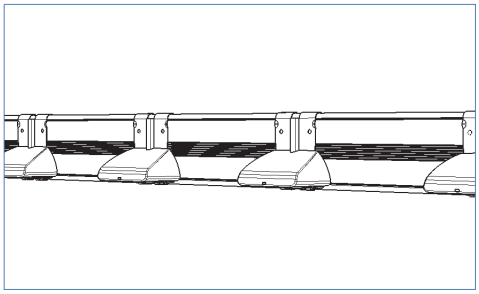
Turntable 付属品が自動的に作動できない場合、または緊急事態が発生している場合、 *Turntable* 付属品の下にあるクイックリリースを使用し、そのプレートを手でスライドして進行経路を変更することができます。

警告：プレートのスライド経路に手や指を入れないように注意してください。

PPP の使用方法

警告：本リフトに患者を乗せているときは、 PPP 機能を使用しないでください。怪我をする可能性があります。

PPP を使用することにより、本リフトは、レール上の設定されたステーション （位置）を検出することができます。



本製品を 特定の PPP ステーションに移動させるには、本リフトを移動させようとしている希望の PPP コンタクトステーションに対応する必要回数だけ i ボタンを押し、その PPP ステーション方向に ← ボタンまたは → ボタンを押します。 LED が緑に点灯してコマンドの受信を確認し、表示部では 「PPP」インジケータが点滅します。

本リフトはスプレッダーバーを上昇させて、押されたボタンの方向に移動を開始し、 i ボタンが押された回数と同じ数のステーションを通過し、最後のステーションで停止します。

コマンドは、手元スイッチ上の任意のボタンを押すか、またはスプレッダーバーに重量を追加することによって、いつでも取り消すことができます。

警告：本リフトに患者を乗せている場合に PPP が機能しないようにする、本リフト内の体重検出器が検出できるのは、最小負荷 20 kg 以上です。体重が 20 kg 以下の患者を移乗する際は、手元スイッチの操作に特別な注意を払う必要があります。

注記：PPP は 4 方向 - 機能リフトモデルのみご利用いただけます。 PPP は、工場出荷時に 「無効」に設定されているプログラム可能な機能であり、有資格技術者だけが起動することができます。「カスタマイズ」セクションを参照してください。

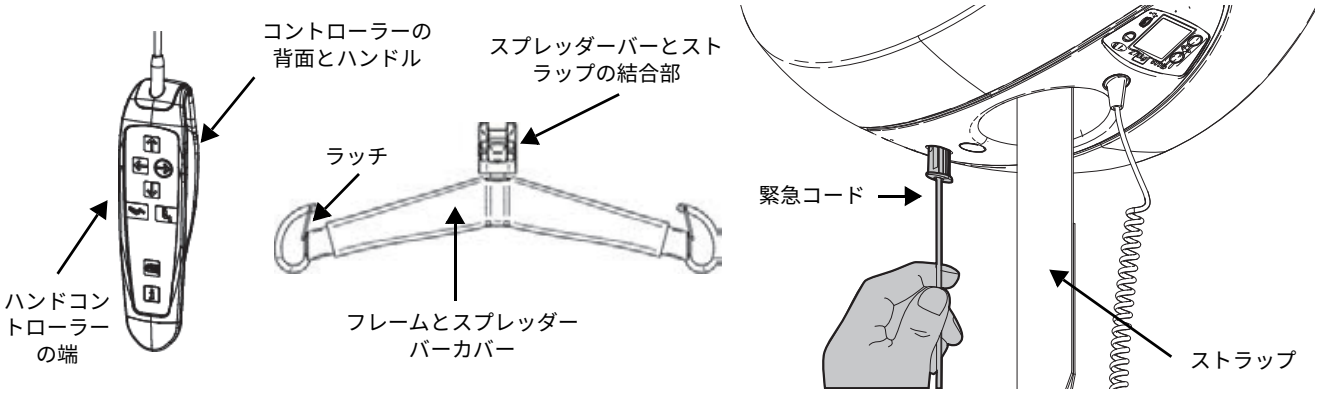
洗浄

注記：本リフトとその付属品は、各患者の使用後に洗浄することを推奨します。

リフトと付属品の洗浄

- 水に浸した布を使用して、リフトと付属品の上から下まで残留物を取り除きます
- 温水と洗浄液で湿らせた布を使用してください。
- すべての残留物を除去しながら、装置を上から下に拭いてください。
- きれいな水で湿らせた清潔な布を使用して、すべての洗浄液をふきとります。
- 乾いた布できれいに拭き取ってください。

以下に挙げられた場所に特に注意を払ってください。汚れや微生物が含まれている可能性が最も高いです。

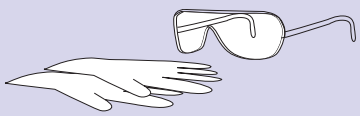


注記：緊急コードを徹底的に洗浄および消毒してください。リフトの電源が入っていることを確認します。

注意：トロリーホイールの良好な接地面を確保するため、レールの内部を 4 ヶ月に 1 度は清掃してください。この清掃は、湿らせた布を開口部に挿入し、レールの端から端までスライドさせることで行えます。

注意：本製品を水浸しにしないでください。電気部品を損傷させ、内部の腐食を引き起こす可能性があります。熱風乾燥器を使用してリフトまたは機器を乾燥する場合は、その温度が 80°C を超えないで下さい。メタノールベースの溶剤や仕上げやプラスチック部品を破損する恐れがある他の溶剤を使用しないでください。

警告：目と皮膚の怪我を防ぐために、保護用めがねと手袋を必ず装着してください。万一目に入った場合、大量の水で洗い流してください。目や皮膚が炎症を起こしている場合、医師にご相談ください。洗浄液の取扱説明書と製品安全データシートを必ずお読みください。

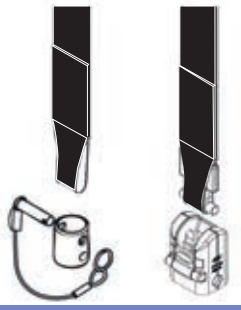
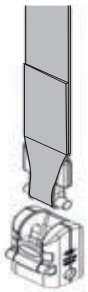
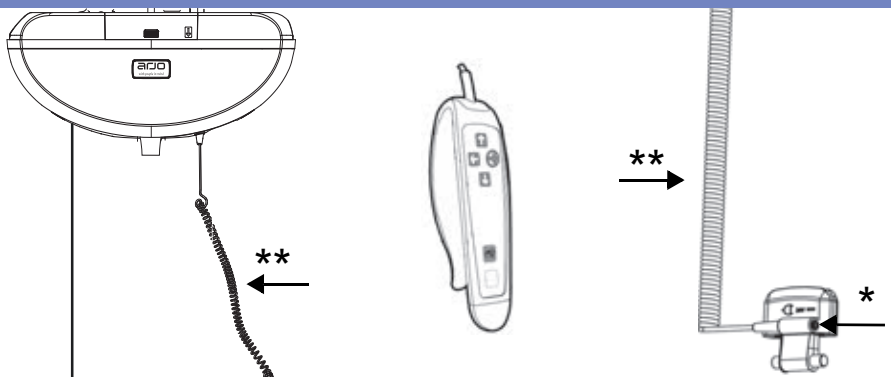


消毒

Maxi Sky 2 と付属品は、互換性のある下記の消毒剤のいずれかを含む溶液で拭いてください。
消毒方法は、医療施設または使用国に応じた地域または国のガイドライン （医療機器の除染）に準拠する必要があります。
ご不明な点は、地域の感染管理担当者にご相談ください。

注記：本リフトとその付属品は、消毒前に洗浄することを推奨します。

注記:緊急コードを洗浄および / または消毒した後、リフトの電源が「オン」であることを確認します。

リフトと付属品の消毒剤	消毒液					
	第四級アンモニウム ≤ 0.21% (2,100 ppm)					
	イソプロピルアルコール ≤ 70%					
	フェノール ≤ 1.56% (15,600 ppm)					
	次亜塩素酸ナトリウム （漂白剤） ≤ 1% (10,000 ppm)					
	過酢酸 ≤ 0.25% (2,500 ppm)					
	過酸化水素 ≤ 1.5%					
ベーシック天井走行リフトモデルおよび *Maxi Sky 2* 天井走行リフトモデル（ウーブンナイロン製ストラップ）	↓	↓	↓	↓	↓	↓
				√	√	√
Maxi Sky 2 感染管理モデル（非多孔性ストラップ）	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√
他の付属品	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√

* WCS コネクタの金属部分は、漂白剤と過酸化水素に繰り返しさらされると腐食する場合があります。

** ハンドセット、WCS および PDPS ケーブルが漂白剤または過酸化水素に繰り返し接触すると、汚れが付着する可能性があります。

付属品の消毒剤	消毒液					
	第四級アンモニウム ≤ 0.21% (2,100 ppm)					
	イソプロピルアルコール ≤ 70%					
	フェノール ≤ 1.56% (15,600 ppm)					
	次亜塩素酸ナトリウム （漂白剤） ≤ 1% (10,000 ppm)					
	過酢酸 ≤ 0.25% (2,500 ppm)					
	過酸化水素 ≤ 1.5%					
2 点式スプレッダーバー M サイズ (700-05461-BOX) および 4 点式スプレッダーバー (700-05443)	↓	↓	↓	↓	↓	↓
				√	√	√
ストレッチャーフレーム (700-19522) およびモルグストレッチャー （700.05380、700.05385、 700-05382 および 700-05387）	↓	↓	↓	↓	↓	↓
				√	√	√
手動オープン DPS (700-19340-BOX)	↓	↓	↓	↓	↓	↓
			√	√	√	√
2 点式プレッダーバー M サイズ （700-19415、 700-19435 [米国市場のみ]）	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√*	√*	√*	√	√	√
2 点式スプレッダーバー S サイズ (700-19420)& 2 点式 IC スプレッダーバー M サイズ （700-19470、 700-19465 [米国市場のみ]）	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√
4 点式プレッダーバー (700-19430) およびストレッチャーフレーム (700-15695)	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√
手動フラット DPS （700-19475 および 700-19200）	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√
手動オープン DPS (700-19480)	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√
M サイズ PDPS (700-19350) および L サイズ PDPS (700-19355)	↓	↓	↓	↓	↓	↓
	√	√	√	√	√	√

* この特定の モデルのカバーはパッド付きビニールまたはプラスチックの場合があります。ビニールの場合、これらの消毒剤は使用しないでください。

取り扱い、運搬および保管

リフトの輸送時は激しい衝撃を避けてください。本リフトは、バッテリーの充電を行うことなく長期間にわたって保管しないでください。

Maxi Sky 2 を保管または出荷する場合は、その前に電源がオフ（緑のライトなし）になっていることを確認してください。

バッテリーの交換

Arjo の *Maxi Sky 2* シリーズ 天井走行リフトには密閉形鉛蓄電池が使用されています。Arjo バッテリーではメモリー効果が発生しないため、再充電前にバッテリーを完全に放電させる必要はありません。

バッテリーの交換は、１回の充電で移乗回数が顕著に減少した時点で行ってください。*Maxi Sky 2*からビープ音が聞こえ、赤ランプが点滅しているのに気づいたら、本取扱説明書の「トラブルシューティング」セクションを参照し、バッテリーの問題かどうか判断してください。バッテリーを交換する場合は、必ず最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。

注意：Arjo から支給されていないバッテリーを使用しないでください。バッテリーは、Arjo 充電システムに合わせて特別設計されています。認定されていないバッテリーの使用を試みると、リフトおよび / または充電器を著しく破損する可能性があります。

年次点検

Maxi Sky 2 および付属品は、最小限の要件として 12 ヶ月ごとに点検・整備してください。有資格担当者以外は点検作業を行わないでください。

ストラップの点検

ストラップが損傷している場合や、磨耗または変色の兆候が現れている場合、ストラップ破断前の安全耐荷重が急速に低下する可能性があるので、患者または介助者にとってとても危険です。 Arjo は以下の通り、4 ヶ月に 1 度の点検・検査を推奨します。

- ストラップを完全に巻き戻します。
- 図 11 に示すとおり、摩耗または変色の兆候の有無を確認してください。

警告：上記のような摩耗の兆候、あるいは他の視認できる欠陥がある場合、ストラップは有資格担当者が点検し、必要であれば交換する必要があります。Arjo は、以下の通り、どちらか早い方ならびにモデルに応じてストラップを交換することを推奨します。

- 織ナイロンストラップ - 2 年または 5000 サイクルごと
- 非多孔性ストラップ - 2 年または 5,000 サイクルごと

損傷したストラップを交換せずにリフトを継続使用すると、介助者または患者の安全性が大幅に損なわれます。

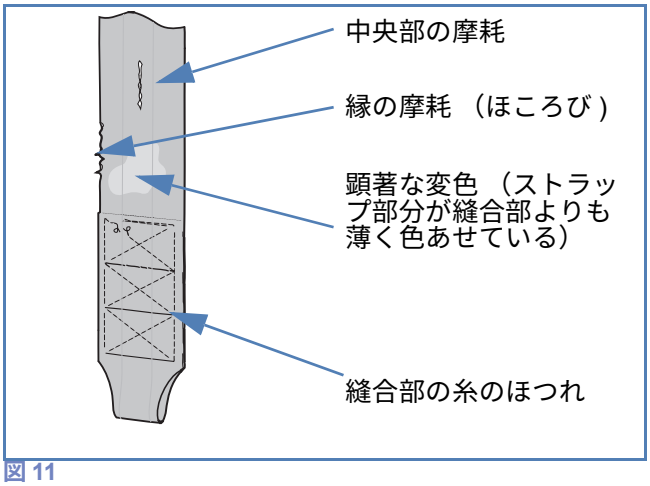


図 11

メンテナンス要件

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトには、保守・点検が必要であることを使用者に知らせる保守モニターが装備されています。本画面は、「保守が必要」記号を表示してユーザーの注意を引き、保守関連のメッセージが画面上に表示されます。定期的に点検を行なうことは、部品の耐久性および患者や使用者の安全を確保します。

メンテナンス計画

本製品は損傷しやすいので、当初の製造基準を保つため、以下の保守手順を指定時に行う必要があります。

警告：以下のチェツクリストに記載のメンテナンスは、メーカーが推奨する最低限度です。一部の地域では、より頻繁に点検を行う必要があります。定期的に検査することなく、あるいは不具合が見つかりながら本製品を使用し続けると、使用者および患者の安全を著しく危険にさらすことになります。地方自治体の条例および基準は、製造メーカーの基準よりもさらに厳しい場合があります。耐荷重負荷テストは、12 ヶ月ごとに全システムで行う必要があります。サービスおよび予防保全は、Arjo 販売代理店で手配することができます。この取扱説明書で規定されているメンテナンスを行うことで、事故を防止するとともに、修理コストを低減させることができます。

警告：安全性に関する保守および認定サービスは、Arjoによるメンテナンスサービス手順の十分な訓練を受け、適正な工具と、部品リストおよびサービス取扱説明書を含む適正な文書を備えた有資格者が行う必要があります。これらの要件が満たされない場合は、人身事故および / または危険な製品の状態になる可能性があります。

警告：リフトを患者様に使用している間は、保守または修理は絶対に行わないでください。

本リフトの点検	頻度				
	2 年に 1 回、または 5000 サイクルごと				
	年 1 回または 2500 サイクルごと				
	4 ヶ月 または 1000 サイクルごと				
	毎回の使用前				
	初期				
ユーザー点検	↓	↓	↓	↓	↓
外部損傷の形跡、欠損部品または破損パネルを点検する。	√	√			
ストラップの磨耗、変色、コーティングのはく離、糸のほつれを点検する。		√	√		
バッテリーを再充電する。	√	√			
緊急停止機能を確認する。			√		
緊急コード （紐）に損傷がないことを確認する。			√		
緊急下降の機能を検証する。				√	
有資格認定サービス担当者による点検	↓	↓	↓	↓	↓
織ナイロンストラップを交換する。					√
非多孔性ストラップを交換する。					√
フレーム部品のインターロックおよび金具類に異常がないか点検し、部品の欠損がないことを確認する。				√	
レール内のホイールを点検して、損傷、錆やまたは亀裂がないことを確認する。破損している場合は交換する。				√	
ギアが摩耗していないか点検し、必要に応じて注油する。				√	
接続部を点検して、適切に取り付けられていることを確認する （本体とスプレッダーバー）。				√	
緊急ブレーキのラッチが自由に開閉することを確認する。				√	
緊急下降装置に異常がないことを確認する。				√	
リフトの補助用上昇・下降ボタンを検証する。				√	
SWL （安全耐荷重）による荷重テスト。				√	
ECS および互換ゲートシステムを装備したモデルの場合：ECS の部品を清掃します。					√

付属品の点検	頻度				
	2 年に 1 回、または 5000 サイクルごと				
	年 1 回または 2500 サイクルごと				
	4 ヶ月 または 1000 サイクルごと				
	毎回の使用前				
	初期				
ユーザー点検	↓	↓	↓	↓	↓
すべてのスリング部品 （付属品、布、縫い目部およびストラップ）を点検し、摩耗、変色、劣化 または糸のほつれの兆候がないことを確認する。		√			
タグに表示されている指示に従ってスリングを洗浄。	必要時				
スプレッダーバーの損傷や亀裂を点検する。必ずすべての取付具を適正に固定する。		√		√	

レールの点検	頻度				
	2 年に 1 回、または 5000 サイクルごと				
	年 1 回または 2500 サイクルごと				
	4 ヶ月 または 1000 サイクルごと				
	毎回の使用前				
	初期				
ユーザー点検	↓	↓	↓	↓	↓
ホイール接触面に蓄積した埃を取り除くためレールの内部を掃除する。	√		√		
湿らせた布で充電ステーションの接点を掃除する。			√		
エンドストッパー、充電ステーション、レールキャップが所定の位置に取り付けられていることを確認してください。	√	√			
有資格認定サービス担当者による点検	↓	↓	↓	↓	↓
軌道を通ってエッジウェイを通過するもの （ボルトエンドストッパー）を除く 20 Nm (15 lbf ft) までのトルクエンドストッパー。	√			√	
ブラケットロック装置が露出されていないことを確認する。	√			√	
レール接合部が閉状態であること、およびスプリングピンが中央にあることを確認する。	√			√	
無負荷時にレールが水平であることを確認する。	√			√	
リフトの調整済み耐荷重設定が取付時の定格荷重以下であることを確認する。	√			√	
付属品 （X-Y システム、ゲート、エクスチェンジャー、 *Turntable* モジュールおよび PPP）が正しく保守されていることを確認する。	√			√	
取付部 （天井ブラケット、壁柱、壁ブラケット）の変位、損傷、外れがないことを確認する。	√			√	
トラックエンドストッパーを点検する。金具類を点検し （必要に応じて）締め付ける。				√	
SWL （安全耐荷重）による荷重テスト。				√	
ECS および互換ゲートシステムを装備したモデルの場合：接触ストリップを清掃します。					√

注記：思い通りに製品が機能しない場合、直ぐに地域の Arjo 代理店へ連絡してサポートを依頼してください。

警告：落下の危険性を防止するため、使用前には毎回必ず、すべてのエンドストッパーが所定位置にあることを確認してください。

トラブルシューティング

想定される問題	チェック事項
電源をオンにしても、 LED が点灯しないで、表示部には何も表示されない。	• 本製品を充電ステーションに移動させてください。 • 本製品が充電されない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。
LED が赤で表示部には何も表示されない。	• 本体が 「スリープモード」に入っている可能性があります。手元スイッチ上のボタンを押し、表示部に何か表示されるかどうかチェックする。 • 問題が解決しない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。
LED が緑で表示部には何も表示されない。	• 本体が 「スリープモード」に入っている可能性があります。手元スイッチ上のボタンを押し、表示部に何か表示されるかどうかチェックする。 • 問題が解決しない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。
スリープモードの後に保守コードが表示される。	• 本製品は使用できますが、できるだけ早く Arjo の有資格担当者が保守を行わなくてはなりません。
⚠ アイコンが表示部に表示され点滅する。	• 使用されているモーターがデューティサイクルに達しています。左右モーター、昇降モーターまたは座位モーターのいずれかに問題がある可能性があります。「triangle-exclamation point」記号の表示が消えてから、モーターを再び使用してください。
LED が全く点灯しない。表示は問題ない。	• LED が有効の場合は、「customize」メニューをチェックしてください。 • LED が有効なのに依然として点灯しない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。
リフトが使用中にビープ音を発する。本体は持ち上げ動作ができないが、下降させることは依然として可能である。	• 低バッテリー残量状態です （低バッテリー残量を示す表示があるか確認してください）。本リフトを充電ステーションに戻してください。
バッテリーレベルは満充電ではないのに、ユニットが充電器に接続されているとき、または充電器が WCS コネクタに接続されているときに、 LED が緑に点滅しない。	• 充電器のプラグが標準コンセントに差し込まれていることを確認し、コンセントに電力が供給されていることを確認してください。充電ステーションが機能している場合は、緑のランプが点灯します。 • 2 枚のブレード （接触部分）が充電ステーションに正しく接触しているかどうかチェックしてください。 • 必要があれば、中性洗剤でリフトの接触ブレードおよび / または充電ステーションの接触板の汚れを落としてください。 • 問題が解決しない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。 • MS2 WCS：WCS コネクタに損傷または汚れ / 腐食がないか確認してください。 • 充電器が標準のコンセントに接続されているかどうか、コンセントに電力が供給されているかどうか、および 2.5DC コネクタに電力が供給されているかどうかを確認します。
RTC ボタンを 3 秒間押しても RTC が作動しない。	• スプレッダーバーが高さの上限に近すぎないか確認してください。スプレッダーバーを 15 cm （6 インチ）下げ、 RTC ボタンを 3 秒間押します。 • RTC 機能が有効かどうか確認してください （「カスタマイズ」セクションを参照）。 • ユニットの電源を切り、電源を入れ直します。ディスプレイに日付の入力を求められた場合は、リアルタイムクロックバッテリーに問題がある可能性があります。最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせください。
RTC は上限またはそれ以前で停止する。ユニットからビープ音が鳴る。 （ディスプレイに誤動作コードまたはシンボルが表示されていない）。	• スプレッダーバーが高さの上限に近すぎないか確認してください。スプレッダーバーを 15 cm （6 インチ）下げ、 RTC ボタンを 3 秒間押します。 • パラメータを 「Auto」に設定した場合、← または → ボタンを用いて本製品を充電ステーションに移動させてください。リフトの充電が始まったら、リフトを充電ステーションから外し、再び RTC 機能をテストしてください。**注記：**リフトの電源をオフにすると、リフトは充電ステーションの位置を忘れてしまいます。この場合、上記の手順を繰り返して本製品に充電ステーションの位置を再設定してください。 • ディスプレイに誤動作コードが表示されていない場合は、「up」を押してストラップを （スプレッダーバーの重量のみで）上限まで巻き上げます。 • 問題が解決されない場合は、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。

想定される問題	チェック事項
リフトを充電に復帰させると、リフトが充電ステーションを通過してしまう。	• 充電ステーションのプラグが標準コンセントに差し込まれていることをチェックし、コンセントに電力が供給されていることを確認してください。充電ステーションが機能している場合は、緑のランプが点灯します（「充電システム」セクションを参照）。 • 中性洗剤で充電ステーションのブレードの汚れを落としてください。 • 本リフトの接触ブレードの汚れと形状をチェックしてください。 • リフトを手で押して充電ステーションを通過させ、リフトが充電するかどうか観察し、再度、RTC 機能を試してください。 • 問題が解決しない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。

わずか数回（3 ～ 5 回）の患者移乗後にバッテリーが容量が下がってしまう。	• 本リフトを最低8時間充電ステーションで充電してください。
	• リフトが充電ステーションを検出しない場合は、以下の措置を取ってください：
	  • 充電ステーションのプラグが標準コンセントに差し込まれていることをチェックし、コンセントに電力が供給されていることを確認してください。充電ステーションが機能している場合は、緑のランプが点灯します（「充電システム」セクションを参照）。
	  • 接触ブレードが充電ステーションと適切に接触しているかどうかチェックしてください。必要があれば、本製品のブレードおよび / または充電ステーションの接触板の汚れを落としてください。問題が解決しない場合は、最寄りの Arjo 代理店に保守サービスをご依頼ください。
	  • MS2 WCS：WCS コネクタに損傷または汚れ / 腐食がないか確認してください。
	  • 充電器が標準のコンセントに接続されているかどうか、コンセントに電力が供給されているかどうか、および 2.5DC コネクタに電力が供給されているかどうかを確認します。

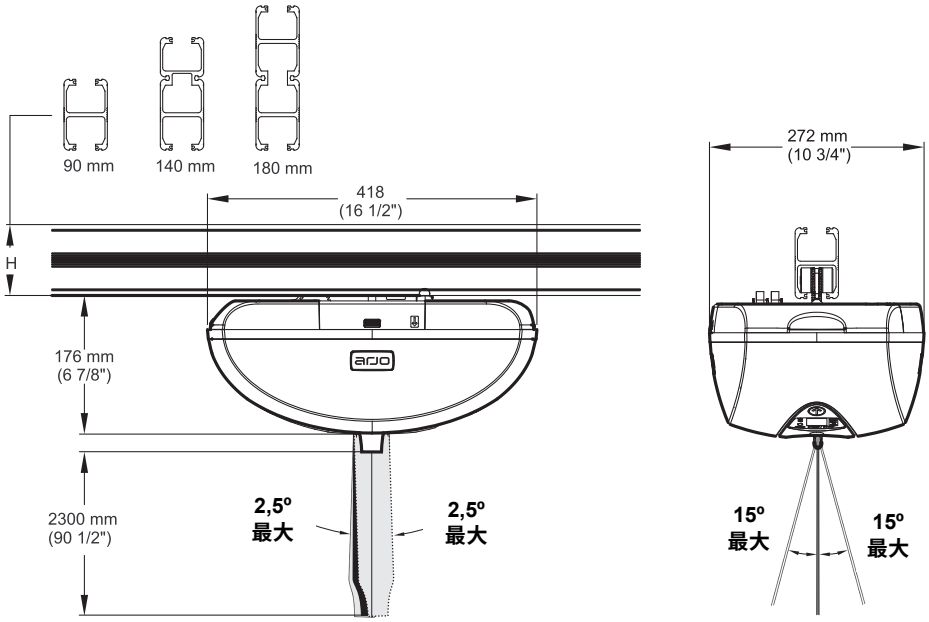
ディスプレーはバッテリー充電状態を示すが、患者の移乗を試みるとリフトが停止してしまう。	• 最寄りの Arjo 代理店にご連絡の上、そのバッテリーの交換をご依頼ください。
手元スイッチのボタンを押してもリフトが作動しない。	• 緊急停止機能が起動されている場合、電源投入スイッチをゆっくりと押し上げて本製品の電源をオンにしてください。 • 本リフトの補助用上昇 / 下降ボタン（表示部の近くにあります）が動作しているかどうかチェックしてください。機能している場合は、手元スイッチに問題がある可能性があります。 • 最寄りの Arjo 代理店にご連絡の上、その手元スイッチの交換をご依頼ください。
手元スイッチの上昇ボタンだけが動作しない。	• ストラップが完全にリフト内に収納されているか確認してください。 • 吊り上げ中にストラップがねじられていないか、折られたりしていないかどうかを確認します。ボタンを押し、ストラップをほどき、または広げて、ストラップの角度仕様に従い、アップ機能を有効にします。 • ディスプレーに誤動作コード（「表示記号」セクションを参照）を示す場合は、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。 • 本リフトの補助用上昇ボタン（表示部の近くにあります）が動作しているかどうかチェックしてください。機能している場合は、手元スイッチに問題がある可能性があります。 • 最寄りの Arjo 代理店にご連絡の上、その手元スイッチの交換をご依頼ください。
手元スイッチの下降ボタンだけが動作しない。	• ストラップが完全にリフト本体の外に最大長下がっているかどうか確認してください。 • 1.5 kg を超える重量がリフティングストラップにかかっているかかどうかチェックしてください。本リフトは作動するために最低張力を必要とします。 • 本製品が誤動作コードを表示している場合は、最寄りのArjo 代理店までご連絡ください。 • 本リフトの補助用下降ボタン（表示部の近くにあります）が動作しているかどうかチェックしてください。機能している場合は、手元スイッチに問題がある可能性があります。 • 最寄りの Arjo 代理店にご連絡の上、その手元スイッチの交換をご依頼ください。
手元スイッチをスプレッダーバーに掛けると RTC 機能が停止してしまう。	• 本リフトは重量の変動を検出して RTC/RTH 機能を取り消します。 • RTC/RTH 機能を起動する前に手元スイッチを掛けてください。

想定される問題	チェック事項
充電ステーションでリフトを 24 時間継続充電した後でも、LEDが依然として緑に点滅している。	• バッテリーが充電できないか、または充電ステーションもしくは WCS コネクタに不具合がある可能性があります。 • 最寄りの Arjo 代理店にご連絡の上、そのバッテリーの交換または充電ステーションの保守をご依頼ください。
ECS：低バッテリー残量状態でリフトを起動した後に 15 分経過しても、リフトの緑 LED が点滅しない。	• 壁充電器が標準コンセントに接続されているかどうかチェックしてください。 • 壁充電器コンセントに電気が来ているかどうかチェックしてください。 • 本充電器が、固定トラック上の ECS ケーブルに接続されているかどうかチェックしてください。 • 使用されているすべてのエクステンションが正しく接続されているかどうかチェックしてください。 • トラックの両側に沿って中断された接触ストリップがあるかどうかチェックしてください。 • トラックセクションの接触ストリップに電源が供給されているかどうかをチェックします。 • 上記すべてのチェックが OK でも、緑の LED が依然として点滅しない場合、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。
ECS：8 時間の継続充電後、ECS 記号が依然として表示され、緑の LED も依然として点滅している。	• 手元スイッチ上のボタンを押して、LCDディスプレイをオンにします。このときバッテリーアイコンは満充電になるはずです。そうならない場合、バッテリーが充電を受け付けていないか、または ECS システムに不具合がある可能性があります。 • 最寄りの Arjo 代理店にご連絡の上、そのバッテリーの交換または ECS システムの保守をご依頼ください。
ECS：バッテリーの充電シーケンスが完了したのに、バッテリーアイコンは満充電状態ではない。	充電シーケンス中に次の状態が発生した場合 （ECS アイコンが液晶画面に表示される）： • 本リフトは、接触ストリップに電源が供給されていないトラックセクションに移動しました：リフトをトラックの動力付きセクションに戻し、充電を再開します。 • 接触ストリップの電源が切れた、または電圧不足：ECS のすべてのコンポーネントをチェックし、ECS 充電能力を回復させる必要がある場合は、修理 / 交換を行ってください。 注記：充電シーケンスが開始され、液晶表示部に ECS アイコンが表示されると、停電により充電が中断されてもアイコンは消えません。
患者様の体重が68 kgを超える場合、ストラップは上限に達しません。	• 患者様を持ち上げる際に、ストラップがねじられたり折られたりしていないことを確認してください。 • ディスプレイに不具合コードが表示されていない場合： • 「up」を押してストラップをスプレッダーバーの重量のみで上限まで巻き上げます。 • 問題が解決されない場合は、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。
ゲート：X&Y システムを終了しようとしても、ゲートが作動しない。	• リフトを起動ステーションから引いて離し、起動ステーションの下に戻すと、ゲートが起動します。 • 問題が解決されない場合は、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。
Maxi Sky 2 IC 専用。 ストラップが緩むとトランスミッションで雑音が聞こえる。	LCD ディスプレイに保守コードがあるかどうか確認します。 • ない場合、それは非多孔性ストラップが生成される通常の音です。 • ある場合は、最寄りの Arjo 代理店までご連絡ください。

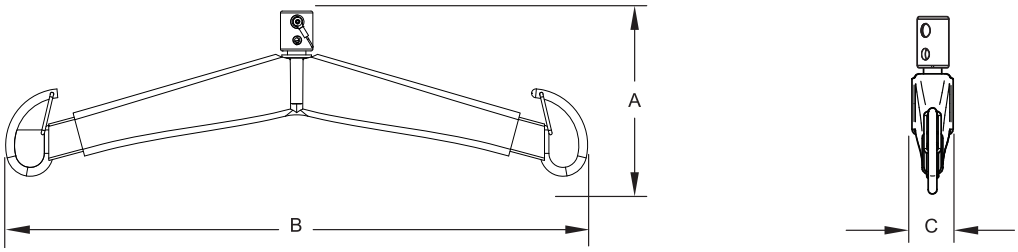
技術仕様

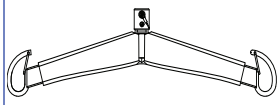
製品寸法

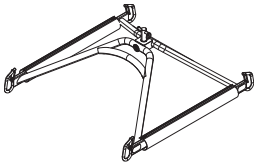
Maxi Sky 2

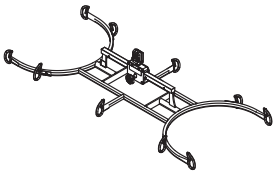


ループスリングスプレッダーバー （ベーシック天井走行リフトモデルのみ）



700-05461			
Arjo ループスリングを使用して転送を実行するために使用される 2 点式スプレッダーバー。 Arjo クレビスピン取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	206	8 1/8
	B	628	24 3/4
1.5 kg	C	45	1 3/4

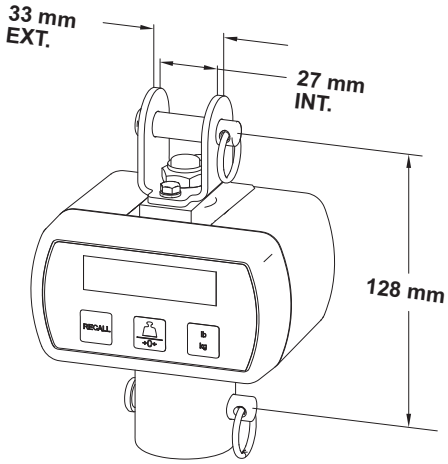
700-05443			
肥満者用に設計された 4 点式スプレッダーバー。 Arjo ループスリングを使用して転送を実行するために使用されます。 Arjo クレビスピン取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	244	9 5/8
	B	709	27 7/48
6 kg	C	692	27 1/4

700-19522			
仰臥位転送に使用されるストレッチャーフレーム。 Arjo クレビスピン取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	282	11 1/8
	B	1443	56
10 kg	C	635	25

700.05380 & 700.05385			
仰臥位転送に使用される遺モルグストレッチャー。 Arjo クレビスピン取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	1525	60
	B	265	10 1/2
	スタンダードベルト	1195/1450	47/57
8.9 kg	長ベルト	1830/1195	72/47

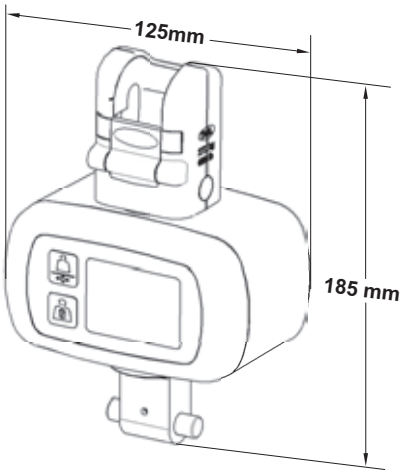
体重計

ベーシック天井走行リフトモデル



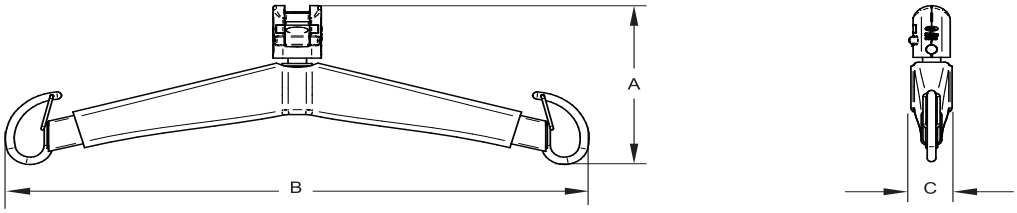
型式	700-19485	700-19490
型式	規格	クラス III
重量	0.7 kg	

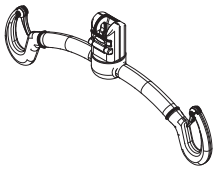
Maxi Sky 2 天井走行リフトおよび感染管理モデル

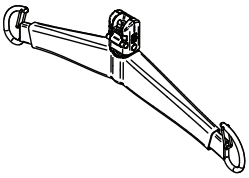


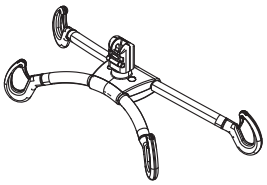
型式	700-00511	700-00531
型式	規格	クラス III
重量	0.7 kg	

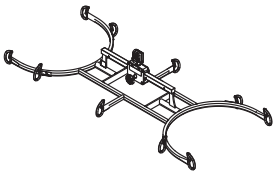
ループスリングスプレッダーバー



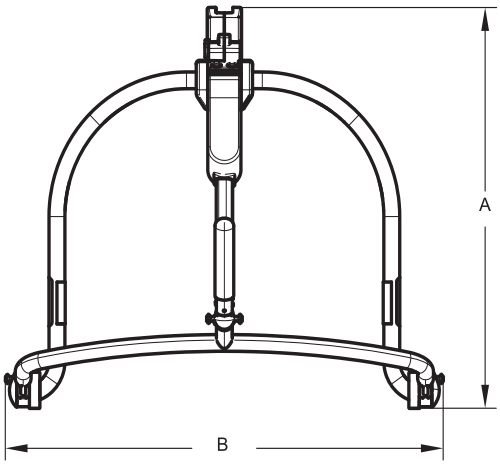
700-19420			
Arjo ループスリングを使用して転送を実行するために使用される 2 点式スプレッダーバー。Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	187	7 3/8
	B	474	18 11/16
2.5 kg	C	57	2 1/4

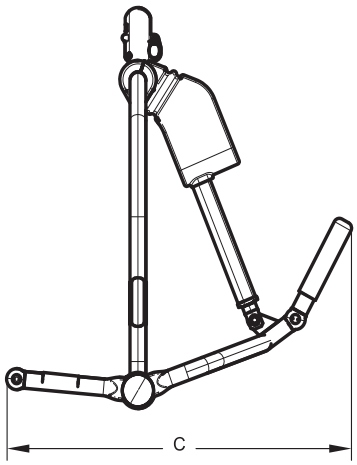
700-19415 （700-19435、米国市場のみ）または 700-19470 （700-19465、米国市場のみ）			
Arjo ループスリングを使用して転送を実行するために使用される 2 点式スプレッダーバー。Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	206	8 1/8
	B	628	24 3/4
1.5 kg	C	45	1 3/4

700-19430			
Arjo ループスリングを使用して転送を実行するために使用される 4 点式スプレッダーバー。Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	200	7 7/8
	B	650	25 9/16
4.4 kg	C	254	10

700-15695			
仰臥位転送に使用されるストレッチャーフレーム。Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。			
		mm	in
	A	282	11 1/8
	B	1443	56
10 kg	C	635	25

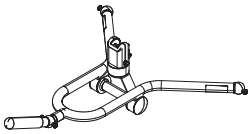
DPS スプレッダーバー





700-19475
（ベーシック*天井走行リフト*モデルには対応しない）

Arjo クリップスリングを使用したさまざまな位置からの転送に使用される 4 点式キャリーバー。Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。

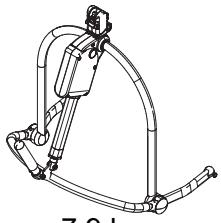


3.4 kg

	mm	in
A	194	7 5/8
B	552	21 11/16
C	638	25 3/16

700-19350
（ベーシック*天井走行リフト*モデルには対応しない）

Arjo クリップスリングを使用して患者様を座位から横臥位に持ち上げるのに使用する 4 点式パワーキャリーバー。 Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。

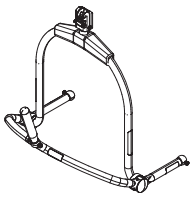


7.9 kg

	mm	in
A	610	24
B	620	24 3/8
C	547	21 1/2

700-19480
（ベーシック*天井走行リフト*モデルには対応しない）

Arjo クリップスリングを使用して患者様を座位から横臥位に持ち上げるのに使用する 4 点式キャリーバー。Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。

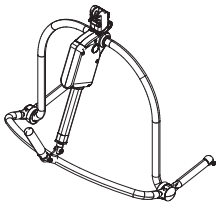


5.7 kg

	mm	in
A	604	23 3/4
B	582	22 15/16
C	503	19

700-19355
（ベーシック*天井走行リフト*モデルには対応しない）

Arjo クリップスリングを使用して患者様を座位から横臥位に持ち上げるのに使用する 4 点式パワーキャリーバー。 Arjo *Quick-Connect* システムでの使用を前提として設計されています。



8.4 kg

	mm	in
A	610	24
B	700	27 1/2
C	547	21 1/2

700-19340
（ベーシック*天井走行リフト*モデルのみ）

Arjo クリップスリングを使用して患者様を座位から横臥位に持ち上げるのに使用する 4 点式キャリーバー。Arjo クレビスピン取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。

5.7 kg

	mm	in
A	604	23 3/4
B	582	22 15/16
C	503	19

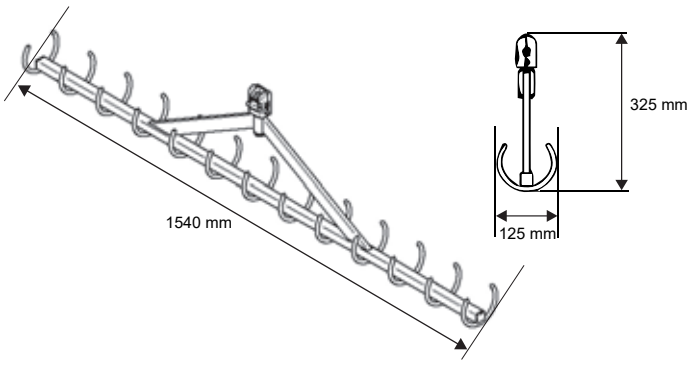
700-19200
（ベーシック*天井走行リフト*モデルのみ）

Arjo クリップスリングを使用したさまざまな位置からの転送に使用される 4 点式キャリーバー。Arjo クレビスピン取り付けシステムでの使用を前提として設計されています。

8.4 kg

	mm	in
A	194	7 5/8
B	552	21 11/16
C	638	25 3/16

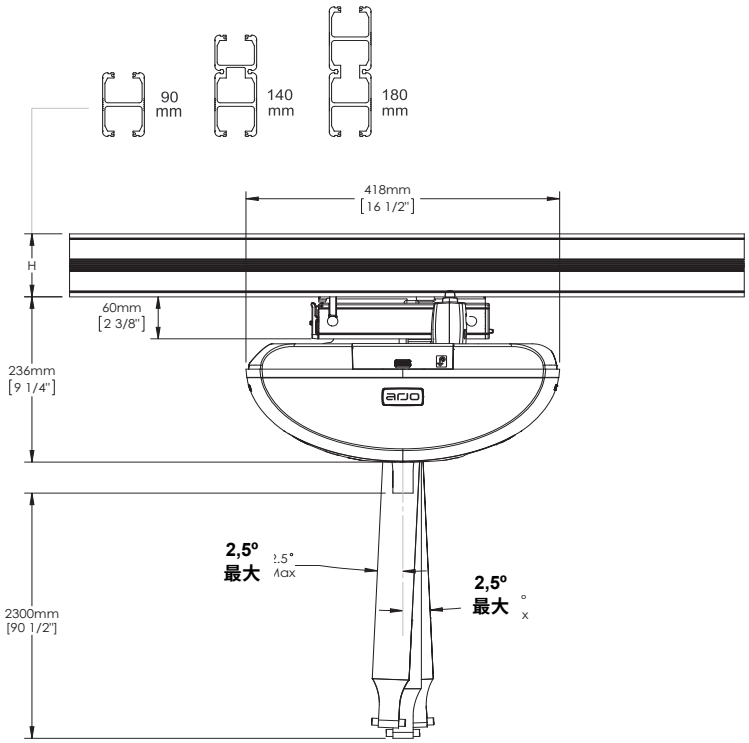
モルグストレッチャー



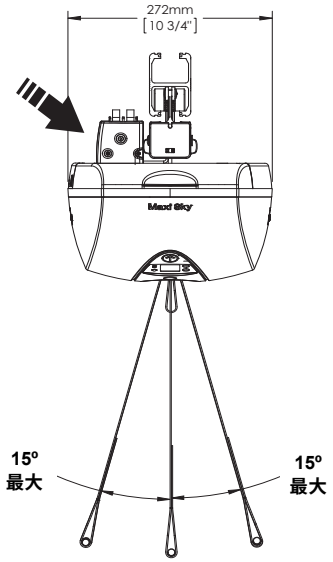
型式	700-05382	700-05387
型式	スタンダードベルト	大型ベルト
重量	8.9 kg	

Maxi Sky 2 ポータブル型

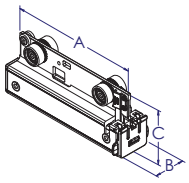
トラックエンドストッパーを取り外したり、ツールを使用したりすることなく、ある KWIKtrak™ から別の KWIKtrak™ への *Maxi Sky 2* 天井走行リフトの再配置を可能にすることを目的とした受け入れモジュール。

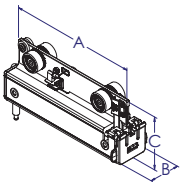


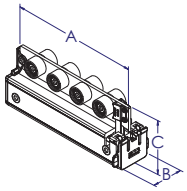
充電ステーションのバージョン表示



受け取りモジュール

700-31400 （充電ステーション）			
		mm	in
	A	243	9 5/8
	B	72	2 7/8
0.89 kg	C	102	4

700-31401 (ECS)			
		mm	in
	A	243	9 5/8
	B	72	2 7/8
0.92 kg	C	102	4

700-31421 （カーテンギャップ）			
		mm	in
	A	243	9 5/8
	B	72	2 7/8
0.98 kg	C	96	3 3/4

技術データ

製品情報	*Maxi Sky 2*
全重量 （4- 機能モデル）	12.3 kg
全重量 （2- 機能モデル）	11.6 kg
最大安全耐荷重	120 kg, 200 kg, 272 kg
ストラップ長	2500 mm
持ち上げスピード	5.1 cm/s　負荷なし 4.2 cm/s：120 kg 負荷時 3.8 cm/s：200 kg 負荷時 3.3 cm/s：272 kg 負荷時
最大ストローク （天井から）	2300 mm
水平方向の変位 （移動）速度	10、 15 および 20 cm/s
移乗の操作力	< 5 N
電気仕様	
デューティサイクル	上昇 / 下降モーター：　最大 10%、 2 分間連続 左 / 右モーター：　最大 20%、 5 分間連続 座位 / リクライニングモーター：最大 10%、 2 分間連続
水平軸モーター	24 VDC, 62 W
垂直軸モーター	24 VDC、 360 W で最大 2 分間
定格	24 VDC、 15 A 最大
負荷 / 無負荷での昇降時のノイズレベル	61 dBA 最大 （負荷ありまたは負荷なし）
ヘルスケア・福祉機器	IEC 60601-1 に基づく感電に対する BF 型保護
警告：ポータブル RF 通信機器 （アンテナケーブルや外部アンテナなどの周辺機器を含む）は、メーカー指定のケーブルを含む *Maxi Sky 2* リフトのすべての部品から 30 cm 以上離して使用しなければなりません。守らない場合、この機器の性能が低下することがあります。詳細は 「電磁両立性」セクションを参照してください。	
バッテリータイプ	12 V、 5 Ah、充電式・制御弁式 （密閉形）鉛蓄電池
バッテリー容量	100 kg 負荷にて最高移乗回数 120 回、200 kg 負荷で最高移乗回数 70 回
保護等級 - 手元スイッチ	IPX7
保護程度 - *Maxi Sky 2*	IP24
リフト - 保護クラス - 感電防止	内部電源機器
バッテリー充電器入力	100-240 VAC, 50-60 Hz, 57 - 70 VA.
バッテリー充電器出力	28.1 VDC, 1 A max, 28.1 VA
バッテリー充電器の安全保護	クラス 2、二重絶縁
操作、運搬および保管条件	
正常な操作	周囲温度範囲：5°C ～ 40°C 相対湿度範囲：15% ～ 93%、結露なきこと 大気圧範囲：700 hPa ～ 1060 hPa
運搬 / 保管	周囲温度範囲：-40°C ～ 70°C 相対湿度範囲：0% ～ 93%、結露なきこと 大気圧範囲：500 ～ 1060 hPa
警告：本製品は、空気や酸素、または亜酸化窒素との可燃性麻酔薬混合ガスがある所では使用、または保管しないで下さい。	

承認および規格リスト

Maxi Sky 2 シリーズの天井走行リフトは以下の規格に従ってテストされています：

- カナダ規格協会：
  - IEC 60601-1 シリーズ。適用される追加基準および国ごとの相違を含む。
- Technischer Überwachungs-Verein：
  - ISO 10535：2006 規格
- CE マーク：

寿命後の安全な廃棄

梱包	段ボール箱、リサイクル可能 発泡スチロール (EPS)、リサイクル可能
製品および付属品	スリングバー、レール、レール保持部材のような主にさまざまな金属で構成される部品（重量で 90% 以上が金属）は、金属としてリサイクルしてください。
バッテリー	製品に付属しているすべてのバッテリーは別々にリサイクルしなければなりません。バッテリーは、国または地方条例に従って廃棄してください。
電気および電子部品	電気および電子部品または電気コードがあるリフト関連製品は、電気・電子機器の廃棄 (WEEE) または地方自治体あるいは国の法令に従って分解し、リサイクルしてください。
スリング	補強材、安定材、緩衝材およびその他の繊維またはポリマー、プラスチック材等を含むスリングは、可燃性廃棄物に分類してください。

電磁コンプライアンス

Maxi Sky 2 は、外部ソースから EMI （電磁干渉）を遮断する能力に関して現行の規制基準への準拠がテストされています。しかしながら、一部の手順は電磁干渉の軽減に役立ちます。

- 患者様のモニタリングおよび / または生命維持装置などが、電磁エミッション規格に準拠しているか確認してください。
- 電子医療機器装置間の距離を最大にしてください。高周波・高出力デバイスは本リフトに影響を与える可能性がある EMI を発生することがあります。

本製品の RF （無線周波数）電磁環境をどう管理するかについての詳しい情報は、 AAMI TIR 18-1997 - Guidance on Electromagnetic Compatibility of Medical Devices for Clinical/Biomedical Engineers（臨床技師 / 医用生体技師のための医療装置の電磁両立性に関するガイダンス）を参照してください。

警告：Arjo が指定または提供していないアクセサリー、コード、交換部品を使用すると、この機器における電磁エミッションの増加または電磁イミュニティの減少を引き起こし、不適切な動作につながる可能性があります。

警告：本製品を他の機器に隣接して、または他の機器と積み重ねて使用すると、誤作動することがあります。このような使用法が必要な場合、本製品と他の機器を観察して、正常に作動しているか、まず確認してください。

警告：本製品は電波障害を起こしたり、近くの機器の動作を妨害することがあります。まわりの機器の再配線、再配置あるいは場所を隔離するなどの措置が必要になることがあります。

電磁エミッション

ガイダンス およびメーカーの宣言 電磁エミッション - 全機器およびシステム用		
Maxi Sky 2 は以下に指定する電磁環境での使用を目的としています。 *Maxi Sky* 2 の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で使用できる事を確認しなければなりません。		
エミッション試験	**コンプライアンス**	**電磁環境 – ガイダンス**
RF エミッション CISPR 11	グループ 1	*Maxi Sky* 2 は RF エネルギーをその内部機能のためにのみ使用します。従って、その RF エミッションは非常に低いため、近隣の電子機器に何らかの影響を及ぼし難くなっています。
RF エミッション CISPR 11	クラス B	*Maxi Sky* 2 は、家庭用施設、および家庭用に使われる建物に供給する公共低電圧電力供給ネットワークに直接接続されたものを含む、あらゆる施設での使用に適しています。
高調波エミッション IEC 61000-3-2	クラス A	
電圧変動 / フリッカーエミッション IEC 61000-3-3	準拠	

電磁イミュニティ

ガイダンスおよびメーカーの宣言 - 電磁環境耐性 - 全機器およびシステム用			
Maxi Sky 2 は以下に指定する電磁環境での使用を目的としています。 *Maxi Sky 2* の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で使用できる事を確認しなければなりません。			
イミュニティ試験	**IEC 60601 試験レベル**	**コンプライアンスレベル**	**電磁環境 – ガイダンス**
静電放電 (ESD) IEC 61000-4-2	±8 kV 接触 ± 2 kV、 ±4 kV、 ±8 kV、 ±15 kV 気中	±8 kV 接触 ± 2 kV、 ±4 kV、 ±8 kV、 ±15 kV 気中	床はフローリング、コンクリートあるいはセラミックタイルにしてください。床が合成材に変更された場合、相対湿度は最低30% にしなければなりません。
電気的ファースト・トランジェント / バースト IEC 61000-4-4	±2 kV、 AC メイン用 ±1 kV、入出力ポート用 100 kHz 繰返し周波数	±2 kV、 AC メイン用 ±1 kV、入出力ポート用 100 kHz 繰返し周波数	電源品質は一般的な商用あるいは病院環境のそれと同等としてください。
Surge IEC 61000-4-5	±2 kV、交流主電源、 ライン - アース間 ±2 kV、交流主電源、 ライン - アース間	±2 kV、交流主電源、 ライン - アース間 ±2 kV、交流主電源、 ライン - アース間	
電源入力ライン IEC 61000-4-11 上の電圧降下、短時間停電および電圧変動	0% U_T; 0.5 サイクル 0°、 45°、 90°、 135°、 180°、225°、270° および 315° にて 0% U_T; 1 サイクルおよび 70% U_T; 25/30 サイクル 単相：0° にて 0% U_T; 250/300 サイクル	0% U_T; 0.5 サイクル 0°、 45°、 90°、 135°、 180°、 225°、 270° および 315° にて 0% U_T; 1 サイクルおよび 70 % U_T; 25/30 サイクル 単相：0° にて 0% U_T; 250/300 サイクル	
電源周波数 (50/60 Hz) IEC 61000-4-8	30 A/m 50/60 Hz	30 A/m 50/60 Hz	電力周波数磁場は、一般商用または病院環境での典型的な場所での特性レベルである必要があります。
注記： U_T は、テストレベルの適用前における AC 電源の電圧です。			

ガイダンスおよびメーカーの宣言 - 電磁環境耐性 - 全機器およびシステム用			
Maxi Sky 2 は以下に指定する電磁環境での使用を目的としています。 *Maxi Sky 2* の顧客またはユーザーは、製品がこの様な環境下で使用できる事を確認しなければなりません。			
イミュニティ試験	**IEC 60601 試験レベル**	**コンプライアンスレベル**	**電磁環境 – ガイダンス**
伝導性 RF IEC 61000-4-6	0.15 ～ 80 MHz 間の ISM 周波数帯外 3V 0.15 ～ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア 無線周波数帯内 6V	0.15 ～ 80 MHz 間の ISM 周波数帯外 3V 0.15 ～ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア 無線周波数帯内 6V	該当なし
放射 RF IEC 61000-4-3	10 V/m 80 MHz ～ 2.7 GHz	20 V/m 80 MHz ～ 2.7 GHz	該当なし
RF 無線通信機器 の近接フィールド IEC 61000-4-3	380 ~ 390 MHz 27 V/m; PM 50%; 18 Hz 430 ~ 470 MHz 28 V/m; (FM ±5 kHz, 1 kHz 正弦) PM; 18 Hz 800 ~ 960 MHz 28 V/m; PM 50%; 18 Hz 1700 ~ 1990 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 2400 ~ 2570 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 5100 ~ 5800 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz 704 ~ 787 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	380 ~ 390 MHz 27 V/m; PM 50%; 18 Hz 430 ~ 470 MHz 28 V/m; (FM ±5 kHz, 1 kHz 正弦) PM; 18 Hz 800 ~ 960 MHz 28 V/m; PM 50%; 18 Hz 1700 ~ 1990 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 2400 ~ 2570 MHz 28 V/m; PM 50%; 217 Hz 5100 ~ 5800 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz 704 ~ 787 MHz 9 V/m; PM 50%; 217 Hz	該当なし

ページは意図的に空白にしています

AUSTRALIA
Arjo Australia
Building B, Level 3
11 Talavera Road
Macquarie Park, NSW, 2113,
Australia
Phone: 1800 072 040

BELGIQUE / BELGIË
Arjo Belgium
Evenbroekveld 16
9420 Erpe-Mere
Phone: +32 (0) 53 60 73 80
Fax: +32 (0) 53 60 73 81
E-mail: info.belgium@arjo.com

BRASIL
Arjo Brasil Equipamentos Médicos Ltda
Rua Marina Ciufuli Zanfelice, 329 PB02
Galpão - Lapa
São Paulo – SP – Brasil
CEP: 05040-000
Phone: 55-11-3588-5088
E-mail: vendas.latam@arjo.com
E-mail: servicios.latam@arjo.com

CANADA
Arjo Canada Inc.
90 Matheson Boulevard West
Suite 350
CA-MISSISSAUGA, ON, L5R 3R3
Tel/Tél: +1 (905) 238-7880
Free: +1 (800) 665-4831
Fax: +1 (905) 238-7881
E-mail: info.canada@arjo.com

ČESKÁ REPUBLIKA
Arjo Czech Republic s.r.o.
Na Strzi 1702/65
140 00 Praha
Czech Republic
Phone No: +420225092307
E-mail: info.cz@arjo.com

DANMARK
Arjo A/S
Vassingerødvej 52
DK-3540 LYNGE
Tel: +45 49 13 84 86
Fax: +45 49 13 84 87
E-mail: dk_kundeservice@arjo.com

DEUTSCHLAND
Arjo GmbH
Peter-Sander-Strasse 10
DE-55252 MAINZ-KASTEL
Tel: +49 (0) 6134 186 0
Fax: +49 (0) 6134 186 160
E-mail: info-de@arjo.com

ESPAÑA
ARJO IBERIA S.L.
Poligono Can Salvatella
c/ Cabanyes 1-7
08210 Barberà del Valles
Barcelona - Spain
Telefono 1: +34 900 921 850
Telefono 2: +34 931 315 999

FRANCE
Arjo SAS
2 Avenue Alcide de Gasperi
CS 70133
FR-59436 RONCQ CEDEX
Tél: +33 (0) 3 20 28 13 13
Fax: +33 (0) 3 20 28 13 14
E-mail: info.france@arjo.com

HONG KONG
Arjo Hong Kong Limited
Room 411-414, 4/F, Manhattan Centre,
8 Kwai Cheong Road, Kwai Chung, N.T.,
HONG KONG
Tel: +852 2960 7600
Fax: +852 2960 1711

ITALIA
Arjo Italia S.p.A.
Via Giacomo Peroni 400-402
IT-00131 ROMA
Tel: +39 (0) 6 87426211
Fax: +39 (0) 6 87426222
E-mail: Italy.promo@arjo.com

MIDDLE EAST
Arjo Middle East FZ-LLC
Office 908, 9th Floor,
HQ Building,North Tower,
Dubai Science Park,
Al Barsha South
P.O. Box 11488, Dubai,
United Arab Emirates
Direct +971 487 48053
Fax +971 487 48072
Email: Info.ME@arjo.com

NEDERLAND
Arjo Nederland BV
Biezenwei 21
4004 MB TIEL
Postbus 6116
4000 HC TIEL
Tel: +31 (0) 344 64 08 00
Fax: +31 (0) 344 64 08 85
E-mail: info.nl@arjo.com

NEW ZEALAND
Arjo Ltd
34 Vestey Drive
Mount Wellington
NZ-AUCKLAND 1060
Tel: +64 (0) 9 573 5344
Free Call: 0800 000 151
Fax: +64 (0) 9 573 5384
E-mail: nz.info@Arjo.com

NORGE
Arjo Norway AS
Olaf Helsets vei 5
N-0694 OSLO
Tel: +47 22 08 00 50
Faks: +47 22 08 00 51
E-mail: no.kundeservice@arjo.com

ÖSTERREICH
Arjo Austria GmbH
Lemböckgasse 49 / Stiege A / 4.OG
A-1230 Wien
Tel: +43 1 8 66 56
Fax: +43 1 866 56 7000

POLSKA
Arjo Polska Sp. z o.o.
ul. Ks Piotra Wawrzyniaka 2
PL-62-052 KOMORNIKI (Poznań)
Tel: +48 61 662 15 50
Fax: +48 61 662 15 90
E-mail: arjo@arjo.com

PORTUGAL
Arjo em Portugal
MAQUET Portugal, Lda.
(Distribudor Exclusivo)
Rua Poeta Bocage n.º 2 - 2G
PT-1600-233 Lisboa
Tel: +351 214 189 815
Fax: +351 214 177 413
E-mail: Portugal@arjo.com

SUISSE / SCHWEIZ
Arjo Switzerland AG
Fabrikstrasse 8
Postfach
CH-4614 HÄGENDORF
Tél/Tel: +41 (0) 61 337 97 77
Fax: +41 (0) 61 311 97 42

SUOMI
Arjo Scandinavia AB
Riihitontuntie 7 C
02200 Espoo
Finland
Puh: +358 9 6824 1260
E-mail: Asiakaspalvelu.finland@arjo.com

SVERIGE
Arjo International HQ
Hans Michelsensgatan 10
SE-211 20 MALMÖ
Tel: +46 (0) 10 494 7760
Fax: +46 (0) 10 494 7761
E-mail: kundservice@arjo.com

UNITED KINGDOM
Arjo UK and Ireland
Houghton Hall Park
Houghton Regis
UK-DUNSTABLE LU5 5XF
Tel: +44 (0) 1582 745 700
Fax: +44 (0) 1582 745 745
E-mail: sales.admin@arjo.com

USA
Arjo Inc.
2349 W Lake Street Suite 250
US-Addison, IL 60101
Tel: +1 (630) 307-2756
Free: +1 (800) 323-1245
Fax: +1 (630) 307 6195
E-mail: us.info@arjo.com

JAPAN
Arjo Japan K.K.
東京都港区虎ノ門三丁目7 番8 号
ランディック第2 虎ノ門ビル9 階
Tel: +81 (0)3-6435-6401
Fax: +81 (0)3-6435-6402
E-mail: info.japan@arjo.com

At Arjo, we believe that empowering movement within healthcare environments is essential to quality care. Our products and solutions are designed to promote a safe and dignified experience through patient handling, medical beds, personal hygiene, disinfection, diagnostics, and the prevention of pressure injuries and venous thromboembolism. With over 6500 people worldwide and 65 years caring for patients and healthcare professionals, we are committed to driving healthier outcomes for people facing mobility challenges.

ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö, Sweden
www.arjo.com

001-15698-JP